

「日印通商問題商議ノ經過ニ関スル報告書」

極
祕

日印通商問題商議ノ經過ニ關スル報告書

日印通商問題商議ノ經過ニ關スル報告書

機密

昭和九年七月十日

特命全權公使 澤田 節藏

外務大臣 廣田弘毅殿

日印通商問題商議ノ經過ニ關スル報告書
進達ノ件

客年九月下旬ヨリ本年四月中旬ニ至ル迄印度ニ於テ帝國代表委員ト
シテ本官ノ折衝シ來レル日印通商問題商議ノ經過ニ關シ帝國代表委
員隨員タリシ小瀧事務官ヲシテ作成セシメタル別紙報告書ヲ茲ニ進
達ス御査閱相成度

尙右商議中我代表部員一同ハ氣候不順ニシテ生活不便且不自由ナル
地ニ於テ全員殆ント例外ナク各種ノ病氣ニ悩サレタルニ不拘各其分
ニ應シ終始獻身的ノ努力ヲ續ケ一致結束遂ニ會商ヲ圓滿妥結ニ導キ
タルコトハ本官ノ感銘シ措ク能ハサル處ニシテ本報告提出ニ當リ特
ニ之ノ點ヲ指摘シ御承知ニ入ルルコトヲ欣懷トス

日印通商問題商議ノ經過ニ關スル報告書目次

(第一章ハ日印會商ノ大要ヲ説明シ第二章ハ同會商ヲ
縱ニ見第三章ハ之ヲ横ニ見タルモノナリ)

第一章 日印通商交渉概説

八頁

第一節 舊日印通商條約廢棄ニ至ル迄ノ經緯

" "

第二節 條約廢棄通告ヨリ日印會商開催迄ノ經緯

一一

第三節 日印會商經緯大要

一四

第四節 新條約案ノ内容

二五

第二章 印度ニ於ケル日印通商交渉經過

二八

第一節 概要

"

第二節 日本代表部ノ構成及當業者會商

三六

第三節 交渉經過

四〇

第三章 交渉事項別説明

一六三

第一節 暫定取極

"

第二節 印度ニ於ケル日本品ノ待遇問題

一六八

(A)、綿布

"

一、日本側第一回提案

一六九

二、印度側第一回提案

一七一

三、綿布割當量ト印棉買付量ノ關聯

一七四

1、關聯主義ノ承認

"

2、關聯ノ方法

一七五

3、綿布割當量ト印棉買付量

一七六

4、割當量増減率ト割當最高量

"

5、再輸出量ノ控除

一七九

四、品種別及季節別割當

一八〇

1、品種別割當

"

2、季節別割當

一八二

五、印度ノ綿布關稅

一八四

六 爲替條項ト綿布關稅ノ關係	一八六
七 緬甸ニ關スル規定	一八七
八 細目協定	一八九
1、交渉經過概要	"
2、協定ノ内容	"
九 印度綿布關稅引下ニ關聯セル暫行的措置	一九三
(B)、雜貨	一九六
一 會議前ニ於ケル印度政府ノ態度	"
二 會議當初ノ經過	二〇〇
三 貿易調節條項ノ挿入	二〇八
四 雜貨關稅引上ト日印兩代表ノ聲明	二一〇
五 雜貨關稅緩和方ニ關スル交渉	二一六
1、双方主張ノ相違	"
2、雜貨關稅法案議會通過	二一八

3、纖維工業保護關稅改正法案	二一九
第三節 日本ニ於ケル印度品ノ待遇	二二二
(A)、銑鐵	"
(B)、米	二二三
第四節 輸出入禁止制限條項	二二四
一 舊日印條約ノ第一條及第二條ニ關スル解釋	"
二 會議ニ於ケル本件提案	"
第五節 爲替條項	二二八
第六節 印度沿岸貿易問題	二三五
一 本件ニ關スル我方ノ措置方針	"
二 本件交渉經緯	二三六
第七節 英帝國特惠問題	二三九
一 舊日印通商條約ト印度ノ特惠關稅	"
二 才多ワ協定ト印度ノ特惠關稅	二四〇

三 日印會商ト特惠問題	二四一
四 本問題交渉ノ經緯	二四二
第八節 日印間使節交換問題其他	二五三
一 日印間使節交換問題	"
二 日本ノ雜貨輸出統制問題	二五四
三 蘭貢米ノ逆輸出問題	二五六
四 輸出税ニ關スル最惠國條款ト印棉ニ對スル輸出税問題	二五七
五 仲裁條項	二五八
六 綿布協定運用ニ關スル印度側ノ苦情	二六二
1、船腹割當問題	"
2、在本邦印度商ニ對スル綿布割當問題	二六三
3、カヅチヨリ印度ヘノ密輸出問題	二六五
第九節 協定ノ形式及其有效期間	二六七
一 協定ノ形式	"

二 條約及議定書ノ有效期間	二六九
附屬文書	

1. Draft Convention regarding the Commercial Relations between Japan and India.	一
2. Draft Protocol.	八
3. Notes exchanged between the chief Delegates.	一八
4. Record of Proceedings of a Meeting on the 5th January, 1934.	三〇
5. Record of Proceedings of the Final Meeting on the 19th April, 1934.	五三

第一章 日印通商交渉概説

第一節 舊日印通商條約廢棄ニ至ル迄ノ經緯

一九〇四年八月二十九日日英兩國間ニ締結セラレタル日印通商條約ハ當時印度品ヲシテ本邦ニ於ケル協定稅率ニ均霑セシメントスル印度側ノ希望ニ基キ關稅上ノ相互的最惠國待遇ヲ規定セルモノニシテ同條約ハ其後圓滿ニ實施セラレ居タルカ一九二七年印度政府ノ設定セル綿糸關稅ハ事實上英國品ニ比シ日本品ヲ差別待遇スルカ如キモノナリシヲ以テ我方ハ英國政府ニ對シ右措置カ日印通商條約ノ精神ニ反スルモノナリトシテ抗議セリ

更ニ一九三〇年印度綿業保護法ニ依リ英國品ニ特惠關稅ヲ適用シタルヲ以テ我方ハ英國政府ニ對シ右措置カ日印通商條約ノ規定ニ反スル旨ヲ以テ抗議セルカ英印兩政府ニ於テハ條約ノ規定ニ付我方ト解釋ヲ異ニシ我方數次ノ抗議ニ不拘何等ノ效果ヲ納メザリキ（詳細ハ第三章第七節參照）

爾來綿布關稅ニ就テハ特惠稅率ト一般稅率トノ差益々擴大セラレタルカ右一般稅率ノ引上ハ圓價低落ニ依リ日本綿布カ印度市場ヘ異常ナル進出ヲナスヲ阻止スルコトヲ主タル目的トセルニ不拘印度政府ハ日印條約中ニ最惠國待遇規定ノ存スル關係上諸外國綿布ニモ同様に稅率ヲ適用セリ

然ルニ日本綿布ノ對印輸出ハ高率關稅ノ賦課ニ不拘益々増加シ爲ニ印度ノ最モ重要ナル産業タル紡績業ヲ脅威シ且綿布以外ノ雜貨モ近年ニ於ケル我國ノ工業能力増進ト圓價下落ニ依ル利益トニ押サレ異常ナル對印進出ヲ爲シタルヲ以テ印度ニ於テハ國內産業保護ノ爲適當措置ヲ講スル必要アリトノ意見擡頭シ昭和七年末ニハ既ニ孟買及カトル方面ノ有力ナル商工業者團體ニ於テ日印通商條約ヲ廢棄スヘシトノ決議ヲナシ印度政府ニ對シ右趣旨ノ陳情ヲナスモノ續出シ更ニ昭和八年二月春季印度議會開催セラルルヤ孟買紡績聯合會其他ヨリ爲替補償關稅設定ノ請願出テ印度政府モ斯ル國內産業家ノ要望

ニ動カサルルヤノ形勢ヲ生シタリ依テ我方ハ在英松平大使ヲ通シ「爲替補償其他如何ナル理由ニ依ルモノト雖モ本邦品ノ印度輸入ニ際シ諸外國品ニ課スルヨリ高率ナル關稅ヲ課スルハ日印通商條約違反ナルニ付右ニ關シ英國政府及印度政府ノ注意ヲ喚起スル」旨申入レタリ尤モ右申入ニ際シ英印兩政府ノ感情ヲ刺戟センコトヲ惧レ從來主張シ來レル英特惠關稅ニ關スル我方ノ態度ニ付テハ何等言及セザリシ次第ナリ

印度政府ハ前述ノ如キ情勢ニ動カサレ遂ニ日印通商條約ヲ廢棄スルコトニ決シ四月八日印度產業保護法ナル名目ノ下ニ「外國商品カ印度ニ於テ印度產業ノ存立ヲ危クスルカ如キ異常ニ低廉ナル價格ヲ以テ賣却サレ又ハ輸入サルル場合總督ハ必要ト認ムル調査ノ後官報告示ヲ以テ當該印度產業ノ利益ヲ保護スルニ必要ナリト認メラルル程度ノ關稅ヲ賦課スルコトヲ得」トノ法案ヲ印度議會ニ提出セリ（同法案ハ同月十五日印度議會ヲ通過セリ）

第二節 條約廢棄通告ヨリ日印會商開催迄ノ經緯

「右ノ如キ次第ニ基キ客年四月十日英國政府ハ在英松平大使ヲ通シ印度政府ノ希望ニ依ル趣ヲ以テ日印通商條約第四條ノ規定ニ基キ同條約ヲ同年十月十日以後失効セシムヘキ旨帝國政府ヘ通告シ來レリ

右廢棄通告ニ接スルヤ帝國政府ハ同條約失効ニ依ル日印間無條約狀態ノ發生ヲ避クル目的ヲ以テ直ニ在英松平大使ヲシテ本件善處方ニ付英國政府ト折衝セシメタルモ同政府ハ印度ノ財政自主權ニハ干涉シ得サル旨回答シタルヲ以テ更ニ在英松平大使ト三宅總領事ヲ通シ印度政府ト交渉セシメタル處此種外交交渉ニハ英國政府ノ權限附與ヲ必要トスル旨答ヘ爾來右權限附與ニ付我方ヨリ英印兩政府ニ對シ數次ノ督促ヲ爲シタルニ不拘先方ハ荏苒時日ヲ費シ六月六日ニ至リ漸ク英國政府ヨリ「印度ニ於ケル關稅問題ヲ印度ニ於テ商議スル爲日本ヨリ代表ヲ派遣セラレ度又豫メ日本側ノ具體的

提案ヲ得テ會商前之ヲ研究シ置度シ」トノ印度政府ノ希望ヲ通告シ越シタリ右ニ對シ我方トシテハ印度ニ於テハ單ニ商議ヲ行フノミナラス條約調印迄モ了シタキ希望ヲ以テ英印兩國側ト交渉シタルモ英國政府ハ日印代表間ノ協定事項ニ付テハ協定全体トシテ印度ノ國際關係ニ如何ナル影響アリヤヲ考慮スル以外ハ其協定ノ實質ヲ倫敦ニ於テ變更スルカ如キコトナカルヘキコト並倫敦ニ於ケル右協定ノ調印ニハ何等遲延ヲ來ササルヘキコトヲ述ヘ印度ニ於ケル協定ニハ日印兩代表假署名ヲナスニ止メシメ度趣旨ヲ回答シ來レリ

其間印度ニ於テハ印度政府ボア商務長官ト在カルカ多三宅總領事トノ間ニ日印會商ニ關スル具體的打合ヲ進メ討議ノ題目ハ必スシモ關稅問題ニ限定セス日印通商ニ關スル all outstanding questions トシ又會商開催期ハ印度側ノ希望ニ依リ夏季印度議會終了後即九月二十一日以後ト決定セリ

尙印度側ヨリハ日本ノ具體案提示ヲ頻リニ求メ來レルモ我方ハ會商開催後之ヲ提出スルコトトシテ先方ノ要求ニ應セサリキ
他面日本ニ於ケル綿布關係業者ハ客年六月印度政府力綿布關稅ヲ七割五分ノ禁止の高率ニ引上ケタルニ對シ報復手段トシテ印度棉花ノ買付停止ヲ決議シ國內輿論亦此措置ヲ支持シ居レルヲ以テ印度側ノ對日感情モ少カラス惡化セラレ會商ノ前途必スシモ樂觀ヲ許ササルモノアリタリ
斯ル情勢ノ下ニ澤田代表一行ハ八月二十四日日本出發九月十九日シムラニ到着シ同月二十三日ヨリ本件交渉ヲ開始スルコトトナレリ

第三節 日印會商經緯大要

一 會商當初ノ交渉

會商劈頭印度側ハ日本ノ具體的提案ヲ求メタルモ我方ハ先ツ日印通商條約ノ有効期間延長方ニ關スル暫定取極問題ヲ審議シタル後各種懸案ニ付遂次討議スルコトヲ主張シタルヲ以テ印度側モ之ニ同意セリ

右暫定取極問題ハ印度側主張ニ基キ日印條約ノ效力ヲ一箇月間延長シ更ニ必要アル場合ハ兩代表部間ノ協議ニ依リ之カ延長方ヲ考慮スルコトトシイヨイヨ九月三十日ヨリ實質的交渉ニ入り我方ヨリ先ツ日本綿布ニ關シ印度ノ關稅引下ヲ條件トシ輸出货量ヲ制限スヘシトノ提案ヲナセリ然ルニ印度側ハ日本綿布ノ輸入ト印棉ノ輸出トヲ關聯セシメ一種ノパッケー、システムニ依ル提案ヲ考慮シ居レルヲ以テ右我方案ニ應セス當時宛モシムラニ於テ印度市場ニ關シ日英印綿布關係業者ノ會商行ハレ居タルヲ以テ本問題ハ一先

リ
ツ右當業者會商ノ討議ニ委ネ綿布以外ノ雜貨ニ關スル交渉ニ移レ

二 雜貨問題交渉

雜貨問題ハ種々討議ノ結果印度側ニ於テ日本ノ希望ヲ容レ輸出數量制限或ハ輸出價格統制等ノ條件ヲ附スルコトナク日本品ニ對シテ無條件ニ關稅上ノ最惠國待遇ヲ與ヘ第一節所述ノ產業保護法ヲ適用セサルコトヲ受諾セルカ印度國內法上ノ措置トシテ從價稅制度ヲ改メ國內產業ヲ壓迫スルカ如キ低廉ナル外國商品ニ對シテハ從量稅ヲ課スヘシトノ意嚮ヲ表明セリ斯テ雜貨ニ關スル大体ノ話合ハ既ニ十月末終了シタルカ我方トシテハ如何ニ印度側ヨリ法律上ニ於ケル無差別待遇ノ保障ヲ得タリトモ特ニ日本品ノ輸入ヲ禁止スルカ如キ高率ナル從量稅ニ依リ事實上ノ差別待遇ヲ受クレハ右保障ハ空文ニ終ルヘキヲ以テ或ハ從量稅ノ程度ヲ探求シ或ハ事實上ノ差別待遇ヲナササル保障ヲ求メ種々交渉ヲ重ネタルモ先方

ハ自國産業保護ノ立場ヨリ容易ニ我方主張ヲ認メサリシ處結局十二月四日ノ本會議ニ於テ「一方國ノ關稅變更カ相手國ノ貿易上ノ利益ニ重大ナル影響ヲ與ヘタル場合ニハ該相手國ノ求ニ依リ兩國ハ兩國ノ利害ヲ調和スル目的ヲ以テ商議ヲ開始スヘシ」トノ趣旨ノ合意成立シ右趣旨ハ新條約案中ニ挿入セラルルコトナレリ

綿布問題

他方日英印當業者會商ハ何等ノ成果ヲ納メスシテ十月中旬物別レノ態トナリタルヲ以テ綿布問題ハ其頃ヨリ再ヒ交渉ノ重要題目トナリ印度側ハ飽迄日本ノ印棉買付トノ關聯主義ヲ主張セルヲ以テ我方モ終ニ此主義ヲ認メ且綿布ノ輸入割當量ニ關シテモ昭和七年度輸入量ヲ標準トセル當初ノ主張ヲ緩和シ現實四億碼ノ輸入ヲ確保スル方針ヲ以テ印度側トノ歩寄りヲナシタル結果「一歷年度ニ於テ百萬俵ノ印棉ヲ買付ケタル場合ハ同歷年ノ四月ヨリ翌年三月末迄ノ間ニ三億二千五百萬碼ノ綿布ヲ印度ニ輸出スルコトヲ得ヘ

ク右ヲ基礎トシスライディングスケールニ依リ印棉買付一萬俵ヲ増ス毎ニ綿布輸出量ヲ百五十萬碼宛ヲ増加ス但一年間ノ輸出量ハ四億碼ヲ超過セサルコト其反對ニ印棉買付量カ百萬俵ニ充タサル場合ハ其不足量一萬俵毎ニ綿布輸出量ヲ二百萬碼宛減スルコトトシ「印度モ綿布關稅ハ從價五割又ハ一封度五安四分ノ一以下ニ引下ケ日本品ニ最惠國待遇ヲ與フルコト」ノ趣旨ニ依ル合意ヲ遂ケタリ

右基本的問題ト共ニ印度側ハ一年度分ノ綿布割當量ヲ季節別及品種別ニ分割シ以テ或短期間ニ或特定品種ノ輸入殺到スルカ如キ事態ヲ避ケンコトヲ主張セルカ我方ハ斯ル制限ハ實際ノ商取引ヲ不當ニ束縛シ對印綿布貿易ヲ至難ナラシムルモノナリトテ反對シ交渉容易ニ纏ラサリシモ結局印度側提案ヲ緩和調整シ二期別及四品種別割當ヲ認メ各期間及各品種間ニ其割當量ノ融通ヲナスコトヲ認メシムルコトトセリ

右交渉中品種別割當問題ニ關シテハ日印双方共自說ヲ堅持シテ讓
 ラス殊ニ各品種間融通ノ限度ヲ引下ケ或ハ晒布ニ對スル割當量ヲ
 増加セシメントスル我方ノ主張ニ對シ印度側ハ容易ニ妥結ノ色ヲ
 示サス會議ノ前途樂觀ヲ許ササルモノアリシ折柄日本營業者ノ爲
 シタル印棉不買決議ノ確認聲明ハ印度官民ノ輿論ヲ著シク刺戟シ
 印度代表部ハ之カ爲益々其態度ヲ強化シタルヲ以テ客年末ノ我代
 表部ハ甚シキ苦境ニ陷レルカ種々折衝ノ結果日本側ニ於テ印棉不
 買ヲ即時停止セシムル様幹旋スルコトナリ印度側モ漸ク其態度
 ヲ緩和シ品種間融通率及初年度割當量問題等ニ付讓歩シ且印棉不
 買決議撤回ト同時ニ印度ノ綿布關稅ヲ引下クルコトヲ承諾シ茲ニ
 會商妥結ノ光明ヲ見ルニ至リ本年一月五日本會議ニ於テ澤田代表
 ヨリ重要妥結事項内容ヲ聲明シ印度代表之ニ同意スル旨ヲ應答セ
 リ斯テ印棉不買決議ハ一月八日撤回セラレ同日ヨリ印度政府ハ自
 發的ニ綿布關稅ヲ兩代表部合意ノ率ニ引下ケ且右合意ニ準據シテ

輸入割當制ヲ實施セリ 爲替條項

前記綿布及雜貨問題以外ニシテ本年一月五日迄ニ妥結ヲ見タル事
 項ニハ所謂爲替條項アリ最近日印ノ通商關係ヲ甚シク變動セシメ
 終ニ印度政府ヲシテ舊日印通商條約ノ廢棄ヲ爲サシムルニ至レル
 重大誘因ハ日本ノ圓價下落ニ在ルヲ以テ印度側ハ會商當初ヨリ爲
 替變動ノ際ニ執リ得ヘキ措置ニ付何等カノ協定ヲ遂ケ置ク必要アル
 旨ヲ述ヘテ本件條項ヲ新條約中ニ挿入センコトヲ固執シテ已マ
 サリシヲ以テ我方モ會商ノ圓滿ナル妥結ヲ期スル爲該條項ノ挿入
 ニ同意シ其代リ該條項中ニハ我方ノ希望スル制限の規定ヲ織込ム
 コトヲ承諾セシメタリ

本件妥結條項ニ依レハ印度ハ現在以上ニ圓價下落シタル場合日本
 品ニ對シ爲替附加稅ヲ賦課シ得ルモ該附加稅ノ率ハ必要ノ最少限
 度ニ留メ圓價回復ノ場合ハ其率ヲ引下ケ且該稅率ハ頻繁ニ之

ヲ變更シ得サル制限ヲ附セラレ居リ日本ハ留比相場カ法定比價以下ニ下落シタル場合同様ノ措置ヲ執リ得ルコトナレリ

五 印度ニ於ケル雜貨關稅引上問題

客年末綿布問題紛糾ヲ極メ居レル際ニ當リ印度政府ハ約二十種ニ亘ル雜貨ニ對シ新ニ從量稅ヲ賦課スル爲關稅改正法案ヲ議會ニ提出シ更ニ纖維工業品ニ對スル關稅增徴ノ目的ヲ以テ本年二月纖維工業保護法案ヲ提出シタルカ之等法案ハ日本ノ對印雜貨輸出ニ莫大ナル打撃ヲ與フル惧アリタルヲ以テ我方ハ其都度各關係品目ニ關シ稅率ノ不當ニ高キコトヲ指摘シ斯ル措置ハ日本品ニ對スル事實上ノ差別待遇ニシテ從來ノ交渉ノ精神ニ悖リ新協定ノ成立ニ累ヲ及ホス懸念アル旨ヲ強調シ新稅率ノ緩和方ト將來ニ對スル印度側ノ保障トヲ求メタルカ印度側ハ前記雜貨問題一般交渉ノ際ニ於ケルト同様國內產業保護ノ立場ヨリ日本側ノ主張ニ反駁ヲ加ヘタリ尤モ一月五日本會議ノ席上ニ於テ印度側ハ今次ノ新關稅ハ印度

六 特惠問題

ニ於ケル内外品ノ公正ナル競爭狀態ヲ復活セントスル目的ニ出タルモノニシテ日本品ヲ不當ニ壓迫セントスルモノニ非サル旨ヲ辯明シ若シ日本側ヨリ其稅率ノ不當ナルコトヲ首肯セシムルカ如キ申出ヲナスニ於テハ印度政府ハ充分斯ル申出ニ對シ考慮ヲ拂フヘキ旨聲明セル關係アルヲ以テ我方ハ其後數次ニ亘リ具體的申出ヲナシ稅率ノ緩和方ヲ極力主張セルヲ以テ印度政府モ我方ノ希望ヲ參酌シ陶磁器、絹紬、絹織物類等ニ付右兩法案ニ依ル新稅率ヲ引下ケ且行政的措置ニ依リ低級品ノ稅率ヲ緩和セシメタリ

本年一月五日ノ會議ニ於テ重要懸案ニ關スル双方代表部ノ合意成立セルヲ以テ其後ニ於テハ細目的事項ノ協定ト條約案ノ起草トヲ爲ス諒解ナリシカ印度側ハ條約案ノ起草ニ際シ日本ハ英帝國諸領間ノ特惠ニハ均霑シ得サル旨ノ條項ヲ挿入センコトヲ提議セリ我方ハ斯ル重要問題ヲ新ニ提出スルハ前記諒解ニ反スルコト並日本

トシテハ條約ノ明文ニ依リ英特惠ヲ承認スルコトヲ欲セサル旨ヲ以テ極力本件撤回方ヲ主張セルカ先方ハ英本國政府ノ希望モアルニ付是非何等カノ形式ニ依リ特惠ノ承認ヲ受ケンコトヲ固執セリ斯テ本件交渉ハ遷延ニ遷延ヲ重ネ容易ニ纏マル形勢ナカリシヲ以テ我方ハ妥協案トシテ「英特惠ハ日本側ニ於テ之ヲ承認スヘキニ付印度側ハ日本カ隣接國又ハ關稅同盟國ニ許與スルコトアルヘキ特惠ヲ承認スヘシ」トノ趣旨ヲ提議セリ然ルニ印度側ハ右提案ヲ以テ本問題ヲ更ニ擴大シ解決ヲ益々困難ナラシムルモノナリトシテ之ニ反對シ英特惠ニ關スル印度側聲明ヲ議事録ニ留ムル程度ニテ妥協センコトヲ申出テタルカ我方ハ依然右我方妥協案ノ基礎ニ於テ交渉ヲ繼續セルヲ以テ終ニ印度側モ四箇月ニ亘ル折衝ノ後餘儀ナク本件提案ヲ撤回セリ

マ

仲裁條項其他

仲裁條項ハ前記特惠問題ト同様條約案起草ノ段取リニ至リタル後

印度側ヨリ提議セラレタルモノナルガ右ハ條約ノ適用及解釋ニ關シ兩締約國間ニ紛議生シタル場合ハ國際司法裁判所又ハ兩當事國ノ協定ニ依リ成立スヘキ仲裁裁判ニ之ヲ附託シ其審判ニ服スヘキ旨ヲ規定セルモノナリ

我方ハ今次協定ノ如ク有効期間短ク且單ニ通商關係ヲ律スルニ過キサル條約ニ斯ル規定ヲ設クルコトハ不適當且不必要ナル旨ヲ述ヘ右撤回方ヲ主張セルカ先方ハ綿布協定ノ如キ複雑ナル條項ヲ含ムモノニハ是非何等カノ形式ニ依ル仲裁ノ規定ヲ設クル必要アリトテ容易ニ妥協セサリシカ特惠條項削除方ニ關スル我方ノ主張仲強硬ナリシヲ以テ我方カ特惠ニ關スル印度案ヲ受諾スルコトヲ條件トシテ仲裁條項ヲ撤回スヘキ旨先方ヨリ申越セリ其後我方ノ主張貫徹セラレ特惠條項ハ全然削除セラレタルモ印度側ヨリ仲裁條項挿入ノ主張ヲ繰返ササリシヲ以テ本問題モ其儘立消トナレリ尙一月五日ヨリ四月十九日迄ノ間ニハ前記ノ如ク(一)特惠及仲裁條

項ノ討議(二)印度雜貨關稅緩和方ニ關スル交渉(三)條約案ニ關スル打合等ノ外ニ(四)綿布協定ノ運用ニ關スル細目取極ヲ爲シ四月十九日最終會議席上ニ於テ双方首席代表間ニ右取極ニ關スル書翰ノ交換行レタリ尙其ノ他ニ(五)印度側ヨリ持出シタル印度沿岸貿易問題ノ討議及(六)綿布協定ノ實際運用ニ關スル印度關係業者ノ苦情ニ付テノ話合等ヲナセルカ右(四)及(六)ニ關シテハ何等具体的妥結案ヲ見スシテ會商ヲ終了セリ

第四節 新條約案ノ内容

今次會商ノ結果兩代表部間ニ成立セル重要合意事項ヲ取纏メタル新日印通商條約案及之ニ附屬スル議定書案ハ去ル四月十九日日印双方ノ各代表ニ依リ假署名ヲ爲サレタルヲ以テ直チニ倫敦ニ於テ日英兩國全權ニ依リ條約調印ノ正式手續ヲ行フ筈ナリシカ右案文中ノ字句ニ關スル訂正並條約ノ適用區域問題(第三章第八節六、三末尾參照)ノ爲未タ調印ノ運ヒニ至ラス

右條約案ノ内容ヲ略記スレハ左ノ如シ

(一)日印通商條約案

第一條 適用區域(日本側)日本ノ全領土及屬地、印度側)英領印度及本條約ノ規定ニ關シ英領印度ト同一地位ニ在ル印度土侯

國)

第二條 輸入關稅ニ關スル相互的最惠國條款

第三條 爲替條項

- 第四條 貿易調節ノ爲ノ商議規定（前節三、末尾参照）
- 第五條 批准規定（本條約ハ批准書交換ニ先立チ兩締約國間ノ批准完成ノ通知中後ニ爲サレタル通知ノ日ヨリ實施セラルヘシ）
- 第六條 有効期間及廢棄規定（一九三七年三月三十一日迄有效トシ廢棄豫告期間ヲ六箇月トス

(二) 議定書案

前文ニ本議定書ハ日本國綿布ノ印度ヘノ輸入ニ關シ規定スル旨ヲ明記ス

- 第一條 議定書中ノ用語ノ意義
- 第二條 印度ノ綿布關稅率
- 第三條 綿布輸出量ト印棉買付量トノ關聯ニ關スル規定
- 第四條及第五條 二期別割當及兩期間ノ割當量融通ニ關スル規定
- 第六條 議定書ノ發效日ト割當量起算日トノ關係
- 第七條 品種別割當及各品種間ノ割當量融通ニ關スル規定

- 第八條 本議定書ト日印通商條約第二條及第三條トノ關係
- 第九條 效力發生ノ日ト有効期間（前記本條約ト同時ニ效力ヲ發シ一九三七年三月三十一日迄有效トシ廢棄規定ヲ設ケス從テ本議定書ノ效力ハ一九三七年三月末日以後ニ延長セラルコトナシ）

別添條約案及議定書案ハ四月十九日假署名シタルヲキストニ依レルモノニシテ其後倫敦ニ於テ多少字句ノ修正ヲ施サレタリ

第二章 印度ニ於ケル日印通商交渉經過

第一節 概要

下着印當時ノ雰圍氣

昭和八年八月廿四日本邦ヲ出發セル我代表ノ一行ハ新嘉坡ニ於テ二途ニ分レ澤田寺尾兩代表及代表部員並同行ノ本邦新聞記者ハカハルカヲ經由シムヲニ向ヒ代表顧問又ハ外務省囑託ノ資格ニ於テ代表部ヲ輔佐スル爲同行セル民間當業者ハ孟買經由シムヲニ赴ケルカ（尤モ双方聯絡ノ便宜上政府側一行ニ民間當業者一名ヲ加ヘ民間側一行ニ代表隨員一名ヲ加ヘ置ケリ）印度政府ニ於テハ九月十四日代表一行カハルカヲニ上陸スルヤベンゴール省政府高級官ヲシテ歡迎ノ任ニ當ラシメ且一行ノ爲カハルカヲヨリシムヲ迄特別列車ヲ提供セリ又印度政府ハ豫メ在カハルカヲ三宅總領事ヲ通シ日本ヨリ特ニ會議ノ爲來印セル政府代表一行全部ヲ會議中印度政府ノゲストトシテ待遇シ度旨申出テタルカ我方ハ右好意ニ謝意ヲ表スルト同時ニゲストハ代表ノ

ミニ限り其期間ハ大体一週間位ニ打切ル様申入タリ然ルニ先方ニ於テハ既ニ右豫算ハ議會ヲ通過シ居リ種々手配濟ノ次第モアリ最初ノ申出通受諾方希望セルヲ以テ結局特ニ會議ノ爲日本ヨリ來印セル政府側一行並倉田伊藤兩顧問及門野重九郎氏ハシムヲ滯在中ゲストノ待遇ヲ受クルコトナレリ尙印度各新聞ハ日印會商ヲ以テ印度カ初メテ先進國ト對等ニ商議ヲナス機會ナリトシ日本代表部ノ來印ヲ歡迎シリ又在印邦人ハ固ヨリ印度民間諸團體モヨク我代表部ノ歡迎ニ努メタリ

然ルニ印度政府ハ我代表部ニ對シ努メテ歡迎ノ意ヲ表シタル反面ニ於テ稍モスレバ離反シ勝ナル民心ノ動搖ヲ惧レ且會議ヲ日本側ニ有利ニ導クカ如キ雰圍氣ノ醸成ヲ避ケンカ爲我代表部ノ行動ヲ極力警戒シ居レル趣ニシテ右警戒ノ事實ハ種々ノ機會ニ於テ我代表部員ノ窺知シ得タル處ナリ

又會商ノ將ニ開始セラレムトスルニ先チ傍聽者トシテ來印シ居タル

在京英國大使館商務參事官 **サンソム** 氏ハ一日澤田代表ヲ來訪シ
 自分ハ此ノ種ノ虞絶對ニナシト思考スルモ印度側ニ於テハ今回會商
 ニ際シ必要ト思ハルル以上多數ノ日本人來印シ特ニ新聞記者ノ多數
 ナルコトハ日本側ニ於テハ今回會商ノ機會ニ印度ニ對シ内々何等カ
 ノ策動ヲ意圖シ居ルニ非サヤトテ相當神經ヲ尖ラシ居ル趣旨ノ内話
 アリタルニ付澤田代表ハ今回渡印ノ日本人ニシテ印度民心ヲ煽動ス
 ルカ如キコトアラハ極メテ重大ナル結果ヲ招來スヘク會商モ之カ爲
 ニ不成功ニ終ハルヘキコトヲ懸念シ居ルニ付慎重ニ行動スル様日本
 人全部ニ對シ常ニ注意ヲ喚起シ置ケル次第ニ付印度側ノ懸念セラル
 ルカ如キコトハ萬ナシト確信スルモ今後自分ニ於テモ精々本件ニ付
 我方ノ意ヲ用ヒ居ル次第ハ印度當局ニ詳シク説明シ置カレ度キ旨應
 酬シ置キタルコトアリ又印度内民間一般ノ注意モ齊シク我代表部ノ
 言動ニ注カレ居タルヲ以テ代表部トシテハ印度官民ヲ刺戟スルカ如
 キ言動ヲ慎シミ實質商議ニ入ルニ先タチ且商議中モ出來得ル限り印

度側ノ對日感情好轉ヲ計ル様種々努力ヲ重ネタリ
 ⇒信任狀問題

印度政府商務次官ハ九月十九日附三宅總領事宛書翰ヲ以テ澤田、寺
 尾兩代表ハ日本政府ノ**クレデンシヤル**ヲ持參セサルニ付印度政府代
 表者トノ訪問交換ハ先ツ非公式ニ之ヲ行ヒタル上實質商議ニ入ルコ
 トトシ協定ニ假署名ヲ爲ス場合ハ豫メ日本側代表者カ日本政府ヨリ
 其權限ヲ受ケタルコトヲ示スヘキ書面ノ提示ヲ受ケ度旨申越セリ
 依テ三宅總領事及松島書記官ハ先方係官ヲ往訪シ日本政府ハ英印側
 ノ希望ニ依リ新協定ノ調印ハ倫敦ニ於テ之ヲ行フコトヲ受諾シ且印
 度政府ノ希望ニ依リ印度ニ於ケル會商ノ爲代表ヲ任命派遣セル次第
 ナルカ右ノ趣ハ八月末英國政府ヲ通シ印度側ニ通知済ナルニ付別ニ
クレデンシヤル等ノ必要ナキ次第ヲ述ヘタルモ先方ハ從來他國代表
 者カ印度政府代表者ト會議ノ爲來印スル場合ハ少クトモ自國政府ヨ
 リノ紹介狀ヲ持參スルヲ例トシ居ル旨ヲ述ヘ容易ニ我方ノ主張ヲ首

肯セサリシヲ以テ種々話合ノ末兩代表ノ任命狀ハ追テ東京ヨリ取寄セ印度側ニ呈示スルコトトシ双方代表間ノ訪問交換ハ公式非公式等ノ形式ニ拘泥スルコトナク九月二十二日之ヲ行フコトナレリ（其後兩代表ノ任命狀東京ヨリ接到セルヲ以テ之ニ英譯文ヲ附シ先方ニ送付シ置ケリ）本問題ハ印度側ニ於テ此種經驗少キ爲何等力誤解ニ基キ惹起セラレタルモノト思料セラルモ又一面印度政府ノ警戒的態度ノ一端ヲ表現シタルモノトモ謂ヒ得ヘシ然ルニ滯印七箇月ノ間我方官民ハ極メテ紳士的ナル態度ヲ持シ殊ニ印度内政ニ關スルカ如キ言動ハ絶對ニ之ヲ避ケタルヲ以テ印度政府側ノ我代表部ニ對スル態度ハ一變シテ極メテ懇切丁寧トナリ從テ會議ノ結末ニ於テ條約案ニ假署名スルトキニ際シテモ權限等ノ問題ニ付イテハ全然之ニ言及スルモノナク會商當初ニ於ケル雰圍氣トハ格段ノ相違ヲ見タリ

≡交渉概要

實質交渉ハイヨイヨ九月二十三日ヨリ開始セラレ同年十月十九日迄

ハ夏季ニ於ケル印度政廳ノ所在地タルシムラニ於テ之ヲ行ヒ同月二十三日ヨリ冬季ニ於ケル同政廳ノ所在地タルニュー、デリーニ於テ續行シ昭和九年四月十九日終ニ新日印通商條約及議定書ノ案文ニ對シ双方代表ノ假署名ヲ了シ日印間ニ於ケル通商交渉ハ茲ニ結末ヲ告ケ澤田代表ハ代表部員ノ一部ヲデリーニ殘シ殘務ヲ整理セシメ隨行者ヲ帶同シテ四月二十一日同地ヲ出發印度政府ノ提供セル特別列車ニテ孟買ニ赴キ孟買省知事其他ヨリ歡迎ヲ受ケタル後同月二十四日歸朝ノ途ニ就ケリ

本會商中双方代表部間ノ交渉ハ一、本會議二、首席代表間ノ私的會談三、個々ノ問題ニ關スル双方代表部員會合（假ニ委員會ト稱ス）四、代表部間文書ノ往復ノ四箇ノ形式ニ依リテ行ハレタルカ何レモ之ヲ公開セス本會議ノ經過ニ付テノミ双方代表部合意ニ依ルプレス、コンシユニケヲ發表セリ

本會議出席者左ノ如シ

日本側	代表	特命全權公使	澤田 節藏
		商工省貿易局長	寺尾 進
		總領事	三宅 哲一郎
	代表代理	大藏書記官	飯田 九州雄
	隨員	領事	原 明治郎
		大使館一等書記官	松島 鹿夫 (日本側事務總長)
		外務事務官	吉田 寬
		領事官補	小瀧 彬
		商工事務官	橋井 眞
印度側	代表	商務及鐵道長官	サー ジョセフ ボア
		教育土地及衛生長官	サー ファズリ フセン
		工業及労働長官	サー フランク ノイス
	隨員	帝國農事諮問會副議長	サー テイ フイジャヤラクワバチャリア

隨員	商務及鐵道次官	エイ、テイ、スチュワート (印度側事務總長)
	中央稅務局長	デー、エス、ハーデイ
	工業及労働次官補	エイ、ヂー、クロー
	農事専門官	ビー、シー、バート
	商報局長	デイ、ビー、ミーク博士
	商務及鐵道省首席書記官	エヌ、アール、ビレー
右ノ外在東京英國大使館商務參事官ヂー、ビー、サンソムハ客年十一月迄オプザバートシテ本會議ニ出席セリ		
委員會ハ個々ノ問題ニ從ヒ双方代表部隨員中ノ事務擔當者ヲ以テ組織シ先方ハスチュワート次官ヲ中心トシハーデイ氏ミーク博士及條約案起草者タル工業及労働次官ミツチエル氏主トシテ之ニ参加シ我方ハ松島書記官ヲ中心トシ吉田、橋井兩事務官小瀧官補之ニ出席セリ		
文書ノ往復ハ相互ニ首席代表又ハ事務總長ノ名ヲ以テ之ヲ行ヒタリ		

第二節 日本代表部ノ構成及當業者會商

日本代表部ノ構成ハ大要左ノ如シ

代表 澤田公使、寺尾貿易局長、三宅總領事

代表代理 飯田大藏書記官

代表部員

事務總長

松島 書記官

電報及雜貨關係主任 原 領事

雜貨及當業者關係 橋井 事務官

會議係 英文作成條約起草等 吉田 事務官

會議事務條約起草等 小瀧 官補

會計及庶務主任 杉田 囑託

(シムラ滯在中) 望月 副領事

文書及庶務係 飯田 書記生

櫻井 屬

電信係

川崎 屬

小川 書記生

尙代表委員顧問倉田、伊藤及千田ノ三氏並大日本紡績聯合會ノ招聘ヲ受ケ來印セル門野重九郎氏ハ種々我代表部ヲ援助シ又人絹關係藤井氏モ代表委員顧問トシテ一時ヱリニ滯在セリ尙西カルフカ多商品館長他當業者代表十數名ハ外務省囑託トシテ各專門事項ニ付代表部ニ協力スル處アリタリ

印度ニ於ケル日英印當業者會商

日本ノ綿業及人絹業ヲ代表セル倉田、伊藤兩顧問及井上、小野、有元、川口、國松、八木、中尾、神谷ノ諸囑託ハ九月末シムラ着後豫テ日英兩政府ノ斡旋ニ依リ印度ニ於テ開催セラルル運トナレル日英印三國ノ綿業及人絹業代表者會商ニ出席セリ右會商ハ印度市場ニ於ケル日英印ノ綿及人絹製品ノ競争ヲ緩和セントスル目的ヲ以テ開催セラレ我方ハ倉田顧問、英國側ハザー、ウイリアム、クレアリース

(元マシチエスタ―商業會議所會頭) 印度側ハエツチ、ビー、モデ
イ(孟買紡績聯合會會長)ヲ夫々委員長トシテ英印間、日英間及日
印間ニ各別ニ數次ノ會合ヲ行ヒタルカ双方意見ノ懸隔甚シク何等具
体的協定ニ到達セサリシヲ以テ三國代表ノ合同會商ハ終ニ之ヲ見ル
ニ至ラサリキ

斯ク當業者會商ハ何等ノ成果ヲ納メ得サリシヲ以テ所謂綿布問題ハ
全然日印政府會商ノ議題トシテ殘サレタリ
唯茲ニ注意スヘキハ英國代表力滯印中印度政府ト種々接觸ヲ遂ケタ
ル事實ナリ前述ノ如ク印度ニ於ケル日英當業者會商ハ殆ント討論會
ノ域ヲ脱シ得ス單ニ儀禮的ナル共同聲明ノ成立ヲ見タルニ過キス又
英印會商モ印度側ニ硬軟兩派アリ何等意見ノ一致ヲ見ス僅カニ孟買
紡績聯合會ノ代表ト英國側代表トノ間ニ或ル協定成立セリト雖モ右
協定ハ反ツテ印度奧地及ベンゴール方面ノ當業者代表ノ反感ヲ買ヒ
タル經緯アリ斯テ英國側ハ當業者會商ニ依リ何等ノ實益ヲ收メ得サ

リシモ印度政府ニ對シ英國當業者ノ利益保障方陳情ニ努メ終ニ同政
府商務長官ヨリ好意的諒解ヲ取付ケ英國綿布ニ對スル現行關稅ハ印
度ノ財政ノ許ス限リナルヘク速ニ輕減スヘキ旨ノ言質ヲ得タリ(一
十月二十五日附ボア發クレアリ―宛書翰)

第三節 交渉經過

第一回本會議 九月二十三日

(豫備會議)

印度側首席代表ボアハ日本代表部ニ對シ歡迎ノ意ヲ表シ今回會議ノ結果ニ依リ日印兩國ノ親善關係ヲ益々増進センコトヲ希望シ澤田代表ハ右ニ對スル答辭ヲ述ヘ會議成功ノ爲最善ヲ盡スヘキ旨ヲ聲明セリ

ニ右挨拶交換後(イ)兩代表部間ノ聯絡(ロ)會議出席者(ハ)議事録(ニ)新聞發表(ホ)會議時間等ノ諸事項ヲ審議シ豫メ双方事務總長間ニ打合濟ノ通り決定セリ

三 印度側ハ次回會議ニ日本側ヨリ具體案ノ提示ヲ受ケ度キ旨希望セルニ對シ澤田代表ハ次回ニハ先ツ日本代表部印度來訪ノ一般的目的ヲ開陳シ印度側ノ意見ヲモ伺ヒ然ル後遂次具體的問題ニ入り度旨ヲ述ヘ印度側之ヲ受諾セリ

(尙會議終了後澤田代表ハボアニ對シ和蘭、伊太利等ノ綿製品ニ對スル印度關稅引下ノ噂ヲ述ヘ會議進行中日本綿製品ニ對スル無差別待遇ノ保證ヲ得度旨非公式ニ懇談セル處ボモ極メテ打解ケタル態度ニテ本件ハ日本側ノ印綿不買ニモ懸聯シ居ルヲ以テ日本側カ何等カノデエヌデユアヲ爲ササル限り斯ル保障ヲ爲シ得サルヘキ旨ヲ説明セリ

依テ澤田代表ハ印綿不買カ日本政府ト無關係ナルコトヲ説明シ且萬一會議中外國品ニ對スル綿布關稅ノミ輕減セラルルカ如キコトアリテハ日本ノ輿論ヲ刺激シ會議ノ成功ハ到底望ミ難キ旨ヲ述ヘテ先方ノ說得ニ努メタルガボハ自分トシテモ會議ノ成功ハ衷心ヨリ之ヲ望ミ居ル次第ナルモ種々對内的關係モアリ直チニ日本側ノ希望ニ副ヒ難ク同僚ト相談スル必要モアルニ付次回會議ニ於テ正式ニ本問題ヲ提起セラルレハ其席上決定的確答ヲ申上クヘシト回答セリ

第二回本會議 九月二十五日

(日印通商條約ニ關スル暫定取極問題)

澤田代表ハ日印間ノ通商ニ關スル新條約締結ノ必要ヲ説明シ日本代表部ハ此ノ目的ノ爲來印セル次第ヲ述ヘタル後目下印度政府ハ英國政府ヲ通シ現行條約ヲ一箇月間延長セシムヘキ旨提議シ居ル處日本側トシテハ本會議ヲ成功ニ導ク爲一箇月間ト限定スルコトナク之ヲ會議終了スル迄延長シ度キ旨ヲ主張セリ

印度側首席代表ハ病氣引籠中ニテ次席代表ヲセシ代ツテ答辯本件ハ商務長官タル首席代表ノ主トシテ關係シ居ル事項ナルニ付本日日本側ノ提議ハ之ヲ同代表ニ傳ヘ協議ノ上次同會議ニ於テ正式ニ回答スヘキ旨ヲ述ヘ尙出來得ル限り本會議ノ成功ヲ妨クルカ如キ措置ヲ避クルコトハ印度代表部モ均シク希望スル處ナル旨ヲ附言ス

澤田代表ハ本提議ニ對スル回答ヲ得サル限り日本側トシテハ他ノ

討議ニ入ルヲ得サル旨ヲ述ヘ印度側ヨリ何等カ提議スルコトナキヤヲ質シタルモ印度代表ハ前回會議ニ於ケルト同様先ツ具體的提案ヲナスヘキ立場ニ在ルモノハ日本側ナリト主張シ當日ハ其ノ儘散會ス

第三回本會議 九月二十七日

(暫定取極問題)

印度側首席代表ハ依然病氣ノ爲缺席

フセシ代表ハ前回ノ澤田代表ノ聲明ニ答ヘ印度側モ日本ト同様新條約ノ締結ヲ希望シ居ルモノニシテ暫定的措置トシテハ無條件ニ現行條約關係ヲ一箇月間延長スヘク更ニ會議繼續ノ場合ハ兩代表部間ニ於テ適當期間存續方ヲ協議スヘキ旨ヲ述ヘタリ

ニ右ニ對シ澤田代表ハ本會商開始迄ニ帝國政府ノ執リタル態度ヲ説明シテ會議開催遲延ノ責任ノ英印側ニ存スル點ヲ暗示シ會議終了迄無條件ニ延長力ヲ主張セリフセシハ印度ノ國內事情複雜シ居ル點ヲ述ヘ會議初頭ニ日本側ノ希望スルカ如キ協定ヲナス時ハ目下印度内ニ存スル良好ナル雰圍氣ヲ害スル惧アル旨ヲ縷述シテ應セス

ニ澤田代表ハ更ニ帝國政府カ本件ヲ重視シ居ル次第ヲ述ヘ印度側ノ

主張斯ノ如クナリトセハ之ヲ東京ニ電報シテ同訓ヲ得タル上善處スルノ他ナシトテ散會ヲ提議シ印度側之ヲ應諾ス

(尙當日日本側ハ邦人記者團ヨリノ希望ニ基キプレス コムミユニ今並新聞電報ノ取扱改善方ニ關シ提議スル處アリ印度側ハ之カ適當措置方承諾セリ)

第四回本會議 九月三十日

(暫定取極問題並綿布問題)

ハ澤田代表ハ暫定取極問題ニ關シ前回會議ニ印度代表ノ陳ヘタル提案ヲ帝國政府ハ受諾スヘキニ付印度政府ハ倫敦ニ於ケル本件交渉ヲ促進スル様措置アリ度旨ヲ述ヘ印度側首席代表亦アハ既ニ其措置ヲ採リタル旨ヲ答フ

ニ右ニテ一應全般の問題ノ討議ヲ終了シ茲ニ具体的問題ニ移ルコトトナリ澤田代表ハ先ツ綿布問題ヲ持出シ日本側提案ヲ説明ス提案内容ハ左ノ通

印度政府ニ於テ綿布關稅ヲ從價五割以下又ハ一割度五安四分ノ一以下ニ引下ケ且日本品ニ最惠國待遇ヲ與フルコトヲ受諾セハ日本ハ毎年度對印綿布輸出最高量ヲ五七八、五二九千碼ニ制限スルコトヲ受諾スヘシ

ニ右案ニ關シ印度側ヨリ二三質問アリ特ニ日本ハ綿布輸出量ト棉花

購入量トヲ關聯セシムル意思ナキヤヲ反復質問シタルニ對シ澤田代表ハ日本側ノ意嚮ヲ説明シテ印棉トノ關聯不必要ナル旨ヲ述ヘタリ

印度側ハ之ニテ當日ノ會議ヲ打切り該提案ヲ篤ト考究シタル上次同ニ於テ正式ニ意見ヲ表示スヘキ旨ヲ提議シ散會ス

第五回本會議 十月三日

(暫定取極問題並綿布問題)

一 澤田代表ハ倫敦ニ於テ交渉中ノ日印通商暫定取極問題ニ關聯シ帝國政府ハ一箇月間印度ノ關稅据置ニ同意シタルモ右ハ帝國政府カ印度ノ現行關稅率ニ満足シ居ルコトヲ意味スルモノニ非サル旨ヲ特ニ本會議ノ議事錄ニ留ムヘキ旨政府ヨリ訓令アリタル次第ヲ述ヘテ同意ヲ求メ會議之ヲ採擇ス

二 前回ニ提出セラレタル綿布ニ關スル日本側案ニ關シボア代表ハ該案カ印棉買付ト關聯セラルルニ於テハ印度ハ原則上之ニ同意スヘキ旨ヲ述ヘタル後

(イ) 日本側ハ此ノ輸出制限ノ原則ヲ他ノ商品ニモ適用スル意思アリヤ

(ロ) 日本側ハ將來ノ爲替變動ニ關スル何等カノ提案ヲ有スルヤノ二點ヲ質問ス

三 澤田代表ハ先ツ主義上同意ナリトハ印度側ニ於テ綿布關稅引下ヲ承認スル意味ナリヤト質シタルカボアハ之ニ對スル確答ヲ避ケ綿布ノ價格調節ニ付日本側ニ名案アリヤト反問ス澤田代表ハ價格ハ數量制限ニ依リ自然的ニ調整セラルヘキ策ヲ説明セルカボアハ貴案ノ數量ハ昨年度ノ印度市場攪亂時代ノ數字ト等シク右ニアハ價格ノ調整困難ナルヘシト述ヘ我方ハ昨年度ニ於ケル市價ノ混亂ハ將來日本綿布カ益々増加スヘシトノ危惧ノ念ニ依レル處大ナルヘク數量協定ハ此ノ危惧ヲ除去スヘシト應酬ス更ニ兩代表間ニ種々ノ應酬行ハレタルカ結局ボアハ若シ數量協定ニ依リ所期ノ結果ヲ得ヘキコト確認セラルレハ必スシモ現在ノ稅率維持ノ要ナカルヘキ旨ヲ答ヘタリ

尙澤田代表ハ先方ノ質問ニ答ヘ印棉買付最低量ヲ保證シ得サル理由並右保證ノ必要ナキ 次第ヲ述ヘ冒頭質問ノ二點ニ對シテハ考慮ノ上次回ニ回答スヘキ旨ヲ約セリ

最後ニボアハ綿布問題カ若シ當業者會商ニ於テ満足ナル協定ニ達スレハ本會議ノ進行ヲ容易ナラシムヘシトノ意嚮ヲ表明セリ

第六回本會議 十月五日

（印棉買付問題並雜貨及爲替問題）

一 澤田代表ハ先ツ左ノ趣旨ヲ述フ

印度側主張ノ印棉買付保證ハ不買停止以上ノ義務ヲ日本當業者ニ負擔セシムルモノニシテ之ヲ承認スル能ハス又本交渉力全般的ニ解決セハ當然從來通印棉買付開始セラルヘキニ付保證ノ必要ヲ認メサルモ協定成立ノ場合帝國政府ハ充分當業者ヲ善導スル様努力スヘシ但印度側ニ何等カ具体案アラハ提示セラレンコトヲ希望ス

右ニ對シボア代表ハ印度側主張ノ趣旨ヲ説明シタル後當業者會商ノ結果ヲ一應見極ムル迄ハ具体的諸點ニ論及セサルコトト致度旨ヲ提議シ日本側之ヲ應諾

二 澤田代表ハ前回會議ニ於テ先方ヨリ質問ノ第一點ニ答ヘ日本側ニ於テハ輸出量制限ノ主義ヲ他ノ商品ニ適用スルコトハ實際上頗ル

困難ナリ乍然日本ハ飽迄自國商品ニ對シ差別待遇ヲ受ケサランコトヲ欲スルカ故ニ左ノ三點ニ關シ説明ヲ伺ヒ度ト述フ

(一) 印度ハ國內産業保護ノ爲國定關稅率ヲ引上ケントスルモノナリヤ又ハ日本品ニ對シテノミ産業保護法ヲ適用セントスルモノナリヤ

(二) 印度ハ直チニ斯ル保護手段ヲ講セントスルモノナリヤ

(三) 若シ然ラハ如何ナル工業ニ就キ保護ヲ加ヘントスルヤ又其等工業ノ實狀如何

右(一)(二)ノ點ニ就テハボアハ十一月十日以後ニ至リテモ何等協定成立セサル場合ハ已ムヲ得ス日本品ニ産業保護法ヲ適用スルノ必要生スヘキ惧アル旨ヲ答ヘ(三)ノ點ニ就テハ特殊商品ヲ列舉シテ説明ヲ加ヘタルカ澤田代表ヨリ種々應酬スル處アリ結局印度側ハ各商品別資料ヲ文書ニテ日本代表部ヘ送付スヘキ旨ヲ約セリ (一右資料ハ十月七日送付越セリ)

三 次ニ先方質問ノ第二點爲替問題ニ關シ澤田代表ハ日本ハ既ニ圓價維持策ヲ講シ居ル次第ヲ説明シタル後特ニ印度側ノ危惧ヲ避クル爲ニハ日印新協定ヲ分チテ原則的協定ト爲替變動等ニ依リ影響セラルヘキ附帶的協定トノ二部分トシ後者ヲ短期間ノモノトセハ差支ナカルヘシ兎ニ角本問題ハ總テノ話合ヲ了シタル上ニテ更ニ討議シ度シトノ趣旨ヲ述ヘタリ

第七回本會議 十月九日

(雜貨問題並日本ニ於ケル印度品ノ待遇問題)

澤田代表ハ前回會議ノ結果印度側ヨリ送付シ來レル印度政府ノ產業保護法適用ヲ必要ト認メ居ル十六商品ニ關スル統計ヲ批判シテ

第一類 印度ニハ日本品ト競争スヘキ種類ノ生産品ナシト認メ得ルモノ(莫大小、綿靴下等)

第二類 日本品ノ輸入極メテ少ク印度工業ニ對スル壓迫ヲ認メ得サルモノ(石鹼、毛織物等)

第三類 日本ニ於テ自發的ニ統制ニ着手シ居リ今後濫賣ノ惧ナキモノ(瑛瑛鐵器、セメント等)

ノ三種ニ分類シ印度政府ノ再考ヲ促シ松島書記官ハ各品目ニ付我方產業保護法ノ適用ヲ不必要ト認ムル理由ヲ敷衍説明セリ更ニ澤田代表ハ絹及人絹織物ヲ綿織物ト關聯シテ討議セントスル印度側ノ意嚮ヲ反駁セリ

ニボア代表ハ右説明ノ要旨ヲ文書ニ認メテ印度側ヘ送付方ヲ希望(右ハ翌日印度側ヘ送付セリ)シタル後

(イ) 印度側提出ノ統計中ニ國內生産量ノ記入ナキモノハ生産少キ故ノミニ依ルモノニ非ス正確ナル統計ヲ得ルコト困難ナリシ爲ナリ

(ロ) 印度ニ直接競争品ノ生産ナシトスルモ日本品力價格低廉ナルトキハ類似品ノ代用ニ供セラルル場合多シ(例、莫大小)

(ハ) 日本品ノ脅威ハ必スシモ輸入量ノ多少ニ依ラス價格低廉ナル點ニ在リ(例、セメント)

(ニ) 日本ニ於ケル所謂統制ノ實施ニ政府ハ何ノ程度ニ關與シ居ルヤ日本代表ノ説明セル處ハ對印輸出品ノ數量及價格ノ調節ヲ何等保證スルモノニ非ス

(ホ) 絹織物ヲ獨立的ニ考慮スルコトニハ必スシモ大ナル異議ナキモ綿織物ノ代用品タル人絹織物ハ是非綿織物ト關聯シテ考慮

シタシ

トノ趣旨ヲ述へ最後ニボアハ印度側ハ小工業モ極メテ重視シ居ル次第ナルカ本日日本代表ノ聲明セラレタル處ヨリ推考スルニ産業保護法ノ適用ヲ避クル何等カノ協定ニ達スルコト必スシモ不可能ニ非サルヘシト結論ス

右諸點ニ對シ澤田代表ハ更ニ説明ト反駁トヲ加へ日本品ニ對スル無差別待遇ヲ希望スル旨陳述シボアハ小工業關係ノ商品ニ就テハ印度側ヨリ具体的提案ヲナスヘキ旨ヲ述へ更ニ次ノ三點ニ關シ日本側ノ考慮ヲ促シタリ

(イ) 綿布輸入量ト印棉買付量ノ關聯

(ロ) 日本ニ於ケル銑鐵關稅引下

(ハ) 日本ニ於ケル印度米輸入許可

右ニ對シ澤田代表ハ左ノ趣旨ヲ應答セリ

(イ) ノ點ハ既ニ再三説明ノ通

(ロ) 現在銑鐵關稅ハ從價一割八分ニ相當スルニ過キス印度鐵ノ輸入量ハ該關稅引上以前ニ既ニ減少ノ傾向ニアリタルヲ以テ現在ノ關稅カ印鐵ノ輸入ヲ阻害シ居ルモノトハ思考シ得ス

(ハ) 米ハ内地ニテ年々生産過剩ナルヲ以テ印度米ノ輸入許可ハ絶對ニ不可能ナルヘシ

更ニ爲替問題ニ付 前回會議ニ於ケルト略々同様ノ問答ヲ繰返シタル後亦アハ各個ノ問題ニ關スル意見ノ一致アリタル場合モ他ノ問題ノ爲修正ヲ必要トスルコトアルヘキニ付全体的解決ヲ見ル迄ハ何等拘束的ノモノニ非スト諒解シタキ旨提議シ日本側之ニ同意ス

第八回本會議 十月十三日

(雜貨問題)

ハボア代表ハ雜貨ニ關シ印度政府ハ關係業者ヨリノ陳情ヲ其儘認容スル次第ニ非サルモ多數ノ小工業カ日本品ノ競争ニ苦シミ居ル次第ハ調査ノ結果明ナリト述ヘ日本側ヨリ提出セル覺書ニ言及シ(イ)第一類ニ付テハ莫大小ヲ例ニ引キ見本品ヲ示シテ印度品ト日本品ト區別シ難キ次第ヲ述ヘ(ロ)第二類ニ付テハ石鹼ヲ例ニ引キ現在ニ於ケル日本品ノ輸入量ハ少キモ急速ニ増加ノ傾向アル點ヲ強調シ(ハ)第三類ニ付テハ例ヘハ陶磁器ハ統制ニ依リ價格騰貴セリトコトナルモ印度冲着値段ハ寧ロ下落シ居レル點ヲ指摘シ

斯ル日本品ノ競争ハ產業保護法ニ依リ防止スルコト最モ有效便宜ナルモ印度側ハ出來得ル限り日本ノ希望ヲ容ルル爲之等商品ニ對シ從量稅ヲ適用シ差別待遇ヲ避ケ度意嚮ナル處瑛瑯鐵器、陶磁器及毛織物ニ就テハ技術上從量稅適用不可能ナリト思考ス但シ日本

十月十三日從量稅問題委員會

側ニ適當ナル案アラハ該案ニ依リ差別待遇ヲ避クル様考慮スヘシトノ趣旨ヲ述フ

ニ澤田代表ハ印度側ノ右提案ニ對シテハ日本代表部モ充分考慮ヲ加フヘキモ之等技術的問題ハ双方ノ専門委員ヲシテ討議セシメ度旨ヲ述ヘ印度側モ之ニ賛成セリ

ニ更ニボアハ既ニ日本側ニ示シタル十六商品以外ニ印度ニ於テ保護ヲ必要トスル商品名ハ追テ提示スヘキ旨並印度側ハ綿及人絹織物ニ關スル提案ヲナス考ナルモ右ハ日本側カ印棉買付量トノ關聯問題ヲ如何ニ考慮スルカヲ知リタル後ニ致シ度旨ヲ開陳シ右第二點ニ關シテハ双方代表間ニ種々應酬アリ結局印度側ハ次回ニ本件提案ヲナスコトニ決セリ

日本側ヨリハ飯田代表代理、松島書記官外三名印度側ヨリハハーデ
イ、ミーク、スチエワート出席

前回本會議ニ於テ問題トナリタル瑣瑣鐵器他二品ニ關シ日本側委員
ハ日本ヨリ輸入セラルル品種ハ比較的限定セラヨ居ルコト及諸國ノ
實例等ニ徴シ從量稅賦課ノ可能ナルコトヲ主張セルカ印度側ハ詳細
ナル資料ナクシテハ直チニ可否ヲ決定シ難キニ付各稅關ニ付取調タ
ル上考慮スヘキ旨ヲ述ヘ日本側之ヲ承認セリ

第九回本會議 十月十七日

(雜貨、綿布並爲替問題)

一、ボア代表ハ左ノ趣旨ノ聲明ヲナセリ

(イ) 印度側ハ從量稅適用不可能ト認ムル商品ヲ前回提出ノ三品ニ限
定スルコトニ決セリ

(ロ) 印度側カ本日日本代表部ニ提示セントスル棉花綿布關聯案ノ要
旨ハ左ノ如シ

1、印度ノ毎年度日本綿布輸入量ハ三億碼トシ之ヲ前年度ニ於
ケル日本ノ印棉買付量百二十五萬俵ト關聯セシム

2、前年度ニ於ケル印棉買付量カ前記數量以下ニ下レル時ハ其
不足高一萬俵ニ對シ綿布輸入量二百萬碼宛ヲ減少セシム又前
年度ニ於ケル右買付量カ百五十萬俵ヲ超過セル時ハ綿布輸入
量ヲ前記同様ノ割合ニテ増加セシム但シ總輸入量三億五千萬
碼ヲ超過セシムルヲ得ス

3、右輸入量ヲ平織粗布四五%縁附粗布一三%晒布八%色染九%捺染一五%絲染一〇%ノ割合ニ分割ス

4、一年ヲ四期ニ分チ各期ニ右輸入量ノ四分ノ一宛ヲ割當ツ

5、全般ノ協定成立ノ場合關稅ハ手織粗布從價五割又ハ一封度

五安四分ノ一其他綿布從價五割ニ引下クヘシ

但其他綿布ニモ從量稅ヲ適用スルコトアルヘシ

6、人絹ニ關シテハ數量割當モ差別待遇ヲモナササルコトトス

7、緬甸カ印度ヨリ分離ノ際ハ前記綿布割當量ヲ比例的ニ減少

セシムルコト

8、圓價カ現在以下ニ下落ノ際ニ於ケル特別附加稅賦課ノ規定

ヲ今次ノ協定中ニ明記スルコト

ニ澤田代表ハ右案ヲ充分考慮スヘキ旨ヲ述フルト同時ニ即座ノ感想トシテ

イ、印度ノ稅率引下ト日本ノ輸出制限トハ相對立スルモノナルニ

不拘印度側ハ日本ニ印棉不買ヲ停止セシムルト共ニ該買付量ヲ

綿布割當量ト交換的ニ取扱ハントスルモノニシテ我方ノ犧牲ハ

二重三重トナリ日本當業者ノ反對想像ニ難カラス

ロ、割當數量ニ關スル日印間ノ主張ニ餘リノ懸隔アリ

ハ、爲替問題ノ考慮ハ適當期間例ヘハ一兩年間經過後其經驗ニ徴

シ必要ニ應シテ協定スルコトト致度

トノ三點ヲ指摘シ且日本側ハ稅率ヲ從價五割程度以下ト提案シタ

リト雖モ數量ニ大ナル開キアルカ故ニ數量如何ニ依リテハ右稅率

モ日本ヲ満足セシメサルヘキ旨ヲ述ヘ印度側ニ於テ本提案ヲ修正

スルニ非レハ日本側ノ受諾不可能ナルヘキ旨ヲ強調シ尙右提案ハ

最惠國待遇ヲ包含スルモノナリヤヲ反問ス

ニボアハ(イ)去ル六月引上ノ關稅ト雖モ爲替下落ニ依ル日本商品ノ利

益ヲ充分制スルニ足ラス(ロ)印棉買付ハ從來日本カ爲シ來レル處ニ

シテ印度側ハ之ヲ其儘繼續セシメントスルニ過キス(ハ)印度側ニ於

テ更ニ稅率引下考慮ノ餘地アリヤ否ヤハ本案ニ對スル日本側ノ正式意見ヲ聽取シタル上ニテ研究スヘシ(二)綿布關稅ニ付テハ最惠國待遇ヲ與フヘキモ一般關稅ニ關シテハ未タ確信シ得ス尙印度側ノ考慮シ居ルカ如キ爲替條項ハ最惠國條款ニ反セサルモノト思考ス等ノ趣旨ヲ述ヘタリ

十月十八日首席代表間ノ私的會談

一 印度側提案ニ關スル討議一

澤田代表ハボアノ官邸ヲ往訪シ前日ノ本會議ニ印度側ノ提出セル案ニ關シ詳細質問シ日本側ノ受諾シ得サル諸點ヲ敷衍説明シタルニ對シボア代表ハ大体左記ノ趣旨ヲ應答シ且該提案成立迄ノ事情ヲ内話シテ印度政府ノ困難ナル立場ヲ説明シタルカ印度代表部トシテハ飽迄満足ナル協定ニ到達センカ爲出來得ル限りノ歩寄リヲナスヘク努力スヘキ旨ヲ陳述セリ

(イ) 棉花トノ關聯ハ農民ノ利益保障ノ見地ヨリ重視シ居ルカ故ニ是非承認セラレ度

(ロ) 品種別及四期別割當ハ二重三重ニ取引ヲ阻害スルモノナリト申サルルモ右ハ過去ノ實蹟ヲ基礎トシテ案出セルモノナルニ付其心配ナカルヘシ

(ハ) 棉花綿布ヲ關聯セシムル以上棉花輸出ナキ緬甸ノ分離ノ爲綿布

割當量ヲ減少セシムルハ不合理ナリトノ御意見ハ一應尤モノ次第ナルモ緬甸ヨリモ少量ノ棉花輸出アリ但此點ニ付テ對策アラハ提示アリタシ

(二)印度案ヲ採用スルコトナラハ圓價安キ場合日本ノ印棉買付量ハ減少シ從テ綿布割當量減スヘキカ故ニ少クトモ綿布ニ關シテハ爲替條項ハ不必要ナルヘシトノ貴見ナルモ爲替ノ點ハ印度側ノ重視スル處ニシテ予エヨ佛蘭西間並加奈陀佛蘭西間ノ條約ノ例ニ倣ヒタシ又該協定ノ有効期間ヲ短クシテ此ノ條項ヲ除カントセラルル貴見ハ諒トスルモ私見トシテハ今次ノ協定ハ少クトモ三年乃至五年間位ハ有效ナルモノト致度

十月十九日首席代表間ノ私的會談

(暫定取極問題)

十一月十日以後失効スヘキ日印通商條約ノ有効期間ヲ更ニ延長方印度側ノ諒解ヲ取付クヘキ旨ノ訓電ニ基キ澤田代表ハ亦アラ往訪シテ先方ノ意嚮ヲ訊ネタル處亦アハ

本件ハ閣議ニテ決定スヘキ事項ナルモ私見トシテハ十月末迄ニ重要事項ニ關シ諒解成立セハ印度ハ直チニ關稅ヲ引下ケ日本ハ印棉不買ヲ撤廢シ綿布數量協定ヲ運用スルコトトシ新條約發効ノ時迄關稅上ノ現狀維持ノ取極ヲナスニ異議ナキモ然ラサル場合ハ各段ノ事情ニ依リ斯ル取極困難ナルヘシ

トノ趣旨ヲ答ヘ澤田代表ハ十月末迄ニ諒解成立セサルノ事實ノミヲ以テ會議ノ良好ナル雰圍氣ヲ害スルカ如キコトアリテハ甚遺憾ナルヘキ旨ヲ強調ス更ニ双方應酬ヲ重ネタル後亦アハ

日本側ニ於テ十月十日迄ニ印棉不買撤廢ヲ保證セハ何等カ妥解ノ途

アルヘキモ然ラサル場合ハ到底考慮ノ餘地ナシト思考スルモ兎ニ
角閣議ニ諮リタル上確答スヘキ旨ヲ述ヘタリ

十月二十二日首席代表間ノ私的會談

(暫定取極問題)

先方ノ求ニ應シ澤田代表ハ京ア官邸ヲ往訪ス

ハ京ア代表ハ前記暫定取極問題ニ關シ廿一日緊急閣議ヲ開キ左ノ適
決定セル旨ヲ述フ

(イ) 十月三十日迄ニ棉花及綿布ニ關スル問題ニ付意見ノ一致ヲ見タ
ル場合ハ一箇月又ハ六週間更ニ現狀維持ヲ爲スヘキ旨ノ暫定取
極ニ同意スヘシ但右意見ノ一致ト同時ニ綿布關稅引下印綿買付
開始並綿布割當量起算ヲナスヘシ

(ロ) 右時日迄ニ主要問題解決セサル場合モ棉花綿布關聯問題ニ付意
見一致シ日本側力即時印綿不買ヲ撤スルコトヲ受諾セハ前記同
様ノ期間現狀維持ヲナスコトニ同意スヘシ

(ハ) 右以外ノ場合ニ於テハ此種暫定取極ニ同意シ難シ

ニ右ニ對シ澤田代表ヨリ種々意見ヲ開陳スル處アリ京アハ(イ)ノ場合

ニ於テハ印度側ハ一箇月ノ豫告ヲ以テ廢棄シ得ル條件ノ下ニ現行條約ヲ新條約發効迄延長スルコトニ同意スヘク又交渉ノ都合ニ依リテハ十月三十日ヨリ兩三日解決遅ルルモ本取極問題ニ支障ヲ來ササルヘキ旨ヲ述ヘタリ

十月廿三日首席代表間ノ私的會談

(棉花綿布關聯問題)

澤田代表ハボア代表ヲ往訪シ印度側ニ於テ日本ノ希望スル綿布割當量ヲ容認セハ日本側ハ棉花綿布關聯ノ主眼ヲ承認スヘキ旨ヲ述ヘ日本政府カ印度側ノ立場ヲ薦ト考慮シ萬難ヲ排シテ此決定ニ至レル次第ヲ縷々説明シタル後左ノ通提案ス

一 綿布輸入量五七八、五二九千碼ニ對シ印棉買付量百二十五萬俵トス

ニ 右ヲ基礎數量トシ印棉一萬俵ヲ増減スル毎ニ綿布ハ二百萬碼ノ割合ニテ増減セシム

尚澤田代表ハ印度側提案ノ數量ニ依レハ印棉買付ノ爲日本ノ支拂フヘキ金額ト日本綿布ノ輸入ニ對シ印度ノ支拂フヘキ金額トノ比ハ三對一見當トナリ極メテ不合理ナルコト及同案ノ第(三)、(四)、(七)、(八)項ハ承認シ得サル次第ヲ述フ

ボアハ先ツ日本カ棉花綿布關聯ノ主眼ヲ承認セルコトヲ謝シ前記提案及澤田代表言及ノ諸項ニ付種々私見ヲ述ヘ特ニ綿布適當量及爲替問題ニ付印度側ノ意嚮ヲ強調シタル後右案ヲ早速閣議ニ附シ其決定ニ基キテ確答ヲ爲スヘキ旨ヲ約セリ

十月廿五日首席代表間ノ私的會談

(棉花綿布關聯問題並雜貨及爲替問題)

ボアハ澤田代表ヲ來訪シ棉花綿布關聯問題ニ關シ左ノ如キ印度側對策ヲ提出會談ス

綿布輸入量ヲ三億二千五百萬碼棉花買付量ヲ百二十五萬俵トシ右ヲ基礎トシテ前年ノ棉花買付量一萬俵ヲ増減スル毎ニ綿布輸入量二百萬碼ヲ増減ス但シ綿布輸入量ハ三億七千五百萬碼ヲ超過スルヲ得ス他ノ附帶條項ハ原案通りトス

右ニ關シボアハ印度側力多大ノ困難ニ不拘斯迄讓歩セル次第ヲ詳細説明シタル後

ニ雜貨ニ就テハ日印間ニ重要問題ニ關スル合意成立スレハ産業保護法適用ノ主張ヲ抛棄スヘク嚮ニ問題トセル三品目ニ就テハ調査ノ結果從量稅適用困難ナルコト判明セルモ特ニ此困難ヲ排シテ他ノ商品ニ對スルト同様無差別待遇ヲ與フル用意アル旨ヲ述フ

三 前記印度側對案中ノ綿布ノ品種及季節別割當ハ第一回提案ト同様ナルヲ以テ澤田代表ヨリ反對論ヲ述ヘタルカゾアハ日本側ニ於テ價格調節ノ約束ヲナササル以上飽迄右規定ヲ必要トスル旨ヲ答ヘ更ニ

四 緬甸ニ關スル條項ニ付テハ一兩年後緬甸分離セハ全地方ニハ綿業存セサルヲ以テ綿布輸入ニハ制限ヲ附セサルヘク日本ハ却ツテ有利ナル地位ヲ獲得スヘシト述ヘ

五 爲替條項ニ關シテハ澤田代表ヨリ再ビ之カ撤回方ヲ希望スル旨ノ意見ヲ開陳セルカゾアハ前回同様ノ説明ヲ繰返シ兩國間ニ相互的ナル規定ヲ設クレハ何等 差支ナカルヘク日印交渉終了後ハ伊、蘭、白等トモ同様ノ取極ヲナシダキ意嚮ヲ有スル旨内話セリ

六 目下英國品ニ對スル綿布關稅引下說傳ヘラレ居ル處右ハ事實ナリヤト澤田代表ヨリ質問セルニ對シゾアハ印度ノ財政上ノ必要ヨリ推考スレハ今回成立スヘキ日印協定ノ有効期間中ニハ引下ヲ見ル

コトナカルヘシト思考シ居ル旨ヲ答ヘ

七 雜貨ニ適用セラルヘキ從量稅率ノ程度如何ニ關シテハ大体一九三一年ノ價格ヲ標準トスヘキ旨ヲ語レリ

十月廿八日首席代表間ノ私的會談

一棉花綿布關聯問題一

澤田代表ハ京アヲ往訪シ日本政府ニ於テハ過日ノ印度側對案ニテハ到底當業者ヲ説得シ得サル趣ヲ述ヘ左ノ如キ日本側讓歩案ヲ提示ス

基準量 棉花百萬俵 綿布四億碼

綿布最高限度 五億碼

増減率 一萬俵毎ニ 二百萬碼

右案ニ關シ澤田代表ハ日本側ノ立場ヲ縷々説明シタルカ京アハ印度閣議ニ依リ本案ノ承認ハ絕對ニ期待シ得サル次第ヲ語り自分ハ最後案トシテ次ノ如キ試案ヲ以テ閣議ニ諮リ之カ承認ヲ得ル機努力スヘキ旨ヲ述フ

基準量 棉花百萬俵 綿布三億二千五百萬碼

綿布最高限度 四億碼

増減率 一萬俵毎ニ 百五十萬碼

澤田代表ハ右案ニハ到底満足出來サル次第ヲ述ヘ若シ印度側ニ於テ右ノ如ク四億碼迄ハ輸入差支ナシトセラルナラハ之ヲ基準量トシテ考慮スルコト必スシモ不可能ニ非サルヘシト反問シ兩代表間ニ押問答アリ結局ボアハ日本案ヲ閣議ニ上程シ考慮ヲ求ムヘキ旨ヲ約セリ

尙澤田代表ハ右日本側案ハ(イ)、綿布關稅ヲ從價五割且最惠國待遇トシ(ロ)、日印商議ノ全般的解決ヲ前提トシ(ハ)、價格統制ヲ附帶セシメサルコトノ三條件ノ下ニ提議スルモノナル旨念ヲ押シボアヨリ綿布ノ品種及季節別割當ニ關スル提案ハ印度側ニ於テ到底撤回シ得サル趣ヲ主張セルニ對シテハ日本代表部限リノ試案トシテ

(一) 粗布ト其他トニ二分シ双方ヘ均等ニ割當テ全量ノ一割ヲ限度トシテ相互間ニ融通ヲ認ムルコト

(二) 一年ヲ二期ニ分チ兩期ヘ均分ニ割當テ全量ノ三割ヲ限度トシテ兩期間ニ融通ヲ認ムルコト

ノ提案ヲナシタルカボアハ右ハ専門的事項ニテ確答シ得サル旨ヲ述
ヘ爲替問題ニ付テハ印度側ヨリ大体佛加條約ヲ基礎トセル具体案ヲ
提示スルコトアルヘキ旨ヲ附言セリ

第十八回本會議 十月三十日

(綿布問題)

ボア代表ハ印度政府ニ於テハ十月二十八日澤田代表ヨリ提示ヲ受ケ
タル日本案ヲ審議セル結果出來得ル限り日印双方主張ノ懸隔ヲ少ク
スル爲最大限ノ讓歩ヲナシ左ノ如キ案ヲ作成セル次第ヲ述フ

基準量 棉花百萬俵 綿布三億二千五百萬碼

綿布最高限度 四億碼

増減率 前年ノ棉花買付百二十五萬俵ヲ超過スル時ハ其超過量、
一萬俵毎ニ綿布割當量ヲ二百萬碼宛増加セシメ前年ノ棉花買付百
萬俵以下ナリシ場合ハ百萬俵ヲ基準トシテ同一率ヲ以テ綿布割當
量ヲ減少セシム

品種別割當 平織粗布 四割五分 緣附粗布 一割三分

晒布 八分 色物其他 三割四分

季節別割當 目下日本案ヲ考慮中

澤田代表ハ印度側ノ之迄ノ努力ハ之レヲ多トスルモ右提案ハ更ニ修正セラルルニ非サレハ日本側ノ受諾困難ナル旨ヲ説明シタル上兎ニ角同僚ト共ニ充分該案ニ考慮ヲ加ヘタル上次同ニ我方ノ意見ヲ開陳スヘキ旨ヲ聲明シ散會ス

十一月四日首席代表間ノ私的會談

(綿布問題)

澤田代表ハ内地當業者ノ意嚮頗ル強硬ナル爲帝國政府ハ頗ル困難ナル立場ニ在ルモ特ニ印度側ノ事情ヲ諒トシ制限的條件ヲ撤廢シテ現實四億碼ノ輸入ヲ確保シ得ル協定ヲ以テ當業者ヲ説得セント決意セル旨ヲ説明シ印度案ニ依ル品種及季節別割當、從量稅ノ併用等ハ事實上日本綿布ノ輸入量ヲ二重ニ制限スルモノナルニ付印度側ハ日本カ最高限度四億碼ヲ認メントスル以上右ノ如キ制限的條件ヲ撤廢シ割當量ノ増加基準ヲ棉花百二十五萬俵ヨリ百萬俵ニ引下ケ割當量中ニハ再輸出ヲ含マシメサルコトヲ強調セル處ヲ代表ハ

- (一) 品種別割當ハ數量ト同様印度側ノ重視シ居ル處ニシテ之カ撤廢不可能ナルモ日本側ヨリ對案ヲ提出セラルルニ於テハ考慮スヘシ
- (二) 季節別割當ニ付テハ嚮ニ日本側ヨリ提出セラレタル案ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノト致度

(三) 棉花買付基準量ノ引下ハ農村政策ニ關スル重要問題ニシテ閣議

ニ於テモ強硬ナル反對アルヘク直ニ承認シ難シ

(四) 從量稅撤廢ハ實ハ英國側ヨリモ要求アリタルモ之ヲ拒絕シタル關係アリ到底應諾シ難シ

(五) 再輸出ノ除外ニ付テハ未タ同僚ト話合タルコトナキモ自分ハ之ヲ除外シ差支ナキモノト思考ス

トノ意見ヲ開陳セルカ澤田代表ノ求ニ依リ右日本ノ提議ヲ閣議ニ諮リタル上六日正式ニ回答スヘキ旨ヲ約セリ

第十一回本會議 十一月六日

(綿布問題)

「ボア」代表ハ十一月四日澤田代表ヨリ提議ノ諸點ニ就テハ慎重考慮シタルモ先日ノ印度側最後案ノ重要事項ハ之ヲ變更スルコト能ハス然レ共出來得ル限り日本側ノ要求ニ近付ケンカ爲次ノ如キ修正ヲナセリトテ其修正要旨ヲ聲明ス

(イ) 綿布輸入量三億二千五百萬碼ヲ増減スル基準ヲ何レモ棉花百萬俵トス但シ増加率ハ一萬俵ニ對シ百五十萬碼減少率ハ一萬俵ニ對シ二百萬碼トス從テ棉花百五十萬俵買付ニ對シ最高限四億碼ノ輸入ヲ認ム

(ロ) 品種別割當ハ印度側ニ於テ根本的主義トスル處ナルカ日本側ニ對案アラハ考慮スヘシ

(ハ) 二期別均分割當ノ日本提案ヲ承認シ一期分ノ一割ヲ限度トシ兩期相互間ニ繰越及繰込ヲ認ム但繰越及繰込力次年度ニ跨ル

場合ハ之ヲ一期分ノ五分以内トス

(二) 綿布棉花共再輸出量ハ本協定數量ヨリ之ヲ控除ス

(三) 印度政府ハ平織粗布以外ノモノニモ從量稅適用ノ權利ヲ留保

ス但シ右ハ一封度五安四分ノ一ヲ超過セサルモノトス

ニ澤田代表ハ過日ノ日本側提議ハ非常ナル困難ヲ忍ビテ作成セル妥協案ナルニ付之ヲ修正ナシニ承認スル様再考アラムコトヲ希望スル旨前置シタル後品種別及季節別割當並從量稅賦課權留保等ノ個々ノ問題ニ關シテ反對意見ヲ表明シ印度側ノ意嚮ヲ確ムル處アリボアハ品種別割當ニ就テハ專門家ノ意見ヲ徵シタル上ニ非サレハ確答シ難ク季節別割當ニ關シテハ專門委員ヲシテ話合ヲナサシムルコトト致度旨ヲ述ヘ更ニ從量稅ニ關スル留保ハ爲替ト無關係ニ日本品ノ價格カ下落スル場合及國庫收入ノ爲之ヲ賦課スル必要生スルコトアルヘキニ依リ之カ撤廢困難ナル旨ヲ主張セリ

十一月七日首席代表間ノ私的會談

(暫定取極問題)

澤田代表ハ暫定取極問題ニ關シ

(一) 一箇月ノ豫告廢棄條項ヲ有スル現行條約ノ延長案

(二) 現暫定取極ノ一箇月又ハ六週間延長案

(三) 日印双方互ニ關稅上ノ差別待遇ヲナササルヘキ旨會議席上ニ於

テ聲明シ之ヲ議事録ニ止ムル案

ノ三案ヲ逐次提議説明シ日印交渉ノ成功ヲ確保スル見地ヨリ無條件ニ印度カ何レカノ案ヲ採用スル様力說セルカ

ボアハ印度政府カ本件ヲ考慮スル爲ニハ日本側ニ於テ少クトモ印棉不買撤廢ノ聲明ヲナスコトヲ前提トセサルヘカラス日本側ニ於テ何等ノデモボアヲモナササルニ不拘本件取極ヲナシタル場合ハ印度政府ハ來ルヘキ議會ニ於テ窮地ニ陷ルヘク惹イテハ政府ノ最重要視シ居ル憲法改正問題ニ累ヲ及ホス惧アリトテ前記何レノ提案ニモ

應ヤス更ニ種々應酬ノ後亦アハ自分トシテハ日印交渉中日本品ヲ差別待遇スルカ如キ措置ヲ採ラサル考ナルモ日本側ニ於テ何等ノデエスモニテアヲ爲ササル限り印度政府ハ對内關係上十一月十日以後自由ノ立場ヲ保持スルコトヲ絶對必要トスル旨ヲ固執シ居レリ

第十二回本會議 十一月九日

(現行條約失效ニ關スル聲明並綿布問題)

澤田代表ハ現行日印條約カ十一月十日ヨリ失效スルコトハ甚タ遺憾ナル次第ナルモ本交渉ノ順調ナル進展ニ鑑ミ印度ハ新條約ノ締結ニ至ル迄日本品ニ對シ關稅引上等ノ措置ニ依リ差別的待遇ヲナササルヘキコトヲ確信スル旨聲明セルニ對シ

澤田代表ハ現行條約失效後印度政府カ如何ナル措置ヲ執ルヤニ關シテハ茲ニ確言シ得サルモ兩國間ニ條約關係ヲ復活スヘキ協定ヲ速ニ締結センコトヲ希望スル旨應答セリ

ニ次ニ綿布問題ニ關シ澤田代表ハ帝國政府ノ訓令ニ基キ左ノ提案ヲナセリ

品種及季節別割當ハ棉花買付量ニ對應スヘキ綿布輸入量ヲ二重ニ制限スルモノナルヲ以テ日本側ハ飽迄之力撤回ヲ主張スルモノナルモ若シ印度側カ左ノ修正ニ同意セハ該主張ヲ固執セサルヘシ

(I) 品種別割當

(i) 割當歩合 粗布四割五分 晒布二割

色物其他三割五分

(ii) 各品種間ノ割當融通限度 總量ノ一割五分

(2) 季節別割當

(i) 一年ヲ二期ニ分チ割當量ヲ均分ス

(ii) 兩期ノ割當量融通限度 總量ノ一割

(iii) 後半期ト翌年ノ前半期間ノ融通限度モ前記同様トス

(3) 平織粗布ニ對スル從量稅五安四分ノ一ハ從價ニ換算シテ五割ヲ超過セサル程度ニ引下クルコト

(4) 割當量

(i) 第一案 綿布割當最高限四億碼ハ印棉百三十七萬五千俵ト關聯セシメ割當量ノ増減率ハ一萬俵ニ對シ二百萬碼トス

(ii) 第二案 右(i)案ニ附帶シ印棉買付量百五十萬俵ヲ超過セル際

ハ其超過量ヲ翌年度分ニ繰越スコトヲ認ム

澤田代表ハ右提案ニ關シ特ニ品種別割當問題ヲ日本側カ重視シ居ル次第ヲ述ヘ我方ノ提議セル歩合ハ客年九月末以來一箇年間ノ實績ニ徴シテ作成セルモノナリト説明セルカ我々ハ右期間モ猶輸入攪亂時代ニ屬シ之ヲ基礎トスル能ハサル旨ヲ應酬シ更ニ從量稅ニ關スル我方提案ノ具體的説明ヲ質シタルヲ以テ松島書記官ハ右ハ現下ノ平織粗布平均相場ヲ標準トシ現實從量五割ニ相當スル從量稅ヲ要求スルモノナルコトヲ應答セリ

我々ハ右日本側提案ハ廣汎ナル事項ニ跨リ且印度政府カ讓歩シ得ル限度以上ニ出テ居ルヲ以テ同僚並當業者トモ協議スル必要アルヘキニ付直チニ諸否ヲ開陳シ得サルモ自分トシテハ印度政府カ右ニ同意スルコトニハ重大ナル困難アルヘシトノ感ヲ深クスル旨ヲ述ヘタリ

第十三回本會議十一月十五日

(綿布問題ニ關スル印度側最終案提出)

ボア代表ハ前回會議ニ於テ日本側ヨリ示サレタル提案ニ對シ印度側ノ回答カ斯克遲延シタルハ印度政府カ最モ慎重ニ日本案ヲ研究シ印度トシテノ最終案ヲ作成シタルニ依ル次第ヲ述ヘ左ノ如キ提案ヲナシ印度ハ之以上絶對ニ讓歩シ得サルニ付日本側モ右ヲ諒トシテ本案ヲ受諾セラレ度旨聲明ス

(1) 品種別割當ニ關シテハ其分類及割當率共印度側第二案以上讓歩スル能ハサルモ各品種別間ノ割當量融通ニ就テハ左ノ讓歩ヲナスヘシ

(イ) 各品種ニ對スル割當量ヲ當該品種基本割當量ノ一割ヲ限り増加スルコトヲ得

(ロ) 一品種ノ割當量ヲ他品種ニ振替フル限度モ當該品種ノ基本割當量ノ一割ヲ限度トス

(ハ) 但右割當量ノ融通ニ依リ割當總量ヲ増加セシムルコトヲ得ス

(2) 季節別割當量ノ融通ニ關シテハ前半期ト後半期間及後半期ト翌年前半期間相互ニ各半期分ノ一割ヲ限り繰越又ハ繰込ヲ認ム

但右融通ハ協定期間ノ最後ノ後半期ニ於テ全部調節セラルヘキモノトス

(3) 平織粗布ノ從量稅ヲ五安四分ノ一以下ニ引下クヘシトノ提案ニハ同意スル能ハス

(4) 四億碼ヲ百三十七萬五千俵ト關聯セシムル案ニハ同意スル能ハス依然四億碼對百五十萬俵トス但百五十萬俵ヲ超過セル部分ヲ翌年度分ノ印棉買付量ニ加算シ綿布割當量ト關聯セシムルコトニ同意ス

澤田代表ハ印度側カ日本案ヲ受諾スルニ至ラサリシヲ遺憾トシ特ニ品種別割當問題ニ關シテハ印度側ハ日本ヨリノ提案ヲ求メ置乍ラ尙印度側原案ヲ固執シ居ル事實ヲ指摘セルカボアハ印度側ハ既

ニ品種ヲ六類ヨリ四類ニ引下ケ更ニ今回各品種間ノ融通ヲ認メ出來得ル限リ日本側ノ要求ニ合致スル様努力セル旨ヲ述ヘ且從量稅五安四分ノ一ハ元來日本側ヨリ提案セルモノナリト述ヘタルヲ以テ澤田代表ハ日本側最初ノ提案ハ數量ニ於テモ又何等附帶的條件ヲ認メサリシ點ニ於テモ目下考慮中ノ提案トハ多大ノ懸隔アリスル變化セル狀態ノ下ニ於テハ當然稅率ノ點モ再考セラルヘキモノナル次第ヲ應酬ス

最後ニ澤田代表ハ日本政府トシテハ到底印度側提案ニ同意シ得サルヘシト思考スルモ更ニ充分考慮ノ上次回會合ニ於テ該案ニ對スル正式意見ヲ開陳スヘキ旨ヲ述ヘタリ

第十四回本會議 十一月廿一日

(日本側最終案提出)

澤田代表ハ左記趣旨ノ聲明ヲナセリ

日本側ハ前回ノ印度案ヲ慎重考慮シタルカ本交渉妥結ヲ促進スル爲ニハ微細ナル點ニ關スル討議ヲ排シ全般ノ問題ヲ一括解決スルコトノ有利ナルヲ信シ茲ニ最終且決定的提案ヲナシ度ニ付印度側ニ於テ該提案ヲ無修正ニ受諾セラレンコトヲ希望シテ止マス

提案ニ品種別割當 割當總量ノ一割ヲ限度トシテ各品種間ニ融通ヲ認ムルコト右ヲ印度側力無修正ニ承認スルコトヲ條件トシテ品種別割當量ニ關スル印度側最終案ニ同意ス但前記融通量ハ季節別ニ分割セラレサルモノトス

提案ニ季節別割當 印度側力前記提案一ヲ其儘承認スルコトヲ條件トシテ印度側最終案ヲ受諾ス

提案ニ割當量ト印棉 印度側カ提案一ヲ其儘承認シ且各般ノ懸案カ全部解決セラルルコトヲ條件トシテ四億碼ト百五十萬俵トノ關聯ヲ認メ百五十萬俵以上ノ超過量ヲ次年度分ニ繰込ム案ニ同意ス但割當量ノ増減率ハ何レモ一萬俵對百五十萬碼トス右條件満足セラレサル場合ハ第十二回會議ニ提出ノ日本案ニ復歸スル自由ヲ留保ス

提案四爲替 日本側ハ前述ノ通難キヲ忍ンテ多大ノ讓歩ヲナスヘキニ付印度側ハ爲替變動ニ關スル提議ヲ撤回セラレタシ

提案五雜貨 一定雜貨ニ對シ從量稅ヲ適用セントスル印度側提案ハ之ヲ承認スルモ右ニ關聯シ印度政府ハ雜貨ニ對シテモ綿布ニ對スルト同様關稅其他ニ關シ法律上並ニ事實上日本品ニ最惠國待遇ヲ與フルコトヲ保障シ之ヲ會議ノ議事錄ニ留ムルコト並ニ「日印兩國ノ一方カ將來關稅率ノ引上稅番ノ修正等ヲナス場合ニ於テハ相手國ノ貿易上ノ利益ヲ著シク害セサル様考慮スルコト若シ右措置

カ相手國ノ貿易上ノ利益ニ著シキ影響ヲ與ヘタル場合ハ該相手國ノ申出ニ依リ兩國ハ兩國間ノ通商上ノ利益ヲ調整スル目的ヲ以テ商議ヲ開始スルコト」ノ條項ヲ新條約中ニ挿入スルコトニ同意シ右趣旨ノ聲明ヲ議事錄ニ留ムルコトヲ承認セラレタシ

提案六緬甸 緬甸カ現實ニ印度ヨリ分離セララル以前ニ本問題ニ關スル確定的協定ヲナスコトハ不必要ト認メララルニ付印度側ハ本件提議ヲ撤回セラレタシ

提案七輸出入禁止制限 輸出入禁止制限ニ關スル最惠國待遇ノ原則ヲ新條約中ニ挿入スルコトヲ承認セラレタシ

提案八 新條約ノ實施 本問題ニ關シテハ前顯提議解決後商議スルコトト致度

右提案ニ關シ澤田代表ハ詳細説明ヲ加ヘテ日本側カ提案第一ヲ極メテ重要視シ居ル點ヲ強調シ且各種懸案ノ全般的解決ヲ以テ印度側提案ノ綿布割當量ヲ受諾スル前提トスヘキ旨ヲ主張セリボア代表ハ日

本側提案ハ廣汎ナル問題ヲ包括シ居ルカ故ニ充分考慮シタル上ニ非
サレハ最終的の回答ヲ表示シ得サルモ日印双方提案ニハ尙大ナル懸隔
アルニ付印度政府カ日本側ノ提議ニ何ノ程度迄同意シ得ルヤ甚々疑
問ナル旨ヲ述ヘタリ

十一月廿五日首席代表間ノ私的會談

(日本ノ最後案ニ關スル内談)

ボア代表ハ澤田代表ヲ來訪シ日本ノ最後案ニ關シ内談ス

一 融通　ボア代表ハ各品種間一割ノ融通率承認ニハ當業者ニ大ナル
反對アリ又各品種別ニ就テ季節別割當ヲ適用セサルトキハ短期間
ニ多量ノ輸入ヲ見ル可能性アリ右何レニモ同意シ難キモ日本ノ重
視スル晒布ノ融通ニ就テハ過去ノ數字ニ基キ幾分修正シ得ヘシト
述フ

澤田代表ハ個々ノ點ヲ反駁シタル後日本側カ最も重要視シ居ルハ
融通率ノ問題ナルヲ以テ此點ニ就キ印度側カ讓歩セサル場合ハ會
商ノ前途モ頗ル危マルル次第ヲ述ヘ日本案受諾方ヲ要求セリ

ニ 雜貨　ボアハ澤田代表ト日本側提議五ニ關シ種々討議ノ後要スル
ニ印度ハ國內産業ヲ保護セントスルニ過キス特定國ノ商品ノ輸入
ヲ禁止セントスルカ如キ動機ヲ有スルモノニ非サルモ産業保護ノ

爲高率課税ヲナスコトアルハ已ムヲ得ス但相手國ノ求ニ應シ商議スルコトニハ異議ナキ旨ヲ述フ

三 緬甸 日本カ本問題ヲ重大視スルハ諒解ニ苦シムトノ質問ニ對シ澤田代表ハ斯ル不確定ナル事項ヲ規定シ置ク必要ナキコト及斯ル規定ヲ設クルトキハ日本綿布四億碼ノ輸入ヲ認容セル印度側ノ誠意ニ疑ヲ抱クモノアルヘキコト等ヲ説明セリ

四 輸出入禁止制限條項 邦アハ日本側カ本件ニ關シ米ノ除外ヲ主張セハ印度側モ同様ノ留保ヲナスヘク斯テハ斯ル規定ノ效果ハ殆ント消滅スヘキ旨ヲ述フ

五 銑鐵 邦アハ日本ニ於ケル銑鐵問題ニ關シ質問セルヲ以テ澤田代表ハ現行税以上ニ引上ラルルコトハ當分ナカルヘキ旨ヲ應答ス

六 沿岸貿易 邦アハ日本政府ニ於テ日本船ノ緬甸印度間ノ沿岸貿易ニ介入スルコトヲ禁スル様インフルエンスヲ用ヒンコトヲ希望シ公文ノ交換ニ依リ本件ニ關スル紳士的協約ヲナシ度意嚮ヲ披瀝

ス

七 爲替條項 邦アハ印度側ハ飽迄之カ挿入ヲ固執スヘキ旨ヲ述ヘタ

リ

第十五回本會議十二月四日

（印度側最終案提出）

代表ハ十一月廿一日ノ日本側提案ニ對スル回答ノ遅延シタルハ甚遺憾ナルモ右ハ其重大性ニ鑑ミ慎重考慮セルカ爲ナリト前置シ印度側ハ該日本案ヲ無修正ニ受諾シ得サルモ日本側ニ於テハ當方ノ立場ヲ充分諒解セラレ印度側ノ提案ニ同意セラレンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ日本側最終案ニ對シ要旨左ノ如キ回答ヲナセリ

提案ハ各品種間ノ融通率ヲ増加シ並各品種別割當量ニハ希節別割當ヲ適用セストノ提案ニハ同意シ得ス（晒ヲ例ニ引キ印度側提案ニハ公平ナル數字ヲ基礎トセルモノナル旨ヲ述フ）

提案ニ季節別割當ニ關スル日本ノ同意ヲ承認ス

提案ニ割當量増減率ノ變更ハ承認シ得ス

提案ニ爲替ニ關スル印度側提案ハ之ヲ撤回シ得ス

提案ニ印度政府ハ日本側ノ希望ヲ尊重シ日本品ニ對スル差別待遇ヲ

避クル爲一定雜貨ニ對シ從量稅ヲ適用ヤントノ意嚮ヲ有スル旨第十二回會議ニ於テ聲明セルモ右ハ一ノ提議トシテ日本側ノ考慮ヲ求メタル意味ニ非ス印度側ハ關稅ニ關スル最惠國待遇條項ヲ新條終中ニ挿入スルコトニハ同意スルモ稅量稅ニ關シ日本ノ提議スルカ如キ特別ノ保障ヲ與フル能ハス但提案ニ第二點ニ關シテハ次ノ如キ聲明ヲナスコトニ同意ス

「兩國ハ自國ノ利益ノ爲必要ナル關係上ノ變更ヲナス權利ヲ留保スルモ一方國ノ關稅上ノ變更力相手國ノ貿易上ノ利益ニ重大ナル影響ヲ與ヘタル場合ハ該相手國ノ求ニ依リ兩國ハ兩國ノ貿易上ノ利益ヲ出來得ル限り調和スル目的ヲ以テ商議ヲ開始スヘシ」

提案ニ緬甸カ分離スルト否トニ不拘協定期間中總テノ協定條項ヲ存續セシムルコトヲ條件トシテ印度側從來ノ主張ヲ撤回ス

提案ニ綿布ノ輸入制限ヲ例外ト認ムルコトヲ條件トシ輸出入禁止制限ノ最惠國待遇ニ關スル日本側提案ニ同意ス尤モ印度ハ依然舊日

印條約ノ條項ヲ以テ該待遇ヲ保障シ居ルモノナリトノ見解ヲ捨テ
ス

提案ハ新條約ノ實施ニ關スル日本案ヲ承認ス

澤田代表ハ印度側ノ回答ハ日本側トシテ讓歩シ得ル最極限ヲ示セル
我最終案ノ重要點ヲ總テ拒絕セルモノニ等シキコトヲ指攝シ斯ル決
定的事態ニ立至レルニ鑑ミ印度側ハ其回答ヲ再考シ得サルヤト尋ネ
タルモ澤田ハ印度側ノ立場ヲ重ネテ説明シ再考ノ到底不可能ナル旨
ヲ答ヘテ應セス

澤田代表ハ本日ノ印度側回答ハ其重要性ニ鑑ミ帝國政府ニ之ヲ通シ
其處決ヲ促スノ他ナシト述ヘタル後今後本交渉ヲ繼續シ得ル場合ノ
便宜ノ爲印度側ノ爲替條項案ヲ直チニ提示アリタキ旨並輸出禁止
制限條項ニハ日本側ハ米ヲ除外スヘキ旨ヲ述ヘタル處ボアハ爲替條
項案ハ一兩日中ニ送付スヘク又米ノ除外ニ對シテハ充分考慮ノ上回
答スヘキ旨ヲ應答セリ

十二月四日 首席代表間ノ私的會談

(印度側最終案ニ關スル内談)

本會議終了後ボア代表ハ澤田代表ニ對シ左ノ趣旨ヲ述ヘタリ

本會商開始以來印度ニ於ケル空氣極メテ良好ナリシヲ以テ過日私
的會談ヲナシタル際ノ如キハ適當ノ妥協點ヲ見出シ得ヘキ希望ヲ
有シ居レルモ其後日本當業者ハ印棉不買決議ヲ再ヒ確認スル旨聲
明シ印度官民ニ異常ナル衝動ヲ與ヘタリ右聲明ハ固ヨリ日本政府
ノ關與シタル處ニ非サルモ印度政府トシテハ斯ル脅迫の空氣ノ中
ニ讓歩ヲ敢行スル能ハサルヲ以テ棉花栽培者ニハ必要ノ場合財政
上ノ援助ヲ與フルコトニ決セリ又印度政府ハ本會商ノ終了スル迄
綿布其他ノ關稅ヲ据置クコトトナシ居レル處會商長引クニ連レ諸
關係國ヨリノ要求及國內當業者ヨリノ陳情愈々甚シク最早之ヲ制
シ得サル情勢ニ立到レリ

右二點ハ本日ノ印度側最終案ト共ニ日本政府ヘ詳細御報告願度

右ニ對シ澤田代表ハ

純然タル民間ノ行爲タル印棉不買確認聲明ノ爲折角誠意ヲ以テ本會商ニ當ル居ル日本政府ヘノ態度ヲ變セラハルカ如キハ諒解シ難ク又會商遲延ハ決シテ日本側ノ責任ニ非ス我代表部ハ態々日本ヨリ渡來シ居ルニ不拘印度側ハ本日ノ案ヲ提出スル爲二週間ノ時日ヲ費シタルニ非スヤ然ルニ印度側カ斯カル態度ニ出テラレタルハ頗ル遺憾ナリ

ト先方ノ述ヘタル點ニ一應反駁ヲ加ヘ置キタル後右二點ハ兎ニ角日本政府ヘ傳達スヘキ旨ヲ約セリ

十二月七日

首席代表間ノ私的會談

(前回會談ノ繼續)

十二月四日本會議ニ提出ノ印度側最終案ニ關シ再ヒ兩代表會談先ツ澤田代表ヨリ大阪ニ於テ印棉不買再確認ノ聲明ヲナセル事情ヲ説明シタル上日本政府トシテハ終始一貫誠意ヲ以テ本會商ニ當リ居リ今同當業者ノ行動ハ之ヲ遺憾トシ彼等當業者ヲ戒飾シ置ケル程ナルカ印度側ニ於テ斯ル派生的事件ノ爲急ニ態度ヲ一變セラレタルハ甚残念ニシテ印度政府カ斯ル態度ヲ持スル以上假令條約成立ストモ到底満足ナル日印關係ヲ繼續シ得サルヘキ旨ヲ述ヘタルニ對シボア代表ハ印度當業者及棉花栽培者カ共ニ強硬議論ヲ以テ政府ニ迫レル結果政府トシテモ讓歩シ得サリシ次第ヲ述ヘ且目下開會中ノ議會モ日本綿業者ニ對抗スル決議ヲナサントノ意嚮ヲ有シ居レルモ之ヲ極力慰撫セル事情等ヲ語リタル後自分トシテハ依然本會商成功ノ爲充分貴代表ト協力スルコトヲ惜マスト述居レリ

十二月九日 首席代表間ノ私的會談

(前回會談ノ繼續)

澤田代表ハ印度側カ日本ノ最後案ヲ全然一蹴セル爲日本政府ハ目下非常ニ困難ナル立場ニ在ル次第ニ付之カ打開策トシテ全然代表部限リニ於テ試案ヲ考慮セル旨ヲ述ヘ印棉不買再確認ノ聲明カ夫程印度官民ヲ刺戟シタルモノトセハ日本政府ノインフルエンスニ依リ速ニ不買決議ヲ撤回セシムルニ於テハ何等カ印度側ハ讓歩シ得ヘキヤト訊ネタル處ボア代表ハ今トナリテハ到底再考シ得サルヘキ旨ヲ最初固執シ居レルカ澤田代表ヨリ諄々説得セル結果ボアモ自分トシテハ幾分考慮ノ餘地存スヘキヤニ考フルモ到底日本ノ希望スルカ如キ程度ニハ及ハサルヘシト答ヘタルヲ以テ澤田代表ハ例ヘハ緣附粗布ト晒布トノ割當率ヲ入換ヘ融通率ヲ全量ノ五%トスルカ如キ程度ノ讓歩ヲ考慮セラレ度旨述ヘタルモボアハ右ノ如キ讓歩ハ到底不可能ナルカ例ヘハ各品種間ノ融通率ヲ各品種別割當量ノ二〇%

ニ引上ケル程度ノコトハ或ハ可能ナルヘキニ付一應閣僚ニ相談スヘキ旨ヲ約セリ

次ニ澤田代表ハ割當量ノ減少率ヲ増加率ト同様一萬俵對百五十萬碼ト改メラレ度旨説得ニ努メタルモボアハ斯クテハ日本ハ一俵モ棉花ヲ買付ケスシテ一億七千五百萬碼ノ綿布ヲ輸出シ得可ク到底再考シ難シトテ右申出ニ應セス

更ニ爲替問題ニ付澤田代表ハ爲替下落ノ場合ハ稅率變更ニ關シ直ニ商議ヲ開始スルコトトシテ妥結シ度旨頻リニ主張セルモ先方ハ之ニ應セス依テ同代表ハ自分限リノ考トシテ先日印度側ヨリ送付シ來レル爲替條項案ノ不合理ナル點ニ付不取敢再考ヲ促シ度トテ次ノ點ヲ指摘ス

右案ハ「本協定中ノ如何ナル規定モ今後更ニ圓ノ對留比比價下落ノ場合印度政府カ其影響ヲ矯正スルニ必要ト認ムル程度ノ特別關稅ヲ日本品ニ對シ差別的ニ賦課スルコトヲ禁スルモノニ非ス」

トセラレ居ル處右ニ對シテハ

(一) 一度特別關稅賦課後爲替回復シタル際之ヲ撤廢又ハ低減スル規定ヲ設クル必要アリ

(二) 例ヘハ「二割以上爲替力下落シ三、四ヶ月間其狀態力繼續シ國內産業ニ脅威ヲ及ホシタル場合」ト言フカ如キ制限ヲ附スル必要アリ

(三) 綿布關稅ハ割當量ト關聯シ一種ノ協定稅率ナルヲ以テ之ニハ本規定ヲ適用セサルヘキコト

ボアハ自分一個ノ考ヲ云ヘハ現在ノ印度關稅ハ目下ノ圓相場ニ比シ頗ル低率ナルヲ以テ(一)ノ點モ直ニ承認シ難ク又例ヘハ「二割以上下落シ何ヶ月間其狀態力繼續スル場合」ト云フカ如キ數學的規定ハ實際ノ必要ニ適合セサルヘク更ニ綿布ニ就テモ日本力價格統制ヲ約束セサル限り例外規定ヲ設ケ難シト述ヘタルカ兎ニ角本案ニ就テハ日本側ヨリ正式ニ修正案ヲ提出セハ専門家ヲシテヨク研究セシムヘキ旨ヲ語レルヲ以テ澤田代表ハ我方修正案ヲ送付スヘキ旨約セリ

十二月十六日 首席代表間私的會談

一 融通率問題

ボア代表ハ過日御話ノ日本代表部ノ意嚮及自分ノ内談セル私案ニ付テハ一應同僚ト相談シタルモ反對者多ク何等決定ニ至ラザリキト語り日本側ヨリノ爲替條項修正案提出ノ際改メテ正式閣議ニ諮ルヘキ旨ヲ述フ

澤田代表ハ本件重要性ヲ強調シテ重ネテボアノ盡力ヲ希望ス

二 輸出入禁止制限問題

澤田代表ハ日本政府ハ本問題ニ關スル印度側ノ回答ヲ考慮シタル結果本會商妥結促進ノ爲該提案ヲ撤回スルコトニ決シタル旨ヲ述ヘボア之ヲ諒承ス

三 爲替條項

澤田代表ハ日本政府モ印度側ノ意嚮ヲ尊重シ終ニ本條項挿入ニ同意セル旨ヲ述ヘ九日ノ會議中ニ於テ私見トシテ述ヘ置キタル點ヲ

修正附加シ且双務的規定トナシタル案文ヲ提示シ各修正ノ個所ニ付其理由ヲ詳細説明シタル處ボアハ該修正案ヲ一應閣議ニ諮リタル上兩代表部委員會ノ協議ニ附スヘキ旨ヲ約セリ

四 雜貨ノ輸出統制問題

ボアハ雜貨ニ關シテハ今次ハ從量稅ノ適用ニ依リ産業保護法ノ適用ヲ避クルコトトスルモ將來再ヒ國內工業カ日本品ヨリ脅威ヲ受クルカ如キ事態生スレハ又々條約廢棄等ノ問題ヲ惹起スヘキニ付之ヲ避クル爲日本政府ニ於テハ既ニ一部雜貨ニ付實施中ノ趣ナル輸出統制ヲ一層勵行シテ印度ノ産業ニ脅威ヲ與ヘサルヘキ旨ヲ條約又ハ公文交換ニ依テ保障セラレ度旨ヲ述ヘタルヲ以テ澤田代表ハ日本ニ於テハ既ニ生産及輸出ノ統制ヲ自發的ニ行ヒ居ルヲ以テ貴代表ノ惧レラルル處ハ杞憂ニ過キササルヘク斯ル問題ヲ會商ノ終末ニ至リ新規ニ提議セララルハ本會商ヲ益々紛糾セシムルモノナリトテ之ヲ反駁セルカボアハ此點ニ付何等カノ保障ヲ得度旨繰返

シ居レリ

尙ボアハ一定雜貨ニ對スル從量稅設定ノ法案ヲ近ク議會ニ附議スヘキ旨ヲ内話セリ

十二月十九日爲替條項ニ關スル委員會

十六日首席代表間ノ話合ニ基キ爲替條項ニ關スル兩代表部員ノ會合開催

印度側委員ハ爲替下落ノ影響ハ必シモ下落率ノ大小ニ依ラサルコト又下落狀態ノ繼續スル場合ハ反テ影響少キコト等ヲ主張シ「圓價カ二割以上下落シ其狀態カ二ヶ月以上繼續セル場合」ト云フ我方案ノ規定ヲ駁シ更ニボア代表力從來述ヘ居タルト略同趣旨ノ意見ヲ以テ我方案ニ批判ヲ加ヘタルカ我方委員ヨリ種々説明スル處アリ結局印度側委員モ我方ノ意嚮ヲ參酌シテ從來ノ案ニ左記趣旨ヲ追加スルコトヲ提議シ我方委員ハ充分之ヲ考慮シ置クヘキ旨ヲ約セリ

一但印度政府カ斯ル特別關稅ヲ日本品ニ賦課スル際ハ日本ニ於ケル原料品ノ輸入價格及日本國內物價ノ調節等所有ル原因ニ充分ノ考慮ヲ加ヘ必要以上ノ課稅ヲ爲ササルヘク且一度右課稅後爲替相場或ハ他ノ原因ニ變化ヲ來シタル場合ハ其變化ニ應シ稅率ヲ適當修正スヘキコトヲ約ス

十二月十九日首席代表間ノ私的會談

一爲替問題 澤田代表ハ當月七日ノ專門委員會ノ經緯ニ言及シ印度側修正案中ニ日本側ノ主張ヲ充分取入レサリシヲ遺憾トスル旨ヲ述ヘタルカボア代表ハ印度側ノ言分ヲ繰返シ同修正案ヲ日本政府カ受諾スル様希望セリ

ニ融通率問題 ボアハ印度政府閣議ノ結果トシテ

印度政府ハ印度側最終案ヲ變更シ得サルヲ遺憾トスルモ友誼ノ表示トシテ且會議ヲ促進スル目的ヲ以テ日本政府力十日以内ニ印棉不買撤回ヲ確保シ且爲替條項ニ關スル印度側提案ヲ主義上受諾スルコトヲ條件トシテ緣附粗布及晒布ノ融通率ヲ當該品種ニ對スル割當量ノ二〇%ヲ限度トシテ之ヲ認ムヘシ

トノ趣旨ヲ記載セル文書ヲ讀上ケタリ澤田代表ハ斯ル些少ナル讓歩ニ重大ナル條件ヲ附スルノ不當ヲ指摘シ殊ニ日本側力故意ニ會議ヲ遷延シ居ルモノニ非サルコト明ナルニ不拘期限附ニテ斯ル申

出ヲ爲サルルニ於テハ反ツテ日本側ノ感情ヲ刺戟シ折角貴代表ノ努力モ效果ヲ失スヘキ旨述ヘタルカ察アハ右決定ハ閣議ノ結果ニシテ如何トモ變更シ難キモ前述ノ期限ニ就テハ兩三日ノ餘裕ヲ存シ差支ヘナカルヘク又斯ル期限ヲ附シタルハ印度農民ノ要望及會商促進ノ誠意ニ出ツルモノニシテ決シテアルチダ―タムニ類スル不穩當ナル意味ノモノニ非サル旨ヲ述ヘ澤田代表ノ諒解ヲ求メタリ

十二月二十日首席代表間ノ私的會談

(初年度割當量問題)

澤田代表ハ昨日提示ヲ受ケタル印度案ノ性質及趣旨ニ鑑ミ此際取急キ初年度割當量ヲ如何ニ定ムルカノ點ヲ協議シ其結果ヲ日本政府ニ報告シテ同案ヲ證諸スル際ノ參考タラシメ度キ旨ヲ述ヘタル後本年度ハ印棉不買行ハレ居ルヲ以テ本年度ノ印棉買付量ヲ基準トシテ來年度ノ割當量ヲ決スルハ不公平ナル所以ヲ説明シ初年度割當量ハ四億碼ト定メ度キ旨ヲ述ヘタルカ察ア代表ハ初年度割當量モ當然一般原則ニ依テ定メラルヘキ旨應酬シ兎モ角本問題ハ閣議ニ諮リタル上回答スヘキ旨ヲ約ス

次ニ澤田代表ハ印棉買付量ヲ算定スヘキ年度ノ始期ヲ一月トシ之ニ關聯セシムヘキ翌年ノ綿布割當ノ始期ヲ四月トスルコト而シテ初年度割當ハ一九三四年四月ヨリ開始スルモノトシテ綿布協定實施期ヨリ一九三四年三月三十一日迄ノ割當量ハ一年當リ四億碼ノ按分比例

トスルコトニシ度キ旨ヲ述ヘ其理由ヲ説明シ且凶年ニ於ケル棉花買付量ヲ基準トシテ翌年度ノ割當量ヲ決定スル場合ニ對シ特別ノ規定ヲ設ケ置ク必要アルヘキ旨ヲ主張セルニ對シボアハ初年度割當問題ト一括閣議ニ提出シ考慮ヲ求ムヘキ旨ヲ約セリ

十二月二十二日印度側ヨリ接受セル書翰ノ要旨

(十二月二十日澤田代表申出ニ對スル回答)

(一) 綿布割當年度ノ始期ヲ四月トスルコトニ同意スルモ該割當量ハ前年四月以降一年間ノ印棉買付量ニ關聯セシム特ニ印棉買付量算定年度ノミヲ歷年ニ依ル必要ヲ認メ得ス

(二) 初年度割當量ヲ例外的規定ニ依リ決定スルノ理由ナキモノト認ム日本ハ今後明年四月迄印棉買付ニヨリ相當量ノ初年度割當量ヲ獲得スヘシ

(三) 今次協定ノ實施日ヨリ明年三月末迄ノ短期間ノ割當量ハ右(一)ノ原則ニ依リ其按分比例ヲ以テ決定スヘシ

(四) 過去十四年間印棉ノ輸出量ハ二百萬俵以下ニ下リタルコトナク印棉生産總量ハ四百萬俵ヲ下リタルコトナシ殊ニ印棉ノ生産ハ増加ノ傾向ニ在リ故ニ凶年ニ對スル特別規定ヲ設クル必要ナカルヘシ

十二月二十六日首席代表間ノ私的會談

ハ初年度割當量

澤田代表ハ會議ノ初期ニ於テ印度代表ハ本件問題ニ關シテハ日本ニ不利ナラサル解決ヲ爲シ得ヘシト言明セルニ不拘最近ノ印度側ノ意嚮ハ決シテ日本ヲ満足セシムルモノニ非サル旨ヲ述ヘ

(一) 協定締結前ノ事實ヲ基礎トシテ割當量ヲ決定スルノ不合理ナルコト

(二) 印度側ハ印棉不買ノ結果ハ當然日本當業者ニ於テ負擔スヘキモノナリト主張スルモ日本當業者ハ印棉不買ヲ惹起セル實ハ印度政府ニアリト反駁スヘク協定締結ニ際シ双方共相手國ヲ糾彈スルカ如キ態度ヲ持スルニ於テハ到底協定ノ満足ナル運用ヲ期シ難シ

(三) 初年度割當量ヲ大ナラシムル爲日本カ今後來年三月末迄ニ多量ノ印棉買付ヲ爲サントスルモ相場及船腹等ノ關係アリ到底不可

能ナリ

(四) 協定期間ヲ三年トシ毎年度ノ割當量ヲ前年度印棉買付量ニ關聯

セシムレハ唯二年間ノ割當量ノミ協定期間中ノ印棉買付ニ關聯

セシムルコトトナルノミナラス第三年度ノ印棉買付ハ何等關聯

セシムヘキ割當量ナク印度側ニトリテモ有利ナラサルヘシ

トテ印度側ノ再考ヲ求メタルカボア代表ハ之ニ應セス依テ澤田代表ハ初年度ノ割當量ハ假ニ四億碼トシテ初年度ノ印棉買付カ百五十萬俵以下ナリシ場合ハ翌年度割當量中ヨリ前年度ノ超過量丈差引クコトトシテハ如何ト提議セルモ同一年度ノ印棉買付量ヲ兩年度ノ割當量ニ關聯セシムルハ不當ナリトテ先方之ヲ受諾セス種々押問答ノ末澤田代表ハ純然タル私見トシテ要スルニ三年間ニ印棉買付四百五十萬俵綿布輸入十二億トナルカ如キフオミユラヲ協定セハ双方ヲ満足セシメ得ヘキ旨ヲ述ヘタル處ボアモ大体之ヲ首肯シ閣議ニ諮ルヘキコトヲ約シ尙日印双方共此主義ニ同意セハ其

フオーミユラニ就キテハ兩代表部員間ノ話合ニ委ヌヘキ旨ヲ合意セリ

ニ 印度側ノ期限付要求問題 澤田代表ヨリ過日印度側ノ提示セル十日ノ期限付回答要求ノ不當ヲ責メタルニ對シボア代表ハ右ハ印度國內事情ノ爲一日モ早ク妥結ヲ促進スル必要アルニ依レルモノニシテ他意アル次第ニ非サル旨並右期間ハ必スシモ嚴格ニ固執セントスルモノニ非サル旨ヲ釋明ス

ニ 雜貨從量稅問題 澤田代表ハ印度政府力數日前印度議會ニ提出セル新從量稅案ハ特ニ日本品ニ對シ禁止的高率關稅ヲ課セントスルモノニシテ今次會商中印度側累次言明ノ趣旨ニ反スルコト並ニ會商將ニ妥結ニ達セントスル際ニ突如斯ル措置ニ出ツルコトノ不當ナル所以ヲ述ヘ印度政府ノ考慮ヲ促シタル處ボアハ今次ノ措置ハ最惠國待遇ノ約束ニ何等反シ居ラサルコト及此種課稅ハ本會商ノ妥結ヲ期待シテ今日迄遷延シ來レルモ之以上遷延

スルコト到底不可能ナル旨ヲ說明ス

四 爲替條項 澤田代表ハ過般印度側ヨリ提示ノ爲替條項案ニ關シ其缺點ヲ指摘シ印度代表部カ日本ノ主張ヲ充分考慮スル様說得ニ努メタリ

十二月廿九日 綿布割當量及爲替問題委員

一 綿布問題

十二月二十六日首席代表間ノ話合ニ依リ如何ニスレハ三箇年ノ協定期間内ニ於ケル印棉買付量四百五十萬俵ト日本綿布輸出量十二億碼トヲ關聯セシメ得ルヤ其方式ヲ協議スル爲ノ會合ナルヲ以テ先ツ日本側委員ハ左ノ二案ヲ提出シ第一案採擇方ヲ希望セリ

第一案

(1) 棉花年度ヲ一月ヨリ十二月末迄ノ一箇年ト定メ之ニ關聯スヘキ綿布年度ヲ同シ年ノ四月ヨリ翌年三月末迄ノ一箇年トス

(2) 第一綿布年度ノ割當量ハ四億碼トシ之ヲ前後兩半期ニ均分ス

(3) 第二綿布年度ノ割當量ハ

(A) 若シ第一棉花年度ニ於ケル實際印棉買付量カ百五十萬俵以上ナリシ場合ハ四億碼トシ

(B) 若シ右買付量カ百五十萬俵以下ナリシ場合ハ其ノ差額ニ對應

スヘキ綿布ノ一定量ヲ四億碼ヨリ控除シタルモノトス

右(A)又ハ(B)ノ量ヲ前後兩半期ニ均分ス

(4) 第三綿布年度ノ割當量及半期割當量ハ(3)ノ原則ニ準據シテ定ム但シ協定期間ヲ延長セサル限り第三棉花年度ノ實際印棉買付量カ百五十萬俵以下ナリシ場合ハ其差額ニ對スヘキ綿布ノ一定量ヲ右第三年度割當量中ヨリ控除シ其數字ニ基テ第三綿布年度ノ末(一月ヨリ三月迄ノ間)ニ於テ印度ヘノ輸入調整ヲ行フモノトス

第二案

(1) 毎綿布年度前半期ノ割當量ヲ二億碼トス

(2) 毎綿布年度後半期ノ割當量ハ之ニ關聯スヘキ棉花年度ノ實際印棉買付量ニ對應スヘキ綿布ノ一定量ヨリ二億碼ヲ控除セルモノトス

我方委員ハ印度側ノ從來主張シ來レル前年度印棉買付量トノ關聯主義ノ不利ヲ指摘シ前記兩案ノ長所ヲ説明シ先方委員ト論議ヲ重ネタリ

ニ爲替條項

我方委員ヨリ日本ノ修正案ヲ提出シ同修正案ニ就キテ討議ス
同案中ニハ「爲替特別稅ヲ新ニ賦課又ハ變更スル場合ニハ既ニ輸送中ノ貨物ニハ之ヲ適用セサルヘシ」トノ項ヲ挿入シ居レル處印度側委員ハ斯ル取扱ハ實際行政上不便多キノミナラス斯ル際ノ課稅ハ輸入者ニ於テ負擔スルモノナルニツキ特ニ此種例外規定ヲ設クル必要ナキ旨ヲ強調シ居レリ

十二月二十九日 首席代表間ノ私的會談

(一) 雜貨從量稅問題

澤田代表ハ十二月二十二日印度政府ノ提案セル新從量稅ニ關シ詳細ナル點ニ論及シ印度政府ノ再考ヲ促シタル後特ニ契約濟及轉送中ノ貨物ニ付特別取扱方及從量稅ヲ審議スヘキ日印混合委員會ノ組織方等ニ付我方ノ希望ヲ述ヘタルカ亦代表ハ種々印度側ノ事情ヲ説明シ日本側申出ニ應スルコト頗ル困難ナルヘキ旨ヲ述ヘタリ

(二) 綿布割當量及爲替問題

澤田代表ヨリ當日委員會ニ提出ノ日本案ヲ考慮方申述ヘタルニ對シ亦アハ至急閣議ニ諮リ何分ノ回答ヲナスヘキ旨約セリ

十二月三十一日 印度側ヨリ送付越セル回答文要旨

ハ綿布割當量問題

十二月二十九日我方委員ノ提示セル第二案ヲ採擇ス

兩半期間ノ融通率ハ一〇%ヲ改メ二千萬碼トス
但同一年度ニ於ケル後半期ヨリ前半期ヘノ委譲ヲ認メス
ニ爲替條項

十二月二十九日我方委員提示ノ案ニ就テハ輸送中ノ貨物ニ關スル
例外規定ヲ除ク外大體我方ノ欲スル趣旨全部ヲ採擇シ多少字句ヲ
變更シタル新案文ヲ送付越セリ

十二月三十一日首席代表間ノ私的會談

(綿布ニ關スル兩代表部合意事項ノ實施ト條約起草問題)

京ア代表ハ本日ノ印度側回答ヲ日本カ受諾シ印棉不買ヲ特定ノ日ニ
撤廢スヘキ旨ヲ聲明スルニ於テハ右印棉不買撤廢ト同時ニ印度ノ綿
布關稅ヲ引下ケ割當制度ノ實施ニ移ルヘキ旨ヲ述ヘ過般來問題トナ
レル印棉不買撤廢期限ノ要求ヲ撤回セリ而シテ更ニ兩代表協議ノ結
果右實行日ヲ一月八日トシ夫以前ニ(可成一月四日)本會議ヲ開催
スルコトトシ其議事録ハ双方代表部委員間ニテ協議ノ上作成シ翌日
之ヲ公表スルコトニ決シ條約文ノ起草ハ一月五日以後双方起草委員
ヲシテ之ヲ行ハシムルコトニ話合ヲ繼メタリ

一月二日首席代表間ノ私的會談

一 爲替條項

澤田代表ハ十二月三十一日印度側ヨリ送付越セル爲替條項案中「印度政府ノ必要ト認ムル稅率」トアルヲ「必要程度ノ稅率」ト改メ度キ旨ヲ提議セルカボア代表ハ既ニ印度側ハ日本原案ニ付此點ヲ充分考慮セルモ結局必要程度ヲ決定スルモノハ政府自身ナルニ付之ヲ明瞭ニナシ置クヲ可トスヘク且日本ニ關シテモ相互的規定アルニ付差支ナカルヘキ旨ヲ固執セリ

ニ 一九三四年一月ヨリ三月末迄ノ割當量問題

澤田代表ハ右三箇月間ノ割當量モ一般原則ニ備シ一九三三年一月ヨリ十二月末迄ノ印棉買付量ニ對應スヘキ一箇年間割當量ノ按分比例ニ依ラントスル印度案ニ同意スヘキモ右三箇月ノ割當量ヲ獨立ノモノトシテ取扱ヒ品種別割當等ヲ適用スルコトナク該期間ノ割當量ト一九三四年四月ヨリ開始スヘキ初年度前半期

ノ割當量ト一括シ同年九月末日迄ニ決濟スルコトトシ度旨ヲ述ヘ二案ヲ提示シテ印度側ノ考慮ヲ求メ置ケリ

三 本會議及印棉不買撤廢及印度側ノ關稅引下問題

澤田代表ハ本件ニ關シ十二月三十一日ノ話合ノ點ヲ日本政府ヨリ承認シ來レル旨ヲ述ヘタルニ對シボアモ其プログラムニテ進ミ度ク目下手配中ノ旨ヲ答ヘタリ尙本會議ハ本月五日開催ニ決定

四 雜貨從量稅問題

澤田代表ハ本件ニ關シ日本政府力著シク憂慮シ居ル次第ヲ述ヘ來ル五日ノ本會議ニ於テ本件ニ關スル印度政府ノ保障ヲ要求スヘキ力故ニ貴代表ヨリ之ニ應答セラレ度シトテ其案文ヲ示シタル處ボアハ大体其趣旨ニ同意セリ

一月三日委員會

一 議事錄作成

我方ヨリ提示セル一月五日本會議議事錄案ヲ印度側ハ殆ント其儘採用セルカ議事錄問題ニ關聯シ印度側委員ハ一月八日印棉不買撤回セラルヘキ旨ノ確報ヲ一月五日以前ニ受領シ度旨ヲ述ヘタルヲ以テ我方委員之ヲ應諾ス

二 一月ヨリ三月末迄ノ割當量問題

先方委員ハ本問題ニ關シ一月二日澤田代表ノボア代表ニ提示セル二案中我方ニ最モ都合ヨキモノ即右三ヶ月間ノ割當量ト本年四月ヨリ開始スル初年度前半期ノ割當量ヲ一括シ本年九月末決濟スヘシトノ案ヲ受諾スヘキ旨ヲ述フ

三 綿布細目協定問題

互ニ双方ノ主張ヲ批瀝シ一應案文ヲ作成セリ

一月四日議事錄案作成委員會

前日委員會ニ於テ協議洩ノ點ヲ一月五日ノ議事錄中ニ追加スル爲其案文ヲ作成ス

一月五日朝首席代表間會談

(議事錄案變更問題)

澤田代表ハ大日本紡績聯合會委員會ニ於テ來ル八日ヨリ印棉不買ヲ撤回スヘキ旨決議セル趣帝國政府ヨリ通報アリタル旨ヲ批瀝シ此ノ事實ヲ議事錄中ニ記載スル爲並日本ニ於ケル對内關係ヨリ考慮シ前日迄ニ双方代表部委員會ノ作成セル議事錄案中綿布ニ就テノ暫行措置ニ關スル部分ヲ訂正シタキ旨ヲ述ヘ我方ノ修正案ヲ提出セル處ボア代表ハ最初該修正ニ難色ヲ示シタルモ結局實質上差異ナキコトニテモアリ我方ノ立場ヲ諒承シテ修正案ヲ承認セリ

第十六回本會議 一月五日

(實質交渉ニ關スル最終會議)

澤田代表ハ兩代表部間ニ成立セル合意事項ノ内容全部ヲ陳述シ印度代表部ハ該陳述事項ニ相違ナキコトヲ認ムルコトト確信スル旨結論セリ

ボア代表ハ右ニ同意シタル後毎綿布年度前半期ノ割當量ハ之ヲ二億碼トナスモ萬一印棉買付過少ノ際ハ兩者關聯ノ原則ニ依リ次年度割當量ヨリ一定量ヲ差引クヘキ旨ノ留保聲明ヲナセリ

ニ次ニ澤田代表ハ右合意事項ヲ基礎トシテ條約案ノ作成ヲ急キ度旨提議シボアハ之ニ一應同意シタル上今後作成セラルヘキ案文中ニハ本日迄ノ合意事項ノ外協議洩ノ細目的事項ヲモ包含セシムヘキ旨ヲ述ヘタリ

ニ更ニ澤田代表ヨリ印棉不買ハ一月八日以降撤回セラルヘキ旨帝國政府ヨリ通報アリタル旨ヲ述ヘタルニ對シボアハ右情報並重要問

題ニ關シ合意成立セル事實ニ鑑ミ印度政府ハ一月八日綿布關稅ヲ双方代表部間合意ノ稅率ニ引下ケ割當制度ヲ實施スヘキ旨宣言セリ

四 最後ニ澤田代表ハ客年十二月二十二日印度政府ノ議會ニ提出セル雜貨從量稅ニ關スル法案ニ關シ日本側ノ見解及希望ヲ陳述シボア之ニ應答シ印度政府ノ立場ヲ釋明セリ

(當日ノ議事錄ハ本報告書末尾ニ添付セリ)

一月六日首席代表間ノ私的會談

前日ノ議事録公表方ニ付協議ノ結果一月七日公表スルコトニ決定セリ

一月十六日首席代表間ノ私的會談

一 特惠條項 第十六回會議以後双方代表部起草委員ハ先ツ双方別々ニ條約案ヲ作成シ其上ニテ協議ヲナス方針ヲ以テ進ミ居レルカ印度代表部作成ノ條約案中ニハ日本ハ英帝國內ノ特惠ニ均霑セサルヘキ旨ヲ明記セル條文挿入セラレ居タルヲ以テ本日ノ會談ニ於テ澤田代表ハ該條項削除方ヲ求メタルカボア代表ハ本問題ノ重要性ニ鑑ミ閣議ニ諮リタル上回答スヘキ旨ヲ述フ

二 印度沿岸貿易問題 次ニボアヨリ日本政府ハ日本船舶ノ印度沿岸貿易ニ從事スルコトヲ禁スル爲有效ナル措置ヲ執ルヘキ旨既ニ印

度政府ニ對シテ非公式ニ保障シ居ルコトナレハ之ヲ公文交換ニ依ルカ又ハ議事録中ニ挿入スルカ何レカノ方法ニ依リ該保障ヲ確認セラレ度右確認ノ際ハ沿岸貿易禁止ノ範圍ヲ印度全体ニ及ホス旨明ニセラレタシト申出タルヲ以テ澤田代表ハ沿岸貿易差止メノ範圍ニ關シテハ日本政府ニ於テ異論アルヘキ旨ヲ縷述シ本件ハ此儘承認シ得サルヘキ趣ヲ應答ス

三 日印間使節交換問題 嚮ニ印度總督ハ澤田代表ニ對シ私見トシテ日印間ニ高級使節ヲ交換シ兩國首都ニ常駐セシムル制度ヲ設クレハ兩國ノ關係ヲ善導スル上ニ頗ル有益ナルヘキ旨ヲ述ヘタルコトアリ右ニ對シ同代表ハ日本政府ニ於テモ斯ル制度ノ實現ヲ切ニ希望シ居ルヘキ旨ヲ不取敢應答シ置ケル次第アリ

依テ本日ハ澤田代表ヨリ右會談ノ次第ヲボアニ傳ヘ印度政府ハ果シテ之カ實現ヲ考慮シ居ルヤ否ヤヲ質問セルカボアハ斯ル制度ヲ設クルコトニハ自分モ非常ニ贊成ナルカ何分憲法上及財政上ノ關係モアルニ付閣議ニ於テ慎重考慮ノ上回答スヘキ旨ヲ述ヘタリ

一月十六日起草委員會

一月二十二日首席代表間ノ私的會談

(雜貨從量稅問題)

客年十二月二十二日印度政府力議會ニ提出セル雜貨從量稅法案ニ關シ澤田代表ハ種々ノ材料ニ基キ右法案ニ依ル新關稅力不當ニ高率ナルヲ指摘シ稅率ノ緩和方ヲ求メタル覺書ヲボアニ手交シ種々説明ヲ加ヘタル上印度政府ハ日印新條約ノ締結セラレントスル此際徒ニ兩國關係ヲ阻隔スルカ如キ措置ヲ執ラサル様慎重考慮セラレントヲ希望スル旨ヲ述ヘボア之ヲ諒承セリ

一月二十二日印度總督ト澤田代表トノ會談

(日印間使節交換及雜貨問題)

澤田代表ハ總督午餐會ノ機會ヲ利用シ日印間使節交換問題ニ關シ印度政府ノ審議振ヲ訊ネタル處總督ハ目下商務長官ヲシテ具體案ヲ作成セシメ居ルニ付右出來上リ次第閣議ニ諮リ更ニ來ル五月自分カ一時英本國ニ歸國スル機會ヲ利用シテ英國政府トモ話合ヲ遂ケ本件制度ノ實現ニ努力スヘキ旨應答セリ尙澤田代表ハ印度ノ雜貨關稅引上問題ニ關シ日印關係ノ大局ニ鑑ミ總督ニ於テモ慎重ナル考慮ヲ加ヘラレントヲ希望スル旨申入レタリ

一月二十六日首席代表間ノ私的會談

一 條約案問題 澤田代表ハ印度代表部ノ作成セル第二次案文ニ關シ
 ボア代表ニ質問シ印度側力新規ナル條項ヲ逐次追加シ來ル爲徒ニ
 會商ノ妥結ヲ遲延セシムル惧アル旨ヲ述ヘタル後先ツ特惠條項ノ
 削除方ヲ重ネテ主張シ次ニ最近印度側ヨリ新ニ提議シ來レル仲裁
 裁判條項ハ政治的條約ニ挿入セラルヘキ性質ノモノニシテ有效期
 間短キ今次ノ通商條約等ニハ不適當ノモノナリトテ之力削除方ヲ
 希望セルカボアハ即答ヲ避ケ閣議ニ諮ルヘキ旨ヲ應答ス
 更ニ澤田代表ハ印度側ヨリ提議シ來レル輸出税ニ關スル最惠國待
 遇條項ハ不必要ノ規定ナル旨ヲ述ヘ右ニ關聯シ印度政府ハ例ヘハ
 棉花ニ輸出税ヲ課スル意嚮ヲ有スルヤ否ヤヲ質問セル處ボアハ輸
 出税條項ノ消除方ハ充分考慮スヘキコト及印度政府ハ棉花輸出税
 實施ノ意圖ヲ有セサル旨ヲ答フ

二 第二次關稅引上問題 最近印度ニ於ケル人絹及絹織物關稅引上ノ

風評ニ關シ澤田代表ハ其眞否ヲ訊ネタル處ボアハ確答ヲ避ケタル
 モ其可能性アル旨ヲ暗示セルヲ以テ澤田代表ハ客年末ノ關稅引上
 ノミニテモ既ニ日本ノ輿論ヲ著シク刺激シ居ル次第ナルニ付更ニ
 我重要輸出品ノ關稅ヲ引上クルカ如キコトハ極力之ヲ避クル様盡
 力アリ度旨續述セリ

三 印度沿岸貿易問題 本件ニ關シボアハ一月十六日ノ要求ヲ繰返シ

(一) 緬甸印度間及印度各港間ノ沿岸貿易ヲ全般的ニ差控ヘシムルコ
 ト

(二) 備船サレタル日本船ノ印度沿岸貿易ヲ差控ヘシムルコト
 等ヲ求メタルヲ以テ澤田代表ハ其要求ノ不當ニ廣汎ナルヲ指摘シ
 到底帝國政府ニ於テ應諾セサルヘキ旨ヲ答ヘタリ

一月二十六日起草委員會

一月三十日綿布細目協定委員會

一 綿布ハ輸出ノ際ノB、L、日附ニ依リ所屬年度及半期ヲ決定シ棉花ニ付テハ出港日附ニ依ルコトニ話合ヲ遂ク

ニ 割當ノ適用ニ際シ控除セラルヘキ綿布再輸出量ニ就テハ便宜上一棉花年度中ノ再輸出量ヲ以テ同年度ニ對應スヘキ綿布年度ノ再輸出量ト看做スコトシ本年一月八日ヨリ三月末迄ノ割當ニ關シテハ現實ニ同期間中ニ再輸出セラレタル量ヲ控除スルコトシ度旨印度側ヨリ提議シ我方委員ハ政府ノ追認ヲ條件トシテ之ヲ承諾ス
三 日本側ハ綿布協定中ノ所謂綿布トハ一九三三年九月現在ニ依リ印度稅關ニ於テ綿布ト看做サレ且一般商取引ニ於テモ綿布トシテ取扱ハレ居ルモノニシテ人絹糸ヲ含マサル織物ヲ謂ヒ九碼以下ノフエシツヲ含マサルヘキ旨定義センコトヲ主張セルニ對シ印度側ハ大体右定義ノ趣旨ニハ贊成セルモ

(一) 人絹其他ノ交織物ニ就テハ九割以上綿糸ヲ含ム場合ハ之ヲ綿布ト看做スコト

(二) フエシツハ四碼以下ノモノニ限ルコト

(三) 更ニ今次協定ノ碼數ハ長サニ依リ計算スルコトト相成居ルモ幅ニツキテ一定ノ制限ヲ設ケタキコト

等ヲ提議シ双方委員間ニ種々論議ヲ重ネタルカ結局印度側ハ幅ニ關スル制限問題ハ大体之ヲ撤回スルコトニ同意シタルモ其他ノ二點ニ付テハ日本側ニ於テ篤ト考慮スルコトトナレ

四 棉花一俵ハ正味三九二封度タルコトニ規定シ置ク様話合ヲ付ケタリ

二月四日首席代表間ノ私的會談

(雜貨關稅及條約案問題)

ハ人絹其他織物關稅引上問題

澤田代表ハ本件問題ニ關シ覺書ヲ手交シ印度政府ノ再考ヲ求メタルカボア代表ハ國內產業ノ實狀ヲ説明シ關稅引上ノ必要ヲ續述シ明五日當該法案ヲ議會ニ提出スヘキ旨ヲ語り兩代表間ニ押問答ヲ繰返ヤリ

ニ客年十二月二十二日ノ雜貨關稅緩和方申入

ボアハ澤田代表ノ質問ニ答ヘ本件ニ關シテハ我方ノ覺書ヲ審査ノ結果並下層階級ノ利益ヲ擁護スル見地ヨリ一二商品ニ付多少稅率ヲ緩和スヘキ旨ヲ述フ

ニ綿糸人絹糸及生絲關稅引上問題

澤田代表ハ之等關稅ノ引上ハ印度ノ家内工業ニ打撃ヲ與フヘキ旨ヲ力説シテ斯ル關稅法案提出ニ關シ再考方ヲ求メタルカボアハ前記ハ

ニ關スルト略々同様ノ應酬ヲナヤリ

更ニ澤田代表ハ明五日ノ法案以外ニ尙關稅引上法案ヲ提出スル意嚮アリヤヲ訊ネタル處ボアハ目下斯ル意嚮ヲ有セサル旨應答ス

四最後ニ澤田代表ヨリ印度側作成ノ條約案中特惠及仲裁條項ハ別段實益ナキ問題ナルニ付之カ削除方再考アリタキ旨述ヘタルニ對シボアハ英國政府ノ希望モ再考困難ナル次第ヲ説明シ日本政府ノ讓歩ヲ切望スル旨陳述セリ

二月七日細目協定委員會

一 前顯一月三十日委員會討議事項ニノ點ニ關シ我方委員ハ帝國政府ノ追認アリタル旨ヲ述ヘ此點ハ印度側提案通り決定ス

二 フエンツノ長サノ制限ニ關シテハ双方委員間ニ種々討議ヲ重ネタルモ互ニ自說ヲ固持シ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラス

三 印度ヲ通過シテ第三國ニ輸出セラルル綿布及一應印度ノ保稅倉庫ニ入り後第三國ニ輸出セラルル綿布ノ取扱方ニ關シ討議セルカ結局之等ニ對シテハ一應印度ヘノ輸入手續ヲトリ後再輸出ノ取扱ヲナスコトニ決定セリ

二月十一日首席代表間ノ私的會談

(雜貨關稅問題)

二月五日印度議會ニ提出セラレタル纖維工業保護法案及客年十二月ノ雜貨從量稅法案ニ關シ澤田代表ハ縷々我方ノ主張ヲ述ヘ各主要品目ニ付稅率緩和方ヲ求メタルカボア代表ハ今次ノ措置力已ムヲ得サル必要ニ出テタルモノナルコトヲ述ヘ印度政府ハ日本トノ親善關係ヲモ充分考慮ニ加ヘ關稅調查會ノ勸告以下ノ稅率ヲ提議シ居ル次第ナリトテ二三實例ヲ舉ケテ説明シ尙現ニ議會ニ提出濟ノ法案ニ依ルモノノ外ハ來ル十月提案セラルヘキ鐵鋼保護關稅法案以外新ニ關稅引上ヲナササルヘキ旨ヲ附言シ目下提案中ノモノニ付更ニ稅率ノ緩和ヲナスコトハ到底不可能ナルヘキ旨ヲ固持シ居レリ

二月十三日印度總督ト澤田代表トノ會談

(雜貨關稅問題)

二月十三日總督邸茶會ノ際澤田代表ハ雜貨關稅ニ關シ印度政府ノ好意的考慮ヲ切望スル旨總督ニ對シ申述ヘタル處同總督ハ能ク商務長官トモ話合ヒ出來得ル限り日本例ノ希望ニ副フ様努力スヘキ旨應答セリ

二月二十日細目協定及起草委員會

一種々討議ノ末フエンツノ長サハ四碼以下ニ限ルコトニ決定ス

ニ通シ船荷證券ヲ有スル綿布ヲ保稅倉庫ニ入ルル場合及陸路ノ通シ

船荷證券ヲ有スル綿布ニ關シ討議シ其取扱方法ヲ決定ス

ニ條約及議定書案ニ付討議シ特ニ我方ノ修正希望ヲ説明シ印度代表部ノ考慮ヲ促シ置ケリ

二月二十五日首席代表間ノ私的會談

(條約案及雜貨關稅問題)

ニ特惠問題

本問題ニ關シボア代表ハ全然自分一箇ノ私見トシテ條約案中ノ foreign country ノ意味ニ關シ兩代表間ニ秘密文書ヲ交換シ公表スルコトナク相互ニ記錄文書中ニ保存スルコトスルカ又ハ條約案ニ假署名ヲナス際印度代表ヨリ foreign country ノ意義ニ關スル宣言ヲナシ日本代表之ヲテータ、ノートシ之ヲ議事録ニ留ムルコトトシテハ如何トテ妥協案ヲ持出シタルカ澤田代表ハ右何レノ案ニ對シテモ帝國政府ノ同意ヲ得ルコト困難ナルヘキ旨ヲ述ヘ同代表ノ私見トシテ印度側ノ一方的聲明ヲ議事録ニ殘スコトトシテハ如何ト尋ネタルカボア之ニ反對シ前記ボア私案ニ對シ日本政府ノ考慮ヲ求メタリ

ニ仲裁條項

ボアハ本條項削除方ニ關シテハ英本國ニ於テモ反對アルヘシト思
料スルモ更ニ閣僚及英本國政府ニ協議スヘキ旨ヲ答フ

三 棉花ニ對スル輸出税

ボアハ本件關稅ヲ將來賦課セサルコトヲ記錄ニ留メ置クコトニ對
シテハ印度側ニ異議ナキ旨ヲ述フ

四 尙其他條約及議定書案ノ中修正スヘキ箇處ニ付澤田代表ヨリ種々
説明シ且起草促進方ヲ申入レタル處ボアハ大体之ヲ諒承シ起草委
員ニ之ヲ傳ヘ置クヘキ旨ヲ約セリ

五 雜貨關稅問題ニ關聯シ澤田代表ハ差當リ之以上日本品ニ對スル關
稅ヲ引上ケサルヘキ旨及條約發効以前ト雖モ貿易調節條項ノ精神
ニ依リ日本政府ノ要求アリタル場合ハ兩國ノ利害調節ノ爲商議ヲ
開始スヘキ旨ヲ文書ニ依リ確認セラレタシト述ヘタルカボアハ印
度政府ノ立場ヲ説明シ之ヲ應諾セサリシモ右趣旨ハ日本側ヨリ文
書ヲ以テ申入アリタク其上更ニ考慮スヘキ旨ヲ述ヘタリ

(日本側ヨリハ二月廿七日右二點ヲ書面ニ認メ先方ニ送付シ置ケリ)

三月六日 起草委員會

三月十日 首席代表間ノ私的會談

(一月五日ノ議事錄修正特惠及雜貨關稅問題)

六 日本ニ於ケル對内關係上一月五日議事錄中訂正ヲ要スル箇處アリ
トテ澤田代表ハ事情ヲ説明シ先方ノ諒解ヲ求メタル處ボア代表之
ヲ應諾ス

尙綿布細目協定ニ關スル往復文書ハ之ヲ發表セサルコトニ話合ヲ
遂ク

七 特惠問題ニ關シボアハ其後自分ノ私案ニ就キ閣議ノ同意ヲ得ヘク
努力シタルモ反對多ク且印度事務大臣ノ方ニモ異議アリ結局本日
中ニ送付スヘキ書面ニ認メタルカ如キ案ニ落着キタルニ付該新提
案ニ對シ日本政府ノ同意ヲ得ル様幹旋ヲ乞フ旨ヲ述フ

八 雜貨關稅問題ニ關シ兩代表懇談ヲナシ澤田代表ハ各關係品目ニ付
我方ノ希望ヲ披瀝セリ

三月十日 印度側ヨリ送付越セル書翰ノ要旨

一 仲裁條項 日本カ特惠ニ關スル印度案ヲ受諾スルコトヲ條件トシテ撤回ス

ニ 特惠條項 日本側ハ最近ニ於ケル英國ト獨逸、亞爾然丁及丁抹トノ間ノ通商條約中ニ特惠條項ナキコトヲ指摘セラルルモ獨逸、亞爾然丁トノ條約中ニハ最惠國規定ナキヲ以テ該條項ナキハ當然ナリ丁抹トノ條約ニ付テハ調印後公文交換ヲ以テ本條項ヲ追加セリ更ニ最近ノ英蘇條約中ニハ本條項挿入セラレタリ故ニ日本ハ(一)英帝國內諸領間ノ特惠ヲ例外トスル旨ノ概括的條項ノ挿入ニ同意スルカ又ハ(二)最惠國條款中ノ「別國」ノ定義ヲ條約中ニ附加スルコトニ同意セラレタシ

三 印棉輸出稅 目下ノ處印度政府ハ之ヲ賦課セントスル何等ノ意嚮ヲ有セス又今後三箇年以内ニ斯ル稅ヲ課スルカ如キコトナシト認ム

四 其他條約文ニ關スル日本側ノ修正案ハ大体其儘受諾スヘシ

三月十三日 印度側ヨリ送付越セル書翰ノ要旨

(雜貨關稅問題)

一 雜貨關稅問題ニ關シ日本側ヨリ覺書ヲ以テ申入ノ諸點ニ付テハ慎重考慮シ出來得ル限り日本ノ希望ニ副フ様措置ヲ講シタルモ日本側主張ニハ同意シ難キ點多シ(本書翰中ニ於テ印度側ハ我方主張ノ大部分ニ關シ詳細ナル反駁ヲ加ヘ居レリ)

ニ 二月二十七日附日本側ヨリノ覺書ニ對シテハ

(イ) 印度政府ハ將來國內工業保護ノ必要ナル場合關稅引上ヲナスノ權利ヲ留保スヘキモ目下ノ處現提案以上ノ關稅引上ヲ考慮シ居ラス

(ロ) 今次ノ關稅引上ハ必要已ムヲ得サルニ出テタル措置ナルモ日本側ノ申出ニハ充分考慮ヲ拂ヒ居ル次第ナリ右ハ貿易調節條項ノ精神ニ合スルモノト信ス

三月廿一日首席代表間ノ私的會談

(特惠問題)

澤田代表ハ特惠條項ニ關シ帝國政府ニ於テハ大体印度案ノ趣旨ニ同意スヘキモ英蘇條約ニ於ケルト同様相互的ニ日本カ其緊密ナル經濟的關係ヲ有スル隣接國ニ與フルコトアルヘキ殊遇ニハ印度ヲシテ均霑ヤシメサルヘキ旨ヲ提議シタルトテ其條約案ヲ認メタル覺書ヲ手交シ先方ノ受諾方ヲ求メタルカボア代表ハ日本ノ隣接國ト謂ヘハ露國及支那ノ如キ廣大ナル範圍ヲ指スコトナリ印度側トシテ之ニ同意スルコト困難ナルヘキ旨ヲ應答シ會商モ茲迄進展シタル際新シキ難問ヲ提議シ事態ヲ紛糾ヤシムルコトハ互ニ之ヲ避ケ度キ次第ニ付自分一個ノ考トシテハ過日ノ貴代表私案ノ如ク印度側ノ一方的宣言ヲ議事錄ニ留ムル程度ニテ折合ヲ付ケタシト述ヘ兎ニ角日本政府ノ提案ト共ニ右貴代表私案ヲモ閣議ニ諮リ急速妥結ノ爲盡力スヘキ旨ヲ述ヘタリ

三月三十日三宅ボア間ノ私的會談

(特惠問題)

澤田代表所勞ノ爲三宅代表代ツテボア代表ト會見特惠問題ニ關スル先方ノ審議振ヲ訊ネタル處ボアハ英露協定ノ全文目下英國ヨリ取寄中ナルニ付右入手研究ノ上早速何分ノ回答ヲナスヘキ旨ヲ述ヘタリ次ニ三宅代表ハ三月廿一日首席代表間會談ノ際ボアノ言及ナル一方的宣言ニ對シテハ日本政府ハ同意ヤス新提案ヲ固持スヘキ旨ヲ述ヘタル處ボアハ頗ル當惑ナル面持ニテ右日本政府ノ意嚮ハ之ヲ閣議ニ報告シ兎モ角不日回答スヘキ旨ヲ應答ヤリ

四月三日首席代表間ノ私的會談

(特惠問題)

ポア代表ハ本日ノ會談ニ於テモ英特惠ト隣接國間ノ特惠トハ性質ヲ異ニスルコトヲ強調シタル處日本ノ隣接國ノ範圍力餘リニ廣大ナルコトヲ指摘サルヲ以テ澤田代表ヨリ然ラハ滿洲國及沿海州ノ如キ特定區域ニ限ルコトトシテハ如何ト反問ナル處ポアハ右ハ印度ノ銑鐵ニ重大ナル影響アリ印度側ニテ承諾シ得サルヘキ旨答ヘ印度側ノ一方的宣言案ニテハ如何ト日本側ノ意嚮ヲ訊ネタリ澤田代表ハ一方的宣言案ハ貴方閣議ニ於テ容レラレサリシヲ以テ日本側ニ於テモ其後審議ヲ改メタルヲ以テ今日トナリテハ之ニ同意スルヲ得ス但シ貴方ニ於テハ英特惠ノ一方的宣言ヲナシ我方ニ於テハ日本側ノ主張ヲ一方的ニ宣言シ兩者ヲ議) 事錄ニ留ムルコトトシテ妥結ヲ計リ得ヘシト述ヘタルカポアハ右案ハ三月二十一日ノ日本案ト實質上何等異ル處ナク到底同意シ難シト反駁ス

依テ澤田代表ハ自分ハ健康ノ關係上本月中旬頃歸國スルコトニ決シ居ル處双方ノ主張ニ依然斯ノ如キ懸隔アルニ於テハ容易ニ妥結ニ到達シ得サルヘキニ付本問題ニ歸シテハ從來討議ノ經緯ヲ議事錄ニ留メ置キ之カ妥結ヲ倫敦ニ於ケル交渉ニ譲リ他ノ既決事項ヲ納メタル條約案文ニ對シ假署名ヲナシ印度ニ於ケル交渉ヲ打切りタキ旨主張ナルカポアハ貴代表ト共ニ假署名ヲナシ得サルコトトモナラハ甚遺憾ナルカ他方今同成立スヘキ案文ハ全部印度ニ於テ什上ケタキヲ以テ特惠問題ヲ倫敦ノ交渉ニ讓ルコトハ頗ル困難ト思料スルモ至急閣議ニ諮リ何分ノ回答ヲナスヘキ旨應答セリ

四月七日首席代表間ノ私的會談

(特惠問題)

ボア代表ハ澤田代表ヲ來訪シ特惠問題ニ付非公式會談ヲナシタシト前置シ日本カ今次ノ提案ヲ固執スルニ於テハ條約締結問題ヲ根本的ニ再考スルコトヲ餘儀ナクセラルヘキ旨ヲ述ヘ本會商妥結ノ爲自費ノ考ヘタル試案ナリトテ

(一) 日本提案ノ形式ハ之ヲ認メ(ロ)接壤國ヲ滿洲國ニ限り條約有效期間タル三箇年間ハ銑鐵ニ對スル特惠ニハ印度品モ均霑セシムルコト

(二) 英特惠ニ關スル印度側ノ一方的宣言ヲ議事録ニ留ムルコト
ノニ案ヲ提示セルカ澤田代表ハ右兩案共我方ニ於テ受諾シ得サルヘキ旨ヲ述ヘタル後兎モ角帝國政府ニ電報シ考慮ヲ求ムヘキ旨答ヘ置ケリ

四月十三日首席代表間ノ私的會談

(特惠問題)

澤田代表ハ帝國政府ノ訓令ニ基キ左記趣旨ノ修正案ヲボア代表ニ提示セリ

(イ) 接壤國ヲ滿洲國、沿海州及北樺太ノ特定地域ニ局限スルコト
(ロ) 印度銑鐵ニ關シテハ印度政府カ貿易調節條項ノ趣旨ヲ遵守スル限り我方ニ於テモ同條項ノ精神ニ依リ充分考慮スヘシ

(ハ) 印度側ニ於テハ一般關稅ト特惠關稅トノ開キヲ大ニシ本邦品ノ輸入ヲ防遏スルノ結果ヲ招來スルカ如キ措置ヲトラサルコト
ボアハ右新提案ハ全体ノ問題ヲ反ツテ擴大セルモノナリトテ到底受諾シ難キ旨ヲ述ヘタル後過日自分カ申上ケタル試案ノ何レカラ日本ニ於テ承諾セラルルニ至ラハ四十八時間内ニモ條約案ノ假署名ヲ了シ得ヘキ次第ヲ語リ何等カ妥協方法ナキヤト質問セルヲ以テ澤田代表ハ本件問題ヲ印度側カ全然ドロツブスルニ於テハ速ニ會商ヲ結了

シ得ヘキ旨應答セリボアハ之ニ對シ私見トシテハアツサリ本件ヲド
 ツプスル方然ルヘキヤノ口吻ヲ洩セリ

四月十五日起草委員會

四月十七日首席代表間ノ私的會談

(特惠問題)

澤田代表ハ帝國政府ニ於テモ會商終了ヲ一日モ速ナラシメントノ趣
 旨ヲ以テ貴方ノ意嚮ヲモ篤ト參酌シ茲ニ最後の妥協案トシテ沿海州
 及北樺太ニ付テハ特惠品目ヲ水產物及石油ニ限定スルコトニ決意セ
 ル旨ヲ述ヘ印度側ノ考慮ヲ求メントシタルカボア代表ハ印度側トシ
 テハ最早此種提案ヲ考慮スルノ餘地ナク此際大局的見地ヨリ本問題
 ヲ全然ドツプスルコトニ決定セルニ付日本側ニモ異議ナカルヘキ
 旨ヲ應答セリ澤田代表ハ右ニ對シ日本政府モ同意スルモノト思考ス
 ルモ從來本件交渉ハ幾多ノ曲折ヲ經來レル次第アルニ付一應本國政
 府ニ電照ノ上確答スヘキ旨ヲ述ヘ置ケリ尙日本政府ヨリ右ニ同意ノ
 同電アラハ本月十九日案文ニ假署名スヘキ旨兩代表間ニ談合ヲ遂ケ
 タリ(翌日我方ヨリ特惠問題ドツプ承諾ノ旨先方へ通報セリ)

四月十八日起草委員會

條約及議定書案並綿布細目協定ニ關スル往復文書案作成ヲ完了ス

第十七回最終本會議 四月十九日

午後六時印度立法議會委員室ニ於テ開催

ハ先ツボア代表ハ日印新條約案及議定書案ニ對シ茲ニ双方代表假署

名ヲ行フヘキ旨ヲ宣シタル後印度代表部ハ日本側ヨリ提議セラレ

タル條約及議定書ノ (印度側ノ保持スヘキ案文

ニハ印度ヲ先ニシ日本ノ分ニハ日本ヲ先ニシタル形式)ニ假署名

スルニ當リ右ノ形式ノ當否ニ關シテハ英國政府ノ考慮ヲ留保スヘ

キ旨議事録ニ記載シ置度趣ヲ陳述ス(印度側ハ條約作成ノ經驗ナ

キ爲所謂 ノ慣例ヲ知ラサリシ爲ナリ)

ニ右ニ次キ澤田代表ハ議定書有効期間中緬甸カ印度ヨリ分離セハ該

議定書ノ條項ニ依リ英領印度ノ一部トシテ緬甸ノ負擔スル總テノ

義務ハ緬甸政府ニ依リ繼承セラルルモノト日本代表部ハ諒解スル

旨ノ聲明ヲナシボアハ印度代表部ニ於テ該聲明ヲテクトノトス
ヘキ旨ヲ答フ

斯テ條約案及議定書案ハ印度側三代表ト澤田三宅兩代表ニ依リ假
署名セラレタリ

ニ更ニ澤田ボア兩代表間ニ綿布細目協定ニ關スル往復文書ノ交換ア
リタル後ボアハ當該往復文書ニ依ル申合ニ不拘一月八日以後日本
ヨリ印度ヘ輸出セラレ四月十一日前印度ニ到着セルコト確認セラ
レタル綿布ハ證明書ナキモノト雖モ之ヲ割當量中ニ加算スルコト
ニ日本政府ハ異議ナカルヘキ旨印度代表部ニ於テ諒解シ居ル趣ヲ
議事録ニ留メ度シト述フ(細目協定ニ依レハ日本政府又ハ之ニ代
ルヘキ機關ノ發給スル證明書ヲ有セサル日本綿布ハ割當量ニ加算
セス又印度ヘノ輸入ヲ許ササルコトト相成居ルモ印度ニ於テ右趣
旨ニ依ル日本綿布輸入禁止令ヲ公布シタルハ四月十一日ナルヲ以
テ一月八日以後日本積出ノ無證明綿布ニシテ四月十一日前ニ輸入

セラレタルモノハ細目協定ノ成立シ居ラサリシ過渡期ノモノナルニ付特ニ割當量中ニ包含セシムルコトヲ日本側ニ於テ同意セラレタシトノ趣旨ナリ右ニ關シテハ最終會議ニ先タチ先方ヨリ交渉アリ我方モ之ニ同意スルコトトナリ居レル次第ナリ

四 最後ニボアハ協定ノ成立ヲ欣フト同時ニ右成立ノ爲日本側ノ爲シタル協力ヲ多トスル趣旨ノ挨拶ヲ爲シ澤田代表モ協定成立ヲ祝スルト共ニ印度側ノ好意ト協力トヲ讃ヘ今回ノ協定ヲ機會トシ日印親善關係ノ益々増進センコトヲ祈ル旨ヲ述ヘタリ

第三章 交渉事項別説明

第一節 暫定取極

一 今次會商劈頭ニ於テ日本代表部カ先ツ提議シタルハ日印通商暫定取極ノ問題ナリ

舊日印條約ハ十月十日以後失效スルニ不拘會議ハ漸ク九月二十三日開始セララル運トナルタルヲ以テ到底舊日印條約存續中ニ新協定ニ到達スルノ不可能ナルコト明ナリシヲ以テ帝國政府ハ該條約ノ效力存續方ニ關シ當時在英松平大使ヲ通シ英國政府ト交渉セルカ英國政府ハ印度政府ノ希望ニ依ル趣ヲ以テ該條約ヲ一箇月間延長スルコトニ同意スヘキ旨ヲ帝國政府ニ通知越セリ帝國政府ハ該延長期間ヲ一箇月ト限定スルコトナク期間ノ長短ヲ問ハス日印交渉終了ノ時迄延長スルコトヲ希望シ居レルヲ以テ澤田代表ハ第二回會議席上ニ於テ本會商ヲ成功ニ導ク見地ヨリ印度側カ日本政府ノ希望ヲ容ルル様提議セルカ印度側代表ハ印度政府ノ對内的關係

ヨリ考慮スルニ無條件ニ本會商終了迄舊條約ヲ存續セシムルコト
ハ反ツテ印度内ノ空氣ヲ惡化セシムル惧アル次第ヲ述ヘ十月十日
以後一箇月以上ニ亘リ會議繼續ノ場合ハ兩代表部間ニ於テ改メテ
本件ヲ協議スヘキ旨ヲ主張シ日本側ノ提議ニ反對セリ依テ帝國政
府モ一先ツ印度側ノ主張ヲ容ルルコトニ決定シ澤田代表ハ第四回
會議ニ於テ其旨ヲ表明セルカ更ニ第五回會議ニ於テ

帝國政府ハ目下倫敦ニ於テ交渉中ノ日印通商暫定取極問題ニ關
聯シ一箇月間ノ印度關稅据置ニ同意シタルモ右ハ帝國政府カ印
度ノ現行關稅率ニ満足シ居ルコトヲ意味スルモノニ非サル旨ヲ
聲明セリ（右ハ七割五分綿布關稅ニ對スル不滿ヲ意味スルモノ
ナリ）

右ト平行シ倫敦ニ於テハ松平大使ト英國外務大臣トノ間ニ公文ヲ
交換シ本件暫定取極ヲ了セリ

ニ十月十九日澤田代表ハ印度側首席代表ヲ往訪シ過般ノ暫定取極ニ

依レハ日印通商條約ノ有効期間ハ十一月十日以後失效スヘキ處之
ヲ會商終了迄延長スル様印度側ノ同意ヲ得度旨申入タル處同月二
十二日印度側首席代表ハ印度政府緊急閣議ノ結果決定セル事項ナ
リトテ

(イ)十月三十日迄ニ棉花及綿布ニ關スル問題ニ付意見ノ一致ヲ見タ
ル場合ハ一箇月又ハ六週間更ニ現狀維持ヲ爲スヘキ旨ノ暫定取
極ニ同意スヘシ但シ右意見ノ一致ト同時ニ綿布關稅引下印棉買
付開始並綿布割當量起算ヲ爲スヘシ

(ロ)右時日迄ニ重要問題解決セサル場合モ棉花綿布關聯問題ニ付意
見一致シ日本側カ即時印棉不買ヲ撤スルコトヲ受諾セハ前記同
様ノ期間現狀維持ヲ爲スコトニ同意スヘシ

(ハ)右以外ノ場合ニ於テハ此種暫定取極ニ同意シ難シ
トノ趣旨ヲ回答セルヲ以テ右ニ對シ澤田代表ハ會議ノ圓滿ナル進
行振ニ鑑ミルモ印度側カ右ノ如キ條件ヲ附スルコトハ穩當ナラサ

ル旨並有効期間ハ會議終了迄トナスヘキ旨ヲ主張セルカ先方ハ十月三十日迄ト言フ期限ハ兩三日之ヲ延期スルモ差支ナカルヘク又取極期間ハ一箇月ノ豫告ヲ以テ廢棄シ得ル條件ノ下ニ新條約發効迄延長スルコトニ同意スヘキモ無條件延長ニハ飽迄反對ノ意ヲ表明セリ其後澤田代表ハ日印双方カ互ニ關稅上ノ差別待遇ヲナササルヘキ旨會議席上ニ於テ聲明シ之ヲ議事錄ニ留ムル案ヲ提議セルモ印度側ハ日本ニ於テ印棉不買撤回聲明ノ如キ何等カノデエスヲユアヲナササル限リ斯ル案ヲ受諾スル能ハサル旨ヲ固執セリ依テ十一月九日本會議ノ席上ニ於テ澤田代表ハ

現行日印條約カ明十一月十日ヨリ失効スルコトハ甚タ遺憾ナル次第ナルモ本交渉ノ順調ナル進展ニ鑑ミ印度ハ新條約ノ締結ニ至ル迄日本品ニ對シ關稅引上又ハ差別的待遇ヲ爲ササルヘキコトヲ確信スル旨聲明セリ右ニ對シ印度側首席代表ハ

現行條約失効後印度政府カ如何ナル措置ヲ採ルヤニ關シテハ茲

ニ確言シ得サルモ兩國間ニ條約關係ヲ復活スヘキ協定ヲ速ニ締結センコトヲ希望スル趣ヲ應答セリ

其後双方代表部ハ何等暫定取極ノ問題ニ觸ルルコトナク懸案事項ノ解決ニ没頭シ終ニ本年一月五日重要事項ニ關シ意見ノ一致ヲ見更ニ本年四月十九日條約案及議定書案ニ假署名ヲ了セル次第ナリ其間印度ハ何等日本品ニ對シ法律上差別的待遇ヲ爲スノ措置ヲ執ラサリシモ客年十二月二十二日印度議會ニ提出セラレタル雜貨從量稅ノ法律案及本年二月五日ノ纖維工業保護法案ハ日本品ニ對シ事實上ノ差別待遇スルモノナリトテ日本側カ印度政府ニ對シ其修正ヲ求メタル經緯ハ次節ニ記載ノ通ナリ

第二節 印度ニ於ケル日本品ノ待遇問題

舊日印條約第一條ニ依リ日本品ハ從來印度ニ於テ最惠國待遇ヲ享有シ居レル處印度政府ハ最近ニ於ケル日本品ノ飛躍的輸入増加ヲ以テ印度國內工業ニ脅威ヲ與フルモノナリトナシ前記待遇ヲ停止センカ爲客年四月舊日印條約ヲ廢棄スルノ措置ニ出タル次第ナルヲ以テ新條約締結ノ交渉ニ於テ印度ニ於ケル日本品ノ待遇問題カ最も重要ナル討議事項タリシハ當然ト言ハサル可カラス本問題ニ關スル交渉ノ經緯並協定ノ内容大略左ノ如シ

(A) 綿 布

印度政府ニ於テ前述ノ見地ヨリ最も重要視シ來レルハ日本綿製品ノ輸入ナリシヲ以テ該品目ニ關スル審議ハ本會商中最モ長期間ニ亘リ會商ノ成否モ亦本件ノ解決如何ニ懸レル程ニシテ双方共之カ解決ニハ最も腐心セル次第ナリ

一 日本側第一回提案

印度側ハ會議開催ニ先タチ日本側ヨリ日印間ニ存スル諸懸案ニ關シ具體的解決案ノ提出ヲ求メ居レルモ我方ハ諸問題ヲ逐次審議シ行クノ方針ヲ以テ九月三十日先ツ最も重要懸案タル綿布問題ニ關シ提議セリ其内容左ノ如シ

印度政府ニ於テ綿布關稅ヲ從價五割以下又ハ一封度五安四分ノ一下ニ引下ケ且日本品ニ最惠國待遇ヲ與フルコトヲ受諾セハ日本ハ毎年度對印綿布輸出最高量ヲ五七八、五二九千碼（昭和七年度ノ數字）ニ制限スルコトヲ受諾スヘシ

然ルニ印度側ハ日本當業者カ印度ノ高率綿布關稅ニ對スル報復的意味ヲ以テ客年六月以來印棉不買ヲ行ヒ來レル關係モアリ本件綿布問題ヲ印棉買付問題ト關聯セシメントスル意嚮ヲ有シ兩者關聯方ニ就テ我方ノ考慮ヲ求メタルモ我方ハ印棉買付ハ日印間ノ各種懸案カ圓滿ニ解決セハ自然的ニ實行セラルヘキ處ニシテ右關聯ノ必要ヲ認メ

ストテ印度側ノ意嚮ニ反對セリ又印度側ハ人絹ハ綿布ノ代用品タルカ故ニ印度ノ綿業保護ニ關係アルヲ以テ日本ヨリノ人絹輸入問題ハ綿布問歸ト一括シテ考慮スル必要アリト主張セカ日本側ハ人絹ハ綿布ト別個ノ消費分野ヲ有シ居リ綿布ト一括シテ考慮スル要ナキコト並ニ人絹ニ對シテハ既ニ高率關稅賦課セラレ居ル事實等ヲ舉ケテ右ニ反對セリ當時宛モ シムラニ於テハ日英印當業者間ニ綿布問題ニ關スル討議進行中ナリシヲ以テ兩代表部ハ右討議ノ結果ヲ見ルコトトシ一應本件審議ヲ中止シ雜貨問題ノ交渉ニ移レリ

ニ印度側第一回提案

當業者會商ハ何等具體的成果ヲ見ルニ至ラス雜貨問題モ一通リ片附キタルヲ以テ印度側ハ十月十七日第九回會議席上ニ於テ左ノ如キ提案ヲ爲セリ

一 印度ノ毎年度日本綿布輸入量ハ三億碼トシ之ヲ前年度ニ於ケル日本ノ印棉買付量百二十五萬俵ト關聯セシム

ニ 前年度ニ於ケル印棉買付量カ前記數量以下ニ下レル時ハ其ノ不足高每一萬俵ニ對シ綿布輸入量二百萬碼ヲ減少セシム又前年度ニ於ケル右買付量カ百五十萬俵ヲ超過セル時ハ綿布輸入量ヲ前記同様ノ割合ニテ増加セシム但總輸入量三億五千萬碼ヲ超過セシムルヲ得ス

三 右輸入量ヲ

平織粗布

四五%

緣附粗布

一三%

晒布	八%
色染	九%
捺染	一五%
絲染	一〇%

ノ割合ニ分割ス

四一年ヲ四期ニ分チ各期ニ右輸入量ノ四分ノ一宛ヲ割當ツ

五全般ノ協定成立ノ場合關稅ハ平織粗布從價五割又ハ一封度五安

四分ノ一其他綿布從價五割ニ引下クヘシ但其他綿布ニモ從量稅

ヲ適用スルコトアルヘシ

六人絹ニ關シテハ數量割當モ差別待遇モナササルコトトス

七緬甸カ印度ヨリ分離ノ際ハ前記綿布割當量ヲ比例的ニ減少セシ

ムヘシ

八圓價力現在以下ニ下落ノ際ニ於ケル特別附加稅賦課ノ規定ヲ今

次協定中ニ明記スルコト

爾後本會議及双方首席代表間ノ私的會談ニ於テ繰返サレタル綿布ニ
關スル討議ハ前記印度側第一回提案ヲ骨子トシテ行ハレタル力故ニ
以下右提案ノ各項及其附帶の問題ニ付事項別ニ交渉ノ經緯及合意ノ
内容ヲ記述スヘシ但本件交渉ハ之等事項ヲ一括シテ行ハレタルモノ
ナル力故ニ個別的説明ハ全般ノ相關關係ヲ明ニシ居ラサルニ付其點
ニ關シテハ前章參照

三、綿布割當量ト印棉買付量トノ關聯

1、關聯主義ノ承認

日本側ハ前述ノ通り右兩者ノ關聯ヲ以テ實際上不必要ナリトシ之ニ反對セルノミナラス元來日本ニ於ケル綿布輸入量ノ制限ト印度ニ於ケル關稅ノ引下トハ相對應スルモノナルニ右印度側提案ニ依レハ日本ハ棉花不買ヲ解除シタル上更ニ一定量ノ買付ヲナスヘキ條件ヲ負擔スルモノナルカ故ニ到底受諾シ得スト主張セルカ印度側ハ日本ハ單ニ從來ノ商取引ノ繼續ヲスレハ足ルヲ以テ何等新シキ負擔ヲ加フルモノニ非スト固執シ讓ラス依テ日本側ニ於テモ印度政府カ其支持者タル國內農民代表者ニ何等カノ保障ヲ與フル必要ニ迫ラレ居ル事情ヲ諒トシ且會商ノ成功ヲ期セントスル大局上ノ立場ヨリ終ニ十月廿三日双方首席代表間ノ私的會談ニ於テ印度カ我方ノ希望スル割當量ヲ容認スルコトヲ條件トシテ右關聯主義ヲ承認スヘキ旨ヲ表明セリ

2、關聯ノ方法

本件ニ關スル印度側最初ノ提案ニ依レハ一年間ノ綿布割當量ハ前年度ノ印棉買付量ヲ基礎トシテ算出スルコトト成リ居リタルモ客年十二月下旬關聯主義ニ依ル綿布割當量決定ヲ見ルニ及ビ日本側ハ初年度割當量ヲ協定實施前ノ印棉不買ノ年度ト關聯セシムルハ不當ナリトシ初年度ニ限り特例ヲ設ケンコトヲ主張シ種々ノ提案ヲナセルカ双方ノ意見一致ヲ見サリシヲ以テ我方ハ兩者關聯ノ方式ヲ全然變更シ棉花年度ハ一月一日ヨリ十二月末迄ノ一箇年トシ綿布年度ハ四月一日ヨリ翌年三月末迄ノ一箇年トシ一綿布年度ノ割當量ハ當該綿布年度ノ始期ヨリ三箇月以前ニ開始スル棉花年度ノ印棉買付量ヲ基礎トシテ算定スヘシトノ案ヲ提示シ先方之ヲ承認セリ

右案ニ依レハ例ヘハ昭和九年四月ヨリ始マル綿布年度ノ割當量ハ昭和九年一月ヨリ始マル棉花年度ノ印棉買付量ヲ基礎トシテ算定セラレヘキニ付昭和九年度割當量ノ正確ナル數字ハ昭和十年始メニ於テ

漸ク之ヲ知り得ヘク從ツテ割當制度運用上ハ多少ノ不便アルモ初年度割當量決定ニ關スル困難ハ右案ニ依ツテ除去セラレタル次第ナリ

3、綿布割當量ト印棉買付量

一、印度側第一回提案（十月十七日會議）三〇〇百万碼對一二五万俵

二、日本側第一回提案（十月二十三日私的會談）五七八、五二九百万碼對一二五万俵

三、印度側對策（十月二十五日、）三二五百万碼對一二五万俵

四、日本側讓歩案（十月二十八日、）四〇〇百万碼對一〇〇万俵

五、ボア私案（同日、）三二五百万碼對一〇〇万俵

印度側確定案（十月三十日會議）同 右

日本側ノ條件附承認（十一月四日私的會談）同 右

（日本側ノ條件トハ後述ノ割當量増加基準ノ引下、品種別及季節別割當案ノ撤回ナリ）

4、割當量増減率ト割當最高量

前項ノ割當量ハ其ノ基準ヲ示スモノニシテ一綿布年度ニ對應スヘキ

棉花年度ニ於ケル印棉買付量ノ多少ニ依リスライディングスケールニ依リ右基準量ヲ増減セシメントスル仕組ニシテ割當最高量トハ綿布割當量ヲスライディングスケールニ依リ基準量ヨリ増加スル場合ノ最高限度ヲ示スモノナリ

					増減率		
					増減基準量 （單位一萬俵）	最高量 （單位百万俵）	
印度側第一回提案	十月十七日會議	二百萬碼對一萬	增加基準量 一五〇	減少基準量 一二五	三五〇		
日本側第一回提案	十月廿三日私的會談	右承認	増減共一二五		／		
印度側對策	十月廿五日、	全前	全前		三七五		
日本側對策	十月廿八日、	全前	全前		五〇〇		
ボア私案	全日	百五十萬碼對一萬	増減共一〇〇		四〇〇		

印度側確定案	十月卅日會議	二百萬碼對一萬俵	增減共一二五	四〇〇
日本側對策	十一月四日私的會談	全 右	・	一〇〇
◎印度側讓歩案	十一月六日會議	增加率 百五十萬碼對一萬俵	・	一〇〇
		減少率 二百萬碼對一萬俵	・	一〇〇
日本側對案	十一月九日會議	增減共二百萬碼 對一萬俵		
印度側最終案	十一月十五日會議	但日本側ノ附加提案ヲ承認ス 印度側前案固執		
日本側最終案	十一月廿一日會議	增減共百五十萬碼對一萬俵、其他ハ印度 案通り		
印度側回答案	十二月四日會議	印度側最終案固執		
◎印ノ案カ結局	日本側ニ依リ受諾セラレタリ			

最初日本側ハ昭和七年度ニ輸出量ヲ制限スルコトハ伸張セントスル勢ヲ抑制シテ現状維持ヲ約スルモノニシテ我方ニトリテハ大ナル犠牲ヲ意味スル次第ヲ説明セルカ印度側ハ昭和七年度ハ日本品カ印度市場ヲ異常ニ攪亂セル年度ニシテ其ノ數字ニ依ル可カラスト主張シ又日本側ニ依ル價格統制ヲ希望セルカ我方ハ數量ノ制限ニ依リ價格ハ自然調節セララルヘキ旨並ニ將來益々數量ノ増加スヘキコトヲ期待シ居ル爲ニ生スル價格ノ下落ハ當然割當量ノ設定ニ依リ排除セララルヘキ旨ヲ主張セリ結局印度側ハ價格統制ニ對スル希望ハ之ヲ拋棄セルモ割當量ノ數字ニ關シテハ日本側第一案ニ飽迄反對セリ依テ日本側ハ大体過去三年間ノ平均數字タル四億碼ノ輸入ヲ現實ニ確保シ得ルカ如キ協定ニテ妥協スルコトトセリ

5、再輸出量ノ控除

前記現實四億碼主義ニ基キ我方ハ綿布割當量中ニハ再輸出品ノ數量ヲ包含セシメサルコトヲ提議シ印度側ハ印棉ニ關シテモ同様ノ原則

ヲ適用スルコトヲ條件トシテ右ヲ承認セルヲ以テ我方モ印棉ニ關スル先方ノ申出ヲ諒承セリ

四、品種別及季節別割當

1、品種別割當

印度側第一案（十月十七日會議）平織粗布四五% 緣附一三% 晒布八%

色 染 九% 捺染一五% 絲染一〇%

（日本側ハ最初斯ル割當案ノ撤回ヲ主張セルモ印度側ハ本問題ヲ極メテ重視シ依然原案ヲ固執セリ）

日本代表部試案（十月廿八日私的會談）粗布 五〇% 其他五〇%

右相互間ノ融通量 一〇%

印度側第二案（十月三十日會議）粗布 四五% 緣附粗布一三% 晒布八%

色物其他 三四%

日本側提案（十一月九日會議）粗布 四五% 晒布 二〇%

色物其他 三五% 相互間ノ融通量一五%

印度側第三案（十一月十五日會議）割當量ハ印度側修正案通りトシ

融通率ハ各品種別割當量ノ一〇%

%ヲ限度トス

日本側最終案（十一月廿一日會議）割當量ニ關スル印度案ヲ承認シ

融通量ハ總量ノ一〇%トス

但品種別割當ニ對シテハ季節別

割當ヲ適用セサルモノトス

印度側最終案（十二月四日會議）印度側第三案通り

最終妥協點

緣附粗布及晒布ノ融通量ヲ夫々割當量ノ二〇%トシ其他ハ印度側第

二案通りトス

元來日本側ニ於テハ品種別及季節別割當ハ自由ナル商取引ヲ束縛シ日本綿布ノ輸入量ニ對スル二重ノ制限ナルコトヲ指摘シ斯ル提案ニハ根本的ニ反對セルカ印度側ハ自國產業保護ノ立場ヨリ品種別制限

ノ主義ヲ固執セリ我方ハ更ニ印度案ノ數字ハ大体昭和七年度ヲ除ク最近三年間ノ實績ヲ基礎トセルモノナリト雖モ品種ハ餘リニ細分セラレ居リ且我カ輸出綿製品ノ新シキ傾向ニ背馳シ特ニ晒布ノ發展ヲ阻止スルモノナルヲ以テ之カ是正ヲ求メ且商取引ノ自由ノ爲各品種間ノ融通量ヲ大ナラシメンコトニ努力シ折衝ヲ續ケ來レルモ印度政府ハ當業者並英本國側ヨリノ壓迫ニ制セラレ我方ノ主張セル提案ノ承認ヲ肯シセス十一月十五日ノ提案ヲ堅持セリ依テ澤田代表ハ飽迄ボア代表説得ニ努メ終ニ十二月十九日印度側ヲシテ緣附粗布及晒布ニ對スル融通量ノ限度ヲ之等各品種ヘノ割當量ノ二〇%宛ニ増加セシムルコトヲ承認セシメタリ

2、季節別割當

印度側第一案（十月十七日會議）ハ總割當量ヲ四期別ニ均分セントスルモノナリシカ日本側ハ最初之カ撤回ヲ主張セルモ印度側之ニ應セス依テ日本側ハ十月廿八日ノ私的會談ニ於テ一年ヲ二期ニ分チ兩

期ヘ均分ニ割當テ全量ノ三〇%ヲ限度トシテ兩期間ニ融通ヲ認ムルコトヲ提案セル處印度側ハ十一月六日ノ會議ニ於テ二期別均分割當案ヲ承認シ各期分ノ一〇%ヲ限度トシテ兩期間ノ融通ヲ認メタルカ第二期ト次年度ノ第一期トノ間ノ融通ハ各期分ノ五%ヲ限度トスヘキ旨ヲ主張セリ其後日本側ハ第二期ト次年度ノ第一期間及同一年度ニ於ケル兩期間ノ融通ヲ何レモ總量ノ一〇%ヲ限度トスヘキ旨規定スヘシトノ主張ヲ續ケ來レルカ印度側ハ之ヲ承認セス十一月十五日ノ會議ニ於テ各期間ノ融通量ヲ何レモ各期割當量ノ一〇%トナス程度迄讓歩シ來レルヲ以テ日本側モ一應之ニ同意セリ然ルニ其後印棉買付量ト綿布割當量トノ關聯方法ニ關シ我方ノ新提案承認セララルニ及ヒ季節別割當ニ關スル從來ノ合意ヲ變更スル必要生シ左ノ通妥結ヲ見タリ

(一) 前半期ノ割當量ヲ二億碼トス但シ前半期ノ現實綿布輸出量カ當該綿布年度割當量ヲ超過シタル場合ハ翌年度前半期ノ割當量ハ二億

碼ヨリ該超過額ヲ控除シタルモノトス（右但書ハ印棉買付量カ極メテ僅少ナリシ場合例ヘハ一棉花年度ニ於テ全然印棉買付ヲ行ハサリシ場合ハ之ニ關聯セラルヘキ綿布年度ノ割當量ハ一億二千五百萬碼ナルニ不拘前半期ニ於テ既ニ二億碼ヲ輸出シタリトセハ右ハ當該綿布年度ノ全割當量ヨリ七千五百萬碼超過シタルコトナルヘシ斯ル場合ニ於テ翌年度前半期割當量ハ二億碼マイナズ七千五百萬碼即一億二千五百萬碼トナルコトヲ意味セルモノナリ）

(二)後半期ノ割當量ハ當該綿布年度ノ割當量ヨリ二億碼（前半期分）ヲ控除セルモノトス

(三)各半期間ノ割當融通量ハ二千萬碼ヲ限度トス但シ同年度ニ於ケル後半期ヨリ前半期ヘノ融通ヲ認メス（之前半期ノ割當量ヲ年割當量ノ最大限タル四億碼ノ半分二億碼トシタル結果ナリ）尙最終年度ニ對シテハ次年度ヨリノ繰入融通ヲ認メサルコト勿論ナリ（議定書第五條）

五、印度ノ綿布關稅

日本側ハ九月三十日ノ會議ニ於ケル最初ノ提案中ニ日本綿布ニ對スル印度ノ關稅ヲ最惠國待遇ノ下ニ於テ從價五割又ハ一封度五安四分ノ一以下ニ引下方ヲ要求セル處印度側ハ十月十七日ノ會議ニ於ケル最初ノ提案ニ依リ日本綿布ニ對スル關稅ハ最惠國待遇ノ下ニ於テ平織粗布從價五割又ハ一封度五安四分ノ一其他綿布從價五割ニ引下方ヲ承認シ平織粗布以外ノ綿布ニ對シテモ從量稅適用ノ權利ヲ留保セリ其ノ後日本側ハ印度ノ提案ニ依ル割當量並品種別及季節別割當等ヲ承認スルニ及ヒ之等條件ヲ承認スル代償トシテ平織粗布ニ對スル從量稅五安四分ノ一（從價ニ換算セハ六割以上ノ高率トナルニ付）ヲ從價ニ換算シテ五割トナル程度迄引下方要求セルカ印度側ハ五安四分ノ一ノ稅率ニ依ルモ猶日本ノ圓安ニ依ル利益ヲ充分抑ヘ得サル旨ヲ述ヘ日本側ノ要求ヲ應諾セス又日本側ハ綿布ノ數量ヲ制限スル以上平織粗布以外ノ綿布ニ對シテ從量稅ヲ賦課スルノ必要ヲ生スルカ如キコトナカルヘキ旨ヲ主張セルカ印度側ハ日本カ價格統制ヲ約

ササル限り價格低落ノ場合ニ對スル保障トシテ右權利ノ留保ヲ固執セルカ特ニ日本側ノ立場ヲ顧慮シテ該從量稅ハ一封度五安四分ノ一以上ニ出テサルヘキ旨ヲ約セリ

六、爲替條項ト綿布關稅トノ關係

日本側ハ爲替條項ヲ協定中ニ挿入セントスル印度側提案ニ原則的ニ反對シ來レル次第ハ後述ノ通りナルカ特ニ綿布ニ關シテハ稅率ノ一定引下ヲ協定スル以上該關稅ハ爲替條項ノ適用ヲ受ケサルヘキコト當然ナルノミナラス數量制限ヲモ行ハルコトナルニ付爲替條項ニ依ル二重ノ制限ヲナス必要ナキ旨ヲ主張セルカ印度側ハ日本カ綿布ノ價格統制ヲ約束セサル限り飽迄綿布ニモ之ヲ適用スルノ必要アリト固執セルヲ以テ日本側ハ爲替條項其物ヲ穩當ナル形式ニ修正セシメテ綿布關稅ヘノ適用ヲ承認スルコトトセリ

七、緬甸ニ關スル規定

印度側ハ最初「緬甸カ印度ヨリ分離ノ際ハ綿布割當量ヲ比例的ニ減少セシムルコト」ヲ提議セリ

日本側ハ協定ヲ短期間ノモノトセハ緬甸ニ關スル條項ヲ特ニ設クル必要ナカルヘク又棉花ト綿布トヲ關聯セシムル以上棉花ノ輸出ナキ緬甸ニ關シテ綿布輸入量ヲ増減セシムルハ不合理ナリト主張シ右提案ノ撤回ヲ要求セルカ印度側ハ緬甸ノ分離ハ不遠實現スヘキ可能性アルコト並日本ノ對印綿布輸出量ハ本取極ノ爲減少スルコトアリトスルモ緬甸ニハ綿業ナキ故日本ハ無制限ニ對緬輸出ヲナシ得ルコトトナリ反ツテ日本ノ爲有利ナルヘキ旨ヲ述ヘテ日本ノ同意ヲ求メタリ然ルニ日本側ハ依然右撤回ヲ希望セルヲ以テ印度側モ終ニ十二月四日提出ノ最後案ニ於テ「緬甸カ分離シタル場合ニ於テモ協定條項ハ其全有效期間ヲ通シ印度ト緬甸トヲ一体トシテ其儘施行セラルヘキコトヲ日本側ニ於テ同意スルコトヲ條件トシテ本提案ヲ撤回スヘ

シートノ意思ヲ表示シ日本側之ヲ應諾セリ

其後本規定ヲ綿布ニ關スル議定書中ニ挿入スヘキヤ否ヤ又如何ナル字句ヲ使用スヘキヤニ關シ双方代表部間ニ論議ヲ重ネタルカ結局四月十九日條約案假署名ノ際ニ當リ澤田代表ハ

議定書有効期間中緬甸カ印度ヨリ分離セハ該議定書ノ條項ニ依リ英領印度ノ一部トシテ緬甸ノ負擔スル總テノ義務ハ緬甸政府ニ依テ繼承セラルヘク從テ緬甸ハ印度ヨリ分離セル場合ニ於テモ本議定書ノ關スル限り宛モ分離セサルト同様ニ取扱ハルヘキモノト日本代表部ハ諒解ス

トノ趣旨ヲ聲明シボア代表ハ印度代表部ニ於テ右聲明ヲテイタノトスヘキ旨答ヘタリ

八、細目協定

I、交渉經緯概要

客年十二月末綿布ニ關スル協定ノ大綱成立スルヤ該協定ノ運用方法其他細目的事項ハ双方代表部員間ノ話合ニ依リ之ヲ決定スルコトトシ其後數次委員會ヲ催シテ本件討議ヲ行ヒタル結果双方合意セル點ヲ代表部間往復文書ノ形式ニ經メ四月十九日條約案文等假署名ノ席上兩首席代表間ニ該文書ノ交換ヲ行ヒタリ討議事項中最モ重要ナル題目タリシ綿布ノ定義並第三國へ輸送セラルヘキ綿布ノ取扱方法等ニ關シテハ双方ノ意見容易ニ纏ラス種々ノ曲折ヲ經テ漸ク左記ノ案ニ話合ヲ付ケタル次第ナリ

2、協定ノ内容

日本側首席代表ヨリ印度側首席代表ニ宛テタル書翰ノ要旨左ノ如シ

(一) 日本政府ハ議定書ノ條項ニ遵ヒ日本綿布ノ對印輸出ヲ統制ス

ヘク右統制ノ爲左ノ措置ヲ執ルヘシ

A、商工省、權限アル官廳又ハ組合ヲシテ必要事項ヲ記載セ
ル證明書ヲ發給セシメ對印輸出綿布ノ各荷口毎ニ之ヲ添附
ス

B、輸出綿布ノ所屬年度ハ船荷證券ノ日附ヲ以テ決定ス

C、證明書ナキ綿布ハ之ヲ當量中ニ算入セス印度政府ハ斯
ル日本綿布ノ輸入ヲ許可セサルヘシ

D、日本政府ハ綿布ノ對印輸出ニ關シ必要事項ヲ遲滞ナク在
京英國大使館ヘ通報スヘク又印棉ノ再輸出量ニ關シテハ每
月在京英國大使館ヘ通報スヘシ

(二) A、綿布トハ九割以上綿糸ヲ包含シ且通常商取引ニ於テ綿布
ト認メラレ居ル綿織物ヲ謂フ四碼以下ノ綿ヲエシツハ綿布
ト看做サス

B、棉花一俵トハ棉花正味三九二封度ヲ謂フ

C、棉花年度ニ於ケル綿布ノ再輸出量ヲ以テ該棉花年度ニ對
應スヘキ綿布年度ノ再輸出量ト看做ス

(三) 日本當業者ハ普通ヨリ大體ノ綿布ヲ輸出シテ割當制ニ依ル數
量ノ制限ヲ逃避セントスルカ如キ行爲ヲナササルモノト信ス
ルモ萬一斯ル場合生シタル際ハ日本政府ニ於テ之カ防止策ヲ
講スヘシ

(四) 前述(一)ノ措置ニ關シ改訂ノ必要アル場合ハ豫メ之ヲ印度政府
ニ通告スヘシ

次ニ印度側ヨリ日本側宛書翰ノ要旨ハ左ノ如シ

(一) 印度政府ハ協定條項ニ合致セサル日本綿布ノ輸入ヲ禁止スルノ
權利ヲ留保スルト同時ニ左ノ措置ヲ講スヘシ

A、日本向輸出棉花ノ所屬年度ハ當該棉花積載船舶ノ印度ニ於
ケル最後ノ寄港地出帆ノ日付ヲ以テ決定ス

B、印度政府ハ棉花ノ對本邦輸出ニ關シ必要事項ヲ遲滞ナク在

印帝國總領事ニ通報スヘク又綿布ノ再輸出ニ關シテハ每月在
印帝國總領事ニ通報スヘシ

C、印度ニ輸入セラルル日本綿布ニシテ證明書ナキモノハ割當
量ニ算入ヤス又輸入ヲ許可セサルヘシ

(尙證明書ノ處分、綿布ノ實際輸入量通報方法等ニ關スル措
置ヲ擬記ス)

(二)前述ノ措置ニ關シ改訂ノ必要アル場合ハ豫メ之ヲ日本政府ニ通
告スヘシ

(詳細ハ附屬文書寫參照)

九、印度綿布關稅引下ニ關聯セル暫行的措置

昭和八年四月日印通商條約ノ廢棄通告ニ接スルヤ我國當業者ハ報
復手段トシテ印棉買付停止ノ聲ヲ舉ケタルモ政府方面ヨリノ慰撫
戒告ニ依リ一應其運動ヲ中止シタルカ同年六月印度ニ於ケル綿布
關稅七割五分ニ引上ケラルルニ及ヒ終ニ之ヲ決行スルニ至レリ右
措置ハ印度農業者ニトリ非常ナル傷手ナリシヲ以テ印度代表部ハ
會商ノ當初ヨリ印棉不買停止方日本政府ニ於テ盡力スル様主張セ
ルモ我代表部ハ右措置ハ當業者カ印度ノ關稅引上ニ憤激シ之ヲ行
ヒタルモノニシテ政府ノ全然關與セサル處ナルヲ以テ印度側力日
本當業者ヲ満足セシムル手段ヲ講セサル限り之カ撤回ハ望ミ難ク
從テ日印間各種懸案圓滿ニ解決セハ自然印棉不買モ停止セラルヘ
キ旨ヲ應酬シ來レルハ別章所述ノ通ナリ然ルニ客年十二月四日ノ
本會議ニ於テ印度側強硬ナル態度ニ出テ日本側提案トノ間ニ依然
トシテ大ナル懸隔アリ交渉ハ重大ナル難關ニ遭遇シタルヲ以テ日

印双方首席代表ハ其後數次ノ私的會談ヲ行ヒ熟議ヲ重ネタル結果
日本代表部ハ印棉不買ヲ即時停止セシムル様盡力スヘク他方印度
代表部ハ十二月四日本會議ニ於ケル提案ヲ緩和シ且不買停止ト同
時ニ印度綿布關稅ヲ會商ニ於テ協定セル稅率迄引下クルコトトナ
リ終ニ本年一月八日ヲ以テ日本當業者ハ印棉不買決議ヲ撤回シ印
度政府ハ同日綿布關稅ヲ兩代表部合意ノ稅率迄引下ケタリ

2. 右稅率引下ト同時ニ印度政府ハ之カ條件タル日本綿布ノ輸入量制
限ヲ一方的行爲トシテ實施セルカ其制限ノ程度方法等ニ付豫メ双
方代表部間ニ成立セル合意點ハ左ノ如シ(尙日本政府ハ一月八日
以後自發的ニ右合意ノ次第ニ基キ對印綿布輸出ノ統制ヲ行フコト
トナレリ)

A、本年一月八日以後三月三十一日迄ノ綿布割當量ハ一九三三年
一月一日ヨリ同年末迄ノ棉花年度ニ於ケル日本ノ印棉買付量ヲ
基準トシ一九三三年四月ヨリ開始スル綿布年度全体ニ割當テラ

ルヘキ綿布量ノ按分比例(日割)タルヘシ

B、右期間ニ對スル割當量及本年四月以降九月末迄ノ割當量ハ別
箇ニ取扱ハス一括シテ本年九月末迄ニ輸出セラルヘキモノトス

C、以上ノ趣旨ハ一月五日ノ議事録ニ記載セラレ居ル處更ニ議定
書第六條ニハ當該議定書カ綿布年度開始日以外ノ日ニ發效スル
場合ハ第一棉花年度ハ本年一月一日ヨリ開始シ第一綿布年度ハ
本年四月一日ヨリ開始スルモノト看做スヘキ規定ヲ設ケタリ
即右ハ議定書ノ效力發生カ四月以後トナル場合割當量決定ノ爲
ニハ前記第一棉花年度及第一綿布年度ノ開始期ヨリ計算スヘキ
コトヲ規定セルモノナリ

(B) 雜貨

一 會議前ニ於ケル印度政府ノ態度

印度政府カ客年四月舊日印條約ヲ廢棄スルト同時ニ産業保護法ヲ制定セルハ印度産業ヲ脅威スヘキ低廉ナル各種日本品ニ對シ高率ナル差別的關稅ヲ課セントスル目的ニ出テタルモノナリ印度ノ關稅法ニ依レハ保護關稅ヲ賦課シ得ヘキ品目ハ法律ヲ以テ列舉セラレ例ヘハ綿布、鐵、燐寸、砂糖等ノ如キ商品ニ限ラレ居ルモ産業保護法ニハ其ノ制限ナク總督ノ權限ヲ以テ必要ト認ムル差別的關稅ヲ隨時賦課シ得ルコトニ規定セラレタルヲ以テ印度政府ハ日印條約失效後ハ國內産業ニ脅威ヲ齎ラス惧アリト認ムル各種ノ日本商品ニ對シ何等ノ制限ナク差別的高率關稅ヲ課スル權限ヲ得ヘキ次第ナリキ當時印度政府カ在印帝國總領事ニ對シ同政府ニ於テ此産業保護法ノ適用ヲ考慮シ居ル商品トシテ通知シ越セルモノハ左ノ如ク極メテ多種ニ亘レリ

- 一 人絹製品
- 二 莫大小
- 三 ハンカチ
- 四 綿襪糸
- 五 ランプ芯
- 六 針金及釘
- 七 紙
- 八 セメント
- 九 硝子
- 一〇 ボール紙
- 一一 ズツク及護謨靴
- 一二 氷砂糖
- 一三 毛織物
- 一四 革帶

- ニ九 絹
- ニ〇 釦貝
- 二一 石板
- 二二 トランプ
- 二三 陶磁器
- 二四 菓物

- 一五 ポリン（紡績用）
- 一六 塗料
- 一七 植物性油
- 一八 鉛筆
- 一九 ポタシユ等ノ化學製品
- 二〇 鐵パイプ
- 二一 傘
- 二二 ビール
- 二三 提灯
- 二四 石鹼
- 二五 石版品
- 二六 革製品
- 二七 革靴
- 二八 木製釘

ニ會議當初ノ經過

今回會商ニ於テハ日本側カ綿布ニ關スル第一回提議ヲナシタル際
 印度側ヨリ日本ハ綿布ニ關スルト同様輸出量制限主義ヲ他商品ニ
 モ適用セントスルモノナリヤトノ質問アリ依テ澤田代表ハ次回會
 議ニ於テ

綿布關係業者ハ有力ナル團體ヲ有シ居ルカ故ニ綿布ノ數量制限ハ
 不可能ニ非サルモ此種團體組織ヲ有セサル他ノ工業ニ同様ノ主義
 ヲ適用スルコトハ實際上頗ル困難ナル旨ヲ答ヘ更ニ日本ハ自國商
 品ニ對スル差別待遇ヲ飽達避ケンコトヲ希望シ居ル處印度政府ハ
 日本品ニ對シ產業保護法ヲ適用セントスルモノナリヤ若シ然ラハ
 其ノ時期其ノ品目並各品目ニ關スル實狀ヲ一應説明セラレ度キ旨
 ヲ述ヘタル處印度側首席代表ハ

現行條約失效後ニ至リテモ何等協定成立セサル場合ハ已ムヲ得ス
 日本品ニ產業保護法ヲ適用スルノ必要生スヘキ惧アル旨ヲ答ヘ關

係品目ニ關スル資料ハ文書ニテ我方代表部へ送付越スコトトナレリ
 右資料ニ據記セラレタル商品名左ノ如シ

一 化粧石鹼

二 家庭用及洗濯用石鹼

三 鉛筆

四 珐瑯鐵器

五 ゼラント

六 水砂糖

七 毛莫大小

八 編物用毛糸

九 毛織物

一〇 綿靴足袋

一一 綿下著

一二 紙

- 一三 陶磁器
- 一四 鑄鐵パイプ
- 一五 釘
- 一六 靴

尙此他ニ印度政府ノ重要視シ居ルモノニハ(一)生糸(二)絹糸(三)人絹糸(四)絹製品(五)人絹及交織製品

等アルモ(一)、(二)、(三)ハ目下關稅調查會ニテ審議中ナル爲又(四)、(五)ハ綿布ト一括シテ解決セン爲特ニ除外セル旨ヲ附記セリ

而シテ前記十六品目ニ就テハ最近三年間ノ

(一) 總輸入量

(二) 日本ヨリノ月別輸入量及價格

(三) 第三國ヨリノ輸入高トノ比較

(四) 國內製產高

ヲ掲記セリ

十月九日第七回會議席上ニ於テ澤田代表ハ帝國代表部ニ依ル右資料檢討ノ結果ヲ披瀝シテ右十六品ハ

第一類 印度ニハ日本品ト競争スヘキ種類ノ生産品ナシト認め得ルモノ

(莫大小、陶磁器、綿靴足袋等)

第二類 日本品ノ輸入極メテ少ク印度工業ニ對スル壓迫ヲ認め得サルモノ

(石鹼、編物用毛糸、氷砂糖、紙、鑄鐵管、毛織物、皮靴等)

第三類 日本ニ於テ自發的ニ生産統制ニ着手シ居リ今後濫賣ノ惧ナキモノ

(琺瑯鐵器、セメント、護謨底ズツ靴)

ノ三種ニ分類シ得ヘク何レモ産業保護法ヲ適用セラルル理由ニ乏シキモノナル次第ヲ述ヘ松島書記官之ヲ敷衍説明セリ

右ニ對シ同會議及次會議ニ於テ印度側ノ反駁セル要點ハ左ノ如シ

(一) 印度側提出ノ資料中ニ國內生産高ノ記入ナキモノハ其ノ生産少キ力故ノミニ非ス正確ナル統計ヲ得ルコト困難ナリシ爲ナリ此點誤解セラレサランコトヲ希望ス

(例、毛織物)

(二) 直接競争品ノ生産ナシトスルモ日本品カ價格低廉ナル時ハ類似品ノ代用ニ供セラルル場合多シ

(例、莫大小)

(三) 日本品ノ脅威ハ必スシモ輸入量ノ多少ニ依ラス價格低廉ナル點ニ在リ

(例、セメント)

(四) 現在ニ於ケル日本品ノ輸入量ハ少キモ急速ニ増加ノ傾向アリ

(例、石鹼)

(五) 日本ニ於ケル所謂統制ノ實施ニハ政府ハ何ノ程度ニ關與シ居ルヤ

單ナル統制實施ノ事實ニ關スル聲明ハ何等對印輸出品ノ數量及價格ノ調節ヲ保證スルモノニ非ス

(例、陶磁器)

印度側ハ右ノ如キ理由ヲ擧ケテ斯ル日本品ノ競争ハ産業保護法ニ依リ防止スルコト最モ有效便宜ナリト思考スルモ特ニ日本側ヨリノ無差別待遇ノ要望ヲ容ルルコトトナシ之等商品ニ從量稅ヲ適用シ日本品ニ對スル差別待遇ヲ避ケ度意嚮ナル處 珊瑚鐵器、陶磁器、及毛織物ニ就テハ技術上從量稅適用不可能ナリト思考スル旨ヲ述ヘ但日本側ニ適當ナル案アラハ該案ニ依リ差別待遇ヲ避クル様考慮スヘキ旨ヲ約セリ

茲ニ於テ澤田代表ノ提議ニ基ツキ右三品ニ關スル兩代表部委員會組織セラルルコトトナリ飯田代表代理、松島書記官等ハ我方ノ委員トシテ之ニ出席シテ第三國ノ實例等ヲ擧ケ從量稅賦課ノ可能性ヲ主張セルヲ以テ印度政府モ國內稅關ニ命シテ技術上ノ諸點ヲ調

査ヤシメ終ニ右三品ニ對シテモ從量稅ヲ適用シ日本品ヲ差別待遇セサルコトニ決セリ

尙經及人絹織帛ニ就テハ綿布ト一括シテ討議シ度シトノ印度側最初ノ主張ハ其後撤回セラレ右ニ列舉セル以外ノ商品ニ就テモ當初ハ差別待遇ノ必要アルヘキ旨ヲ主張シ居リシカ前記從量稅主義ノ決定ニ依リ之等商品ニ關スル提議モ撤回セラレタリ

上述ノ通り日本品ハ印度政府ノ從量稅採用ノ決定ニ依リ産業保護法ニ基ク差別待遇ヲ免レ得タリト雖モ稅番ノ細分方法稅率ノ程度如何ニ依リテハ事實上日本品ハ禁止的差別待遇ヲ受クル結果ヲモ招來スヘク又我方ハ棉花綿布ノ關聯ニ關スル先方案ヲ認ムル結果生スヘキ貿易バランス上ノ不利約一億圓ヲ雜貨ノ輸出ニ依リ充填スヘキ立場ニ在ルニ鑑ミ首席代表間ノ私的會談並委員會ニ於テ日本側ハ數次此點ニ關シ印度側ノ注意ヲ喚起セルカ先方ハ特ニ日本品ナルカ故ニ差別待遇ヲナスカ如キ意嚮ヲ有セサル旨並今後實施

スヘキ從量稅ハ大体一九三一年ノ日本ノ金輸出再禁止以前ノ價格ヲ標準トシテ考量スヘキモ未タ何等具體的決定ヲナシ居ラサル旨ヲ應答シ曖昧ナル態度ヲ持シ居レリ

貿易調節條項ノ挿入

依テ我方ハ十一月二十一日第十四回會議ニ於テ各般ノ問題ニ關シ日本側ノ最終案ヲ提出ノ際提案第五トシテ雜貨ニ關シ左ノ如キ提議ヲナセリ

一定雜貨ニ對シ從量稅ヲ適用セントスル印度側提案ハ之ヲ承認スルモ右ニ關聯シ印度政府ハ雜貨ニ對シテモ綿布ニ對スルト同様關稅其他ニ關シ法律上並事實上日本品ニ最惠國待遇ヲ與フルコトヲ保障シ之ヲ會議ノ議事錄ニ留ムルコト並『日印兩國ノ一方カ將來關稅率ノ引上稅番ノ修正等ヲナス場合ニ於テハ相手國ノ貿易上ノ利益ヲ著シク害セサル様考慮スルコト若シ右措置カ相手國ノ貿易上ノ利益ニ著シキ影響ヲ與ヘタル場合ハ該相手國ノ申出ニ依リ兩國ハ兩國間ノ通商上ノ利益ヲ調整スル目的ヲ以テ商議ヲ開始スルコト』ノ條項ヲ新條約中ニ挿入スルコトトシ右趣旨ノ聲明ヲ議事錄ニ留ムルコトヲ承認セラレタシ

右提案ニ對シ十二月四日ノ第十五回會議ニ於テ印度側ノ回答セル處左ノ如シ

印度政府ハ日本側ノ希望ヲ尊重シ日本品ニ對スル差別待遇ヲ避クル爲一定雜貨ニ對シ從量稅ヲ適用セントノ意嚮ヲ有スル旨第十二回會議ニ於テ聲明セルモ右ハ一ノ提議トシテ日本側ノ考慮ヲ求メタル意味ニ非ス印度側ハ關稅ニ關スル最惠國待遇條項ヲ新條約中ニ挿入スルコトニハ同意スルモ從量稅ニ關シ日本ノ提議スルカ如キ特別ノ保障ヲ與フル能ハス但該提案ノ第二點ニ關シテハ次ノ如キ聲明ヲナスコトニ同意ス

「兩國ハ自國ノ利益ノ爲必要ナル關稅上ノ變更ヲナス權利ヲ留保スルモ一方國ノ關稅上ノ變更力相手國ノ貿易上ノ利益ニ重大ナル影響ヲ與ヘタル場合ハ該相手國ノ求ニ依リ兩國ノ貿易上ノ利益ヲ出來得ル限り調和スル目的ヲ以テ商議ヲ開始スヘシ」印度側ノ同意セル前記ノ趣旨ハ其後多少字句ヲ變更シテ基本條約中（第四條）ニ挿入セララルコトトナレリ

四 雜貨關稅引上ト日印兩代表ノ聲明

印度政府ハ客年十二月二十二日約二十種ニ亘ル雜貨ニ對シ新ニ從量稅ヲ賦課スル目的ヲ以テ一九三四年印度關稅改正法案ヲ議會ニ提出二十三日より之ヲ實施シタリ右新關稅ハ印度產業保護ノ必要ヨリ出テタルモノナリト雖モ著シク其度ヲ超エ殊ニ綿ダリヤス、陶磁器、瑤瑯鐵器、鉛筆等ニ對シテハ殆ント禁止的關稅ナリト認メタルヲ以テ我代表部ハ訓令ニ基キ

(一)暫定的措置トシテ(イ)輸送中ノ貨物ニ對シ舊稅ヲ適用セシメ(ロ)在本邦英國領事官又ハ商務官ノ證明アル既約品ニ對シテハ舊稅ヲ適用セシムルコトトシ

(二)根本的調整トシテ(イ)本邦委員ヲ加ヘタル專門委員會ヲ組織シ稅率ノ調整ヲ計ルコト(ロ)印度ニ相當生産アル商品ニ對シテハ其平均生産費ト本邦品C、I、F值トノ差ヲ標準トシテ稅率ヲ定ムルコト(ハ)印度ニ生産ナキ商品ニ對シテハ貿易調整條項及爲替條

項ノ精神及收入關稅主義ヲ考慮シ一律大体從價ニ換算シ五割程度ノ從量稅ニ改正スルコト

ノ方針ヲ以テ先方ニ交渉スルコトトシ先ツ澤田代表ハボアニ對シ「印度側累次ノ言明ニモ不拘本邦品ヲ目標トシテ之ヲ輸入ヲ阻止スルカ如キ高率關稅ヲ會商妥結間際ニ實行セラルルハ甚タ遺憾ニシテ其影響ノ詳細ハ目下調査中ナルモ本邦品ニ大打撃ヲ與フルコト判明セハ之力は正方ニ付今後申入ルルコトアルヘシ」ト述ヘタルニ對シ先方ハ「元來今次ノ新關稅ハ日本側ニ於テ之等雜貨ノ統制ヲ有效ニ實施セラレサル爲已ムヲ得ス執リタル措置ニシテ日本側ヘ約束セル法律上ノ無差別待遇ニハ何等牴觸セサルノミナラス其稅率ハ印度政府ニ於テ慎重考慮ノ結果產業保護ノ爲絕對必要ト認メタル程度ニ止メタルモノナリ日本側ニ於テハ之ヲ禁止的關稅ナリト稱セラルルモ實際上ハ適當ナル競争上ノマ―ヂンヲ殘シタルモノニシテ本來日本トノ貿易ヲ阻害セス而モ必要ノ保護ノ目的ヲ

達成シ度趣旨ニテ考究シタル結果ナレハ萬々誤算ナシト信スルモ右措置カ公正ヲ欠キ又ハ誤解ニ基ケルモノナルコトヲ日本側ニ於テ明ニセラルルニ於テハ適等ノ考慮ヲ惜シム次第ニ非ス」ト述ヘタルヲ以テ我方ニ於テハ前記我方ノ申出並右ニ對スル先方回答ノ趣旨ヲ一月五日本會議ノ席上ニ於テ聲明シ之ヲ議事録ニ留ムルコトヲ承認セシメ本問題ノ具體的解決ハ其後ニ讓ルコトトセリ尙前述ノ會談中ニ於テボアハ關稅引上實施ノ際運送中又ハ既約輸入品ニ對スル舊稅適用ハ法案ノ提出ト同時ニ新稅ヲ實施スル慣行ニ特例ヲ設クルコトトナリ到底應諾シ難ク又混合委員會ノ組織ハ事ノ性質上絶對ニ考慮シ得サル旨ヲ陳述セリ

一月五日ノ日印兩代表聲明ノ趣旨左ノ如シ

(イ) 日本代表聲明

印度政府ニヨリ客年十二月廿三日ヨリ實施セラレ居ル新從量稅ハ日本ヨリ印度ニ輸出セラルル大部分ノ雜貨ニ適用セラルルノ

事實ニ鑑ミ日本政府關係當局ハ目下本關稅ノ賦課カ日印貿易關係ニ及ホスコトアルヘキ影響ヲ審査シツツアル次第ナリ
今日迄我當局審査ノ結果ニ依レハ右關稅ノ引上ハ全般ニ亘リ甚々重ク日本ヨリ印度ヘノ雜貨ノ輸出ハ之カ爲大打撃ヲ受ケ日本ノ對印輸出貿易ハ著シキ減退ヲ見ルニ至ルヘキハ避クヘカラサルモノト思考セラル或種商品殊ニ莫大小、陶磁器、瑛瑯鐵器及鉛筆ニ付テハ右新稅ハ禁止的ト認メラレ日本製造業者及輸出業者ハ何レモ印度トノ貿易上ニ於ケル之等關稅ノ影響ニ關シ不尠憂慮シ日本政府及當地日本代表部ニ對シ右影響緩和ノ爲印度政府ト共ニ措置ヲ講スル様歎願シ來レリ又他方印度ノ輸入業者ニシテ本稅ノ賦課前ニ約定セル日本品買入契約ヲ取消スノ餘儀ナキニ至リタルモノ多數ニ上リタル旨報セラレ綿莫大小ノミニテモ斯クシテ解消セラレタル數量ハ百五十萬打ニ見積ラレ居レリ之等不幸ナル事態ハ日印間ノ貿易關係ヲ甚シク惡化スルノ惧ア

リ而カモスル憂慮カ日印貿易ニ關スル一切ノ懸案問題ニ付兩代表部間ニ見解ノ一致ヲ見タル時ニ當リ發生シタルハ殊更遺憾トスル所ナリ日本政府ハ印度向雜貨輸出ノ重要性ニ鑑ミ之等從量税ノ日本品ニ及ホス影響ニ關シ目下ナサレツツアル審査ノ基礎ニ依リ印度政府ニ申出ツル處アルヘシ日本代表部ハ印度政府カ現在ノ狀勢ヲ緩和スル爲本問題ニ對スル右公式ノ申出ニ對シ慎重考慮ヲ與フヘシトノ趣旨ノ確言ヲ與フルノ用意アルヲ信スルモノナリ

(ロ) 印度代表ノ聲明

印度政府ハ何等日本品ノ輸入ヲ禁止セントスルノ意思ナシ同政府ハ消費者ノ利益ヲ顧慮シ國內產物ニ直接又ハ間接ニ競爭トナラサル輸入品ニ對シテハ不必要ナル障害ヲ設ケントスルモノニアラス而シテ禁止的關稅ハ結局關稅收入ノ減退ヲ來スヘキコト並外國品トノ競爭ノ絕滅ハ必スシモ國內產業ノ有效ナル發達ヲ招來スル所以ニ非サルコトハ充分了知シ居ル處ナリ雜貨ニ對シ

新從量税ヲ賦課スルニ當リ印度政府ハ公正ナル競爭狀態ノ恢復ヲ希望シ稅率ヲ印度產業保護ノ爲必要ト認ムル程度ニ局限シタリ而シテ之等稅率ハ印度政府ニ於テ徹底的調査及熟議ノ後決定セラルモノナリ同政府ハ右關稅ニ依リ單ニ國內產業ニ適當ナル保護ヲ與ヘントシタルモノニシテ何等日本ノ貿易ニ對スル敵意ニヨリ左右セラレタルモノニアラス然レトモ若シ日本政府カ印度政府ノ執リタル措置ヲ以テ不必要ナルカ又ハ誤解ニ基ケルコトヲ示ス爲之等從量税ニ關シ何等申出ヲナスコトアル場合ニ於テハ印度政府ハ斯ル申出ニ對シ適當ナル考慮ヲ拂フノ用意ヲ有ス

三 雜貨關稅緩和方ニ關スル交渉

ノ双方主張ノ相違

我方ニ於テハ先ツ今回ノ雜貨稅率引上ニ依リ特ニ影響甚大ナル綿メリヤス、瑛瑛鐵器、陶磁器、石鹼、硬化油、鉛筆、洋傘ノ各品目別ニ(一)實害ノ程度(二)新稅率ノ不合理ナル點(三)稅率緩和方ニ關スル具体案ヲ先方ニ示シ更ニ(イ)印度側ハ日本品ノ輸入ヲ防遏スルノ意思ナキ旨述ヘ居ルニ不拘既ニ多數商品ニ亘リ既成約定ノ取消又ハ新規註文ノ杜絶ヲ招來セルコト(ロ)今次増稅ハ印度產業ノ保護ヲ目的トスト雖モ關係工場ノ數ハ或場合ハ單ニ一、二ニ止マリ何モ本邦品ヲ全面的驅逐スルヲ正當化スヘキ程度ニ達シ居ラス徒ニ消費者ノ負擔ヲ増大スルニ過キスシテ產業保護本來ノ主旨ニ合致スルモノト認メ難キコト(ハ)右(イ)(ロ)ノ事實ハ今次増稅ノ不必要ヲ語ルモノニシテ當業者ノ陳情ニ對シ十分ノ檢討ヲナシタルヲ疑ハシムルノミナラス我方產業ノ原料購入ノ如キ特種事情及目下苦心シ

ツツアル輸出統制ニ付正確ナル認識ヲ缺キ印度側聲明書中ノ所謂誤解ニ基ケル稅率ナルコト(ニ)昭和七年ニ於テ本邦對印輸出雜貨ノ約二割ヲ占ムル各品ニ對シ殆ント禁止の高率關稅ヲ課シ居ルコト等ノ諸點ヲ舉ケ以テ此ノ際印度側ニ於テ大所高所ヨリ本件ヲ考慮ノ上折角好轉シ來レル日印間ノ雰圍氣ヲ攪亂スルカ如キ措置ヲ是正スルニ至ランコトヲ要望セル覺書ヲ本年一月二十二日澤田代表ヨリ印度政府ニ提出スルト共ニ同代表ヨリ篤ト本件雜貨新稅緩和再考方申入レタル處印度代表ハ印度政府トシテハ產業保護ノ必要上關稅ノ引上ヲナシタル迄ニテ何等日本品ヲ排除セントスルモノニアラストノ前言ヲ固持シタルヲ以テ我代表ハ(イ)現ニ新關稅實施ノ爲輸入契約力取消サレ居ルコトハ事實稅率ノ禁止的ナルヲ示スモノナルコト(ロ)既約品ノ問題ハ當業者ニ對シ直ニ損害ヲ與フル當面ノ重大ナル問題ナレハ之ヲ除外例トシテ舊稅率適用方此際特別ノ取扱ヲ與ヘラレタキコトヲ述ヘタリ然ルニ印度側ハ(イ)新關稅法

案ハ一月二十四日委員會ノ議ニ附セラルル豫定ナルヲ以テ貴代表
トノ談話ノ次第ハ日本代表部ヨリノ覺書ト共ニ同委員會ノ議ニ附
シ考慮セシムルコトトスヘク又(四)右委員會ニハ多數消費者ノ利益
ヲ代表スル者ヲ指名シ出來得ル丈日本側要求ニ付慎重考慮ヲ拂フ
ヘシト語レリ

2. 雜貨關稅法案議會通過

右雜貨關稅法案ハ特別委員會ニ附議セラレタルカ同委員會ハ審議
ノ上我方申入レヲモ考慮ニ入レ琺瑯鐵器ニ付消費者(貧民階級)
ノ利益擁護ノ爲之ヲ原案ヨリ撤回シ更ニ石鹼其他ニ付多少修正ヲ
加フルノ報告書ヲ二月五日議會ニ提出シタリ然ルニ右改正法案ハ
本議會ニ於テ討議ノ結果琺瑯鐵器削除ニ關スル修正ハ否決セラレ
陶磁器關稅ニ付稅率ヲ緩和セル修正案ヲ採擇シ茲ニ本件雜貨關稅
法案ハ法律トシテ發布セララルニ至レリ(右改正稅率ニ付テハ千
九百三十四年雜貨關稅改正法參照)

尙既約品ノ問題ニ付テハ我方ノ要望容レラレサリシモ特定低級品
ニ付テハ行政命令ニ依リ稅關ヲシテ低率ノ稅ヲ賦課セシムルコト
トナシタルヲ以テ之等低級品ノ關スル限り新稅率ハ事實上適用セ
ラレサルコトトナレリ

3. 纖維工業保護關稅改正案

印度政府ハ二月五日生糸、絹糸、人絹糸、絹布、人絹布、各種交
織物等ノ關稅引上ヲ目的トシ千九百三十四年纖維工業保護關稅改
正法案ヲ議會ニ提出セリ我方ニ於テハ右法案ニ依ル稅率中絹織物
人絹交織物及一部メリヤス製品等ニ對スルモノハ相當高率ナリシ
ニ鑑ミ右稅率引下方申入レタルカ本法案ヲ審議シ居レル印度議會
特別委員會ハ三月廿九日審議ヲ終了シ生糸繭、絹糸、絹織物、絹
交織物、人絹交織物、莫大小其他ニ付稅率及品目細別等ノ修正案
ヲ議會ニ提出セリ然ルニ右修正案ニ依ルモ各種稅率ハ尙大ナル緩
和ヲ見サルノミナラス特ニ絹織物及メリヤスニ付テハ依然トシテ

其稅率高キニ過キタルヲ以テ我代表部ハ大体前顯雜貨從量稅引下交渉ノ際ニ於ケルト同様ノ方法ヲ以テ更ニ之カ緩和方ヲ交渉セリ其後本件修正案ハ議會ニ於テ討議セラレ絹物關稅ニ付テハモデイ氏修正案通過シ特別委員會修正案ニ依ル稅率モ相當緩和セラレタルカマリヤスニ付テハ特別委員會提案通可決セラレ茲ニ本案ハ四月十六日議會通過ヲ見ルニ至リタリ（關係改正稅率ハ千九百三十四年纖維工業保護改正法參照）

前述ノ通印度政府ハ客年末一般雜貨關稅ヲ引上ケ更ニ引續キ纖維工業品關稅引上ヲ行ヒタルカ今後此種關稅引上續出スルニ於テハ綿布輸出統制ニ依リ失フ所ヲ雜貨ノ輸出增進ニテ補ハントスル我方ノ期待ヲ水泡ニ歸セシムル懸念アルニ依リ我代表部ハ今後本邦品力甚シク價格ノ低落ヲ見サル限り特ニ關稅引上ヲ爲ササルヘシトノ趣旨ノ保障ヲ印度側ヨリ何等カ書面ノ形式ニ依リ取付ケントシテ努力シタルモ印度トシテハ競爭品ノ輸入價格カ低落スルト否

トニ關係ナク將來國內工業保護上必要ト認ムル同様ノ措置ヲ執ルノ權利ヲ留保セサルヲ得ス但印度政府ハ目下ノ處之以上稅率ノ引上ヲナシ又ハ之以外ノ商品ニ對スル保護關稅引上ヲ考慮シ居ルモノニ非サル趣ヲ表明セリ

第三節 日本ニ於ケル印度品ノ待遇

今次交渉ノ發端ハ印度ニ於ケル日本品ノ待遇問題ニ在リタルヲ以テ印度カ日本品ニ最惠國待遇ヲ與フル以上相互的ニ日本モ印度品ニ對シ最惠國待遇ヲ許與スヘキハ當然ニシテ會商當初ヨリ本件ハ殆ント問題視セラレサリシカ印度側ハ拾月九日ノ第七回會議ニ於テ銑鐵及米ノ二品ニ關シ日本側ノ注意ヲ喚起スル所アリタリ

(A)、銑鐵

先ツ印度側ハ日本ノ銑鐵關稅ハ銑鐵ノ價格及性質ニ鑑ミ不當ニ高率ナルニ付之カ引下方考慮ヲ得度旨述ヘタルヲ以テ日本側ハ印度銑鐵ノ輸入量減少ノ傾向ハ昭和七年ノ關稅引上以前ヨリ生シ居レルモノニシテ現在ノ關稅率ニ影響サレタル爲ニ非ス又現行關稅率ヲ從價ニ換算スレハ一八%程度ニ過キサムヲ以テ印度ノ綿布關稅等ニ比較スヘキ限リニモ非ス且日本ニ於ケル製鐵業ノ現下ノ情勢ニ徴シ右關稅引下ハ到底考慮シ得サルヘキ旨ヲ應答セル處其後印度側ハ何等ノ申

出ヲナササリキ

(B)、米

印度側ハ從來日本カ印度米ノ輸入禁止ヲナシ居ルコトヲ遺憾トシ之カ解禁方考慮ヲ求メタルカ日本側ハ本邦ニ於ケル米ノ生産量最近毎年過剩ヲ示シ居ル情勢ニ徴シ國策上右解禁ハ絕体ニ不可能ナルヘキ旨ヲ回答セリ

尙其後日本側ハ輸出入禁止制限ニ關スル提案ヲナシタル際米ノ除外ヲ主張シタル處印度側ヨリ種々附帶的條件ノ提議アリ結局該提案ヲ撤回スルニ至レル次第ハ後述ノ通りナリ

第四節 輸出入禁止制限條項

一舊日印條約ノ第一條及第二條ニ關スル解釋

日本ハ大正十年法律第三十六號米穀法第二條ノ規定ニ基キ昭和三年三月ヨリ外米輸入制限令ヲ實施シ輸出入ノ禁止制限ニ關シ日本トノ通商條約ニ別段ノ規定ヲ有セサル國ヨリノ輸入米ヲ制限スルコトトナリ其結果英領印度内ノ蘭貢米ハ右勅令ノ適用ヲ受クルニ至レル處同年六月英國大使館ヨリ右取扱ヲ以テ一九〇四年ノ日印通商條約第一條及第二條最惠國待遇規定ノ精神ニ牴觸スルモノナリト抗議シ來レリ右ニ對シ帝國政府ハ前記條項ハ單ニ輸入關稅率ニ關スル最惠國待遇ヲ規定シタルニ止マリ輸出入ノ禁止制限ニハ關係ナキモノナリト建前ニテ之ニ應酬シ來レル經緯アリ

二會議ニ於ケル本件提案

今次會商ニ際シテハ日本側ハ印度政府カ最近著シク増加シ來レル日本品ノ輸入ニ對シ將來禁止又ハ制限ヲナスコトアルヘキヲ惧レ輸出

入ノ禁止及制限ニ關シ相互的ニ最惠國待遇ヲ約スルコトヲ有利ト認メ客年十一月二十一日我方最終案提出ノ際新條約中ニ最惠國待遇ノ原則ニ依ル輸出入禁止制限ニ關スル條項挿入方ヲ提議セリ

右ニ對シ印度側ハ次回會議ニ於テ「印度政府ハ依然舊日印條約ノ規定ヲ以テ輸出入禁止制限ニ關スル相互的最惠國待遇ヲ約シ居ルモノナリトノ解釋ヲ捨テサルモ日本綿製品ニ對スル數量制限ヲ例外ト認ムルコトヲ條件トシテ本條項ノ挿入ニ同意ス」トノ回答ヲナセリ、依テ日本側ハ同會議席上ニ於テ日本ニ於ケル米穀問題ノ重要性ニ鑑ミ米穀ノ輸入制限ニ關シテハ特ニ留保ヲナスヘキ旨ヲ述ヘ先方ノ意見ヲ求メタルカ印度側ハ即答ヲ避ケ十二月十一日附書面ヲ以テ左ノ通り回答セリ

(一) 印度政府ハ依然舊日印條約第一條及第二條ヲ以テ關稅上ノ最惠國待遇ノミナラス本件待遇ヲモ規定シ居ルモノナリトノ解釋ヲ捨テサルモ本件條項ノ挿入ニ同意スルノ用意ヲ有ス

(二) 米ニ關スル例外ハ日印双方共相互的ニ其輸出入ニ對シ適用スルコトヲ條件トシテ同意ス

(一) 印度ハ最近日本ヨリノ米ノ輸入特ニ一度日本へ輸出サレタル蘭貢米ノ逆輸入カ印度國內ノ米穀市場ニ脅威ヲ來シ居ル事實ニ鑑ミ右ノ如キ相互的條件ヲ提議セルモノナリ)

(三) 更ニ印度政府ハ

(イ) 日本綿布ニ對スル數量制限ヲ例外トスルコト

(ロ) 將來綿布以外ノ商品ニ對シテモ割當制度ヲ實施スルコトアル場

合日本品ニ對スル割當量ヲ總テノ第三國ニ對スル割當量ト同一基礎ニ依テ算定セハ本件條項ニ違反セサルモノト認ムルコト

ヲ日本側カ承認スルコトヲ條件トシテ前記二點ニ同意ス

右印度側ノ回答ニ依レハ本條項挿入ノ爲ニハ複雑ナル關係ヲ生シ全般取纏ノ上ニ支障ヲ來ス惧アリト思考シ十二月十六日双方首席代表私的會談ノ際澤田代表ハ本件ニ關スル印度側ノ意見ヲ考慮シタル結果

速ニ本會商ノ妥結ヲ計ル見地ヨリ該提案ヲ撤回スヘキ旨ヲ述ヘボア代表之ヲ諒承シ茲ニ本件提案ハ何等ノ決定ヲ見スシテ終レリ

第五節 爲替條項

一 日印通商條約ノ廢棄惹イテハ本會商開催ノ事態ヲ惹起セル原因ヲ考弁スレハ日本ノ圓價暴落カ最も重要ナル導火線ノ一タリシコトハ何人モ否定シ得サル處ナルヘシ即日本品ノ對印進出ニ拍車ヲカケタルモノハ爲替相場ノ變動ナルカ故ニ印度側カ斯ル爲替變動ノ兩國間貿易ニ及ホス影響ヲ緩和スルニ必要ナル措置ヲ採リ得ヘキ規定ヲ新條約中ニ挿入センコトヲ希望シ居レルハ言フヲ俟タス從テ印度側カ本件ヲ今次會商ノ重要題目トシテ提議シ本規定ノ挿入ヲ飽迄固持スヘキコトハ固ヨリ豫想ニ難カラサリシ次第ナリ

ニ 果シテ第五回本會議ニ於テ印度側代表ハ日本代表部ニ於テハ將來ノ爲替變動ニ關スル何等ノ提案ヲ有スルヤ否ヤヲ質問セリ我方ハ右ニ對シ圓價ハ現ニ安定シ居リ且政府トシテハ必要ナル法制ヲ施行シ圓價維持策ヲ講シ居ル次第ヲ説明シ今後圓價ハ大ナル變動ヲ見ルコトナカルヘク殊ニ今後締結スヘキ協定ヲ比較的短期間ノモ

ノトセハ其短期間ニ重大ナル變動ヲ生スル惧ナカルヘク又萬一其期間中ニ何等カ爲替ニ關聯シテ調整ヲ要スル事態生シタリトスルモ右ハ新ナル協定ヲ結フ際夫迄ノ經驗ニ徴シ適當協議ヲナスコトトシテモ大ナル支障ナカルヘシトテ極力爲替ニ關スル取極ヲナスコトニ反對シ且若シ今次會商ニ於テ是非本件討議ノ必要アラハ該討議ハ他ノ懸テノ問題解決後ニ致度旨ヲ主張シ其後モ同様ノ意見ヲ以テ應酬シ來レルカ印度側代表ハ自分ノ方ニ於テハ本問題ヲ極メテ重要視シ居ルヲ以テ本會商後懸テ行ハルヘキ伊、蘭、白等ト印度トノ新條約商議ノ際ニモ本件規定ヲ協定スル考ナル旨ヲ述ヘ日本側ノ爲替條項不必要論ニ反對セリ乍然我方ハ依然同様ノ議論ヲ繰返シ第拾四回會議ニ於テ日本側最後案ヲ提出ノ際ニモ日本ハ他ノ諸點ニ於テ多大ノ讓歩ヲナスモノナルニ付印度側ハ爲替條項挿入ノ提議ヲ撤回セラレタシトテ最初ノ主張ヲ固持シ更ニ其後ノ交渉ニ於テハ爲替下落ノ場合ハ稅率變更ニ關シ直ニ商議ヲ開始ス

ルコトトシテハ如何トテ極力本件條項ノ挿入ニ反對セルモ印度側ハ終ニ之ヲ容レス十二月五日書面ヲ以テ爲替條項案ヲ送付越セリニ我方ハ茲ニ於テ會商妥結ノ爲策ニ角印度案ヲ考慮スルコトトナシルカ同案ハ今後圓價下落ノ場合印度政府ハ最惠國待遇條項ニ不拘日本品ニ對シ必要ト認ムル程度ノ特別附加稅ヲ課シ得ル旨ヲ簡單ニ規定セルモノナリシヲ以テ我方ハ印度側ニ對シ

(一) 本條項ヲ相互的規定ニ改メ日本政府ノ特別附加稅賦課權ヲモ明ニスルコト

(二) 本條項ニハ「二割以上相手國ノ通貨相場カ下落シ一定期間（例ヘハ三、四ヶ月間）其狀態カ繼續シ國內産業ニ脅威ヲ及ホシタル場合」ト云フカ如キ制限ヲ附スルコト

(三) 特別附加稅賦課後爲替回復シタル際之ヲ低減又ハ撤廢スル規定ヲ設クルコト

(四) 印度ノ綿布關稅ハ割當量ト關聯シ一種ノ協定稅率ナルヲ以テ之

ニハ本規定ヲ適用セサルコト

等ノ制限ヲ附スル必要ヲ述ヘ斯ル趣旨ニ基ケル我方案ヲ提示シタル上日本代表部ハ難キヲ忍ンテ爲替條項挿入ニ同意スル次第ナルニ付我方ノ求ムル修正事項ハ全部承認セラレ度シトノ趣旨ヲ以テ或ハ首席代表間ノ會談ニ於テ或ハ委員會ノ席上ニ於テ種々折衝ヲ重ネタルカ印度側ハ

(一) ノ點ニ關シテハ異議ナキモ圓ニ對スル留比相場法定平價以下トナリタル場合ニ於テノミ日本政府ハ特別附加稅賦課ノ權利ヲ有スヘキ旨ヲ明記スル必要アリ

(二) 相手國ノ貨幣相場下落ノ影響ハ必スシモ下落率ノ大小ニ依ラズ又下落狀態カ一定期間繼續スル場合ハ反ツテ其影響少キヲ以テ下落率及下落狀態繼續期間ニ關スル規定ヲ設クルコトハ不適當ナリ但シ相手國品ノ輸出價格ヲ引上クヘキ各種ノ要因ニ考慮ヲ拂ヒ特別附加稅ヲ必要ノ最少限度ニ止ムヘキ旨ノ規定挿入方ハ

充分考慮スヘシ次ニ

(三)ニ關シテハ異議ナキモ

(四)綿布ニ關シテハ數量ノ制限アリト雖モ價格統制ヲ日本カ約束セサル限り印度ハ爲替附加稅賦課權ヲ留保セサルヘカラス

ト主張シ我方主張ノ全部ヲ承認スルニ至ラサリシモ其大半ハ之ヲ採用セリ其後條文ノ字句ニ關シテ双方ニ多少意見ノ相違ヲ生シタルノミナラス我方ハ斯ル異常時ニ關スル規定ハ別箇ノ議定書ニ納ムルヲ適當トスル旨主張セルニ對シ先方ハ本條項ヲ以テ永久的性質ヲ有スルモノナリトナシ最惠國條款ト同様基本條約中ニ挿入スルコトヲ固執セリ依テ我方トシテハ既ニ本條項ヲ設クルコトニ同意セル以上之ヲ議定書ニ入ルルモ基本條約中ニ存スルモ實質的ニハ何等差異ナキコトニ付結局先方ノ主張ニ同意セリ

斯クシテ成立セル本條項(基本條約第三條)ハ先ツ第一段ニ於テ本條約ノ規定ニ不拘印度政府ハ同政府ニ於テ一九三三年末後ニ於

ケル圓對留比相場ノ變動ニ依ル影響ヲ是正スルニ必要ナリト思考スル率ヲ以テ差別的ナル特別關稅ヲ日本品ニ對シ時々賦課シ又ハ變更スルコトヲ得ル旨ヲ定メ交渉當時ノ比價大体百圓對八十留比ヲ基準トシテ之以上圓價相場カ下落シタル場合必要程度ニ應シ爲替附加稅ヲ賦課シ得ヘキ趣旨ヲ原則的ニ據ケ更ニ本特別關稅ハ少クトモ五週間以上實施シタル後ニ非サレハ變更シ得ストナシ本特別稅ヲ頻繁ニ變更シテ商取引ヲ阻害スルカ如キコトナキヲ期セリ次ニ第二段ニ於テハ

印度政府カ本特別關稅ヲ賦課シ變更シ又ハ日本政府ヨリ之カ變更ヲ求メラレタル場合ニ於テハ日本品ノ輸出價格ヲ引上クヘキ各種ノ要因ニ付充分考慮ヲ拂フヘキコト並本稅率ハ爲替變動ニ依ル影響ヲ是正スルニ必要ナル最少限度ニ止ムヘキコトヲ規定セリ日本品ノ輸出價格ヲ引上クヘキ各種ノ要因トハ例ヘハ日本ノ國內物價ノ騰貴、外國ヨリ輸入セラルル原料品ノ價格等ノコトニシテ初メ

ノ案ニハ斯ル要因ヲ例示シ居レルカ其後起草委員會ニ於テ討論ノ結果一々例示スルノ必要ナシトテ之ヲ削除セリ
更ニ第三段及第四段ハ日本ニ關スル相互の規定ニシテ第三段ニハ圓ニ對スル留比ノ相場カ法定比價以下ニ變動シタル場合日本政府ノ執リ得ヘキ措置ニ關シ第一段ト同様ノ規定ヲ設ケ第四段ニハ日本政府ヲ主体トシテ第二段ト同様ノ規定ヲ擧ケタリ

第六節 印度沿岸貿易問題

一 本件ニ關スル我方ノ措置方針

昭和八年五月印度政府ハ在印帝國總領事ニ對シ現在山下汽船會社ノ緬甸 マドラス 間ニ於テ行ヒ居ル蘭貢米輸送ハ其運費極メテ低廉ナル爲英印船舶ニ多大ノ打撃ヲ與フルモノナルニ付之ヲ差控ヘシムル様日本政府力其インフルエヌヲ用フルコトヲ希望スル旨申越シタリ當時日印通商關係紛糾ノ際ニテモアル帝國政府ハ山下ヲシテ爾後自發的ニ該沿岸貿易ヲ停止セシムルコトトシ在印帝國總領事ハ此旨ヲ非公式ニ印度政府ヘ通達セリ

日印會商直前ニ於テ斯ル經緯アリタルヲ以テ若シ會商中印度側ヨリ此種問題ヲ提議シタル場合ハ我方トシテハ具體的事實ノ説明ヲ求メ其事情諒トスヘキモノアル場合ハ印度沿岸貿易ノ一定範圍ニ日本船ヲ介入セシメサル様帝國政府ノインフルエンスヲ用フヘキ旨言明スル程度ニ留ムル方針ヲ以テ先方ニ應酬スル意嚮ヲ有セリ

ニ本件交渉経緯

客年十一月末重要問題ニ付兩代表部ノ話合相進ミ來レル際ボア代表ハ日本政府ニ於テ將來日本船カ緬甸印度間ノ沿岸貿易ニ從事スルコトヲ差止ムル爲有效ナル措置ヲ執ランコトヲ希望シ公文交換ノ形式ニ依リ本件ニ關スル紳士の協約ヲ遂ケ度キ意嚮ヲ述ヘタリ澤田代表ハ右ニ對シ日本ハ既ニ其措置ヲ講シ現實ニ何等重大ナル問題生シ居ラサルニ付改メテ斯ル取極ヲナス必要ナカルヘキ旨ヲ述ヘタルカボアハ飽迄本件ニ關スル日本政府ノ約束ヲ文書ニ殘シ置カンコトヲ希望シ若シ日本側ニ於テ公文交換ヲ欲セサルニ於テハ澤田代表ノ本件聲明ヲ會議々事錄ニ納メンコトヲ主張セリ依テ我方ハ左記趣旨ニ依リ聲明ヲナスコトニ同意スヘキ旨先方ニ内談セリ

(イ) 緬甸マドラス間ノ沿岸貿易ニ於テ日本船カ英印船舶ノ利益ニ著シキ打撃ヲ與フルカ如キコトアル場合ニ於テハ帝國政府ハ

日本船ノ當該沿岸貿易ニ從事スルコトヲ差控ヘシムル様其インフルエンスヲ用フヘシ但シ

(ロ) 備船契約ニ基ク日本船舶ノ就航ヲ除外スルコト

(ハ) 第三國カ同一航路ニ從事スル場合ハ日本船ニモ同様ノ自由ヲ與フルコト(最惠國待遇)

然ルニ印度側ハ右趣旨ノ聲明ニテハ不充分ナリトシ左記要領ノ訂正ヲ加フル様申越セリ

(イ) 本件ヲ緬甸マドラス間ニ限定セス緬甸ト印度間及印度各港間ニ關スルモノトスルコト

(ロ) 備船ヲ除外セハ本聲明ハ殆ント價值ナキモノトナルニ付備船モ之ヲ禁スルコト

(ハ) 印度政府ハ圓價下落ニ依リ日本船カ低廉ナル運賃ヲ以テ印度沿岸貿易ニ介入シ英印船ノ營利的活動ニ脅威ヲ與フルヲ防止センコトヲ希望シ居ルモノニシテ日本船舶ノ最惠國待遇問題

トハ全然無關係ノモノナリト思考ス但第三國ノ船舶ニ付同様ノ事態發生セハ印度政府ハ之ニ對處スヘキ適當措置ヲ講スルコト勿論ナリ

澤田代表ハ右訂正要求ヲ以テ從來話合ノ範圍ヲ著シク擴大セルモノナリトナシ到底帝國政府ハ斯ル申出ヲ應諾シ得サルヘキ旨ヲ回答シ且本會商當初ヨリノ我方方針ニ從ヒ果シテ斯ル聲明ヲナス實際上ノ必要アリヤ否ヤヲ考慮スル材料トシテ最近ニ於ケル本件ノ actual cases ヲ通報スル様督促セリ

其後印度側ヨリ得タル通報ニ依レハ客年五月以來日本船ニシテ本件貿易ニ從事セルモノハ唯一隻ニ過キス且印度側ノ申越セル四月中旬三井物産ノ取扱ニ係ル傭船契約ナルモノモ事實無根ナルコト判明セルヲ以テ我方ハ更ニ印度側ヨリ本件考慮方ヲ求メ來レル場合ニハ actual cases 殆ント生シ居ラサルコトヲ理由トシテ先方ノ申出ヲ拒絕スル考ナリシカ印度側ハ其後何等ノ申出ヲモナササレキ

第七節 英帝國特惠問題

一 舊日印通商條約ト印度ノ特惠關稅

印度ニ於テ一九二七年英國品ニ有利ナル綿布關稅設定セラルルヤ日本ハ同關稅ヲ以テ事實上日本品ヲ差別待遇スルモノナリトテ抗議セルコトアリシカ日本品ト競争的地位ニ在ル英國品ニ對シ法律上特惠關稅ヲ明定セルモノハ一九三〇年四月ヨリ施行セラレタル印度綿業保護法ナリ當時帝國政府ハ該法律ヲ以テ舊日印通商條約第一條ノ趣旨ニ反スルモノナリトテ英國政府ニ對シ抗議セリ右抗議中我方ハ

明治三十六年日印通商條約締結申入ニ際シ英國政府ハ印度ニ於テハ日本品モ他國品殊ニ英國品ト均等ノ待遇ヲ受ケ居ルニ不拘印度品ハ日本ニ於テ他國品ニ適用セラルル協定稅率ニ均霑シ得サルヲ遺憾トスル旨ヲ表明シ居ルニ鑑ミルモ本條約ノ根本精神ハ日本品カ印度ニ於テ英國ト均等ノ待遇ヲ受クルコ

トヲ前提トシタルモノナリト認メラル同條約第一條ニ單ニ「別國ノ製産」トナセルニ徴スルモ日本政府力前述ノ如ク解釋セルコト明ナリ

トノ趣旨ヲ述ヘタルカ英國政府ハ右我方ノ解釋ニ同意シ得サル旨回答セルヲ以テ帝國政府ハ「別國」ノ字義條約締結ノ精神等ヲ述ヘテ特惠關稅カ舊日印通商條約ノ規定ニ反スル旨ヲ重ネテ英國政府ニ申入レタリ然ルニ英國政府ハ依然右解釋ヲ認メス該法律ハ其儘實施セラレタルノミナラス其後綿布關稅ハ數次ノ引上ニ會ヒ特惠ノ差率ハ益々擴大セラレタリ

ニ オタワ協定ト印度ノ特惠關稅

一九三二年八月ノオタワ會議ニ於ケル英印協定ハ同年冬期ノ印度議會ヲ通過シタルヲ以テ印度政府ハ之ヲ批准シ一九三三年一月ヨリ極メテ多數ノ品目ニ亘リ英國品ニ對スル特惠稅率ヲ實施セリ斯ル特惠關稅ノ爲最モ重大ナル影響ヲ受クルモノハ我國ナリシモ帝

國政府ハ從來ノ經緯モアリ且印度内ニ於テ日印條約廢棄論モ擡頭シ居レル際ナリシヲ以テ何等ノ申入ヲナササリキ

三 日印會商ト特惠問題

前述ノ次第アルノミナラス英帝國內諸領間ノ特惠關稅ハ最近英帝國ノ重大ナル經濟政策トシテ實施セラレ居ル處ニシテ關係諸國ハ何レモ之ヲ默認シ居リ我國力獨リ之ニ反對スルモ實際上ノ效果少キコト明ナルヲ以テ我方トシテハ(イ)他ノ一切ノ諸外國力特惠ニ均霑セス且(ロ)特惠稅率ト一般率トノ開キヲ餘リニ大ナラシメテ事實上本邦品ノ輸入ヲ阻止スルカ如キ事態ヲ惹起セサル限リ特惠ニ均霑方ヲ要求セサル建前ヲ以テ日印會商中本問題ニ關スル討議ハ可成之ヲ避クル方針ヲ執レリ然ルニ客年日本綿布ニ對スル關稅率ヲ五割トナスコトニ双方代表部ノ話合付キタル後英國製綿布ニ對スル印度關稅率引下ノ噂アリタルヲ以テ澤田代表ハ特惠差率ヲ大ナラシムルトキハ日本ノ蒙ル影響少カラサル旨ヲ述ヘ右噂ノ眞否ヲ

ボア代表ニ質シタル處ボアハ目下ノ情勢ニ於テハ大体現狀維持トナルヘキ旨應答セル次第アリ夫以外ニ於テハ條約案起草ニ着手スル迄双方共特惠問題ニ觸ルルコトナクシテ經過セリ

四 本問題交渉ノ經緯

(一) 然ルニ一月三日双方代表部員會合ノ際印度側ハ對英特惠ニ關シ過去ニ於テ論議アリタル事實ニ鑑ミ今回ノ協定中最惠國待遇ノ規定ニ付日本品ハ英帝國商品ノ享クル待遇ニハ均霑シ得サル趣旨ヲ明カニシ度旨述フル所アリ次テ一月十二日印度政府ハ我方ニ送付越セル基本條約案文中「日本ハ英國皇帝ノ主權、宗主權、保護又ハ委任統治下ニ在ル諸領間ニ限り實施セラルル如何ナル待遇特惠又ハ特權ニ依ル利益ニモ均霑スルコトヲ得サルヘシ」トノ條項ヲ挿入シ來リタリ爰ニ一月五日ノ本會議ニ於テ我方代表ヨリ既ニ總テノ重要ナル實質問題ニ關スル合意ヲ遂ケタルヲ以テ兩代表部ハ右合意事項ヲ基礎トシ直ニ條約案文ノ起草ニ取カカルコトト致度キ

旨提議セルニ對シ印度代表ハ細目的事項ニ關スル交渉ハ尙ホ繼續シテ行フコトト致度キモ双方合意事項ヲ基礎トシ直ニ條約案文ノ起草ニ取リカカルコトニ同意シタル次第ナルカ之レニ不拘今ニ至リ右ノ如キ新規且重要提案ヲナスハ右諒解ニモ反シ交渉妥結ヲ徒ニ遷延スル結果ヲ招來スヘキニ付本件提案ハ仲裁條項挿入ノ提議ト共ニ之レヲ撤回セラレ度キ旨申入レタリ

(二) 右ニ對シ印度側ハ才多ワ協定並該協定ニ基ク英帝國內諸領間ノ取極成立以來英國政府ハ外國トノ總テノ條約中ニ此種條項ヲ挿入シ來レル次第ニシテ何等カノ形式ニ依リ特惠ヲ例外トスル旨ヲ明ニシ置度所存ナル處日本側ノ希望ニ依リテハ

(イ) 最惠國條項中ノ ナル語ハ英國皇帝ノ主權、宗主權、保護又ハ委任統治下ニ在ル領土ヲ含マサル旨ヲ條約中ニ規定スルカ又ハ

(ロ) 英帝國內諸領ノ特殊的地位ヲ承認シタル交換公文ヲ聯盟ニ登錄

シ之ヲ公表スルカ

ノ何レカノ代案ヲ考慮シ得ヘシト申越シタリ
依テ我方ニテハ英國側カオタワ協定以後條約ニ挿入シタル特惠條約ニ付取調ヘタル處獨逸丁抹及アルゼンチン等トノ協定ニ於テハ本件規定ナキノミナラス之ヲ有スルアイスランド瑞典諸國、ラトヴィヤ、フィンランド、エストニア諸國トノ協定モ先方最初ノ提案ノ如ク廣汎ナル規定ニ非ス而モフィンランド及ライヴィヤヲ除キテハ何レモ附屬議定書中ニ
ノ字義ヲ前記(イ)ノ趣旨ニ依リ規定シ居ルニ過キス且特惠品目ヲ限定シ居ルモノモアリ日印間ノ場合ト異ル事情アルノミナラス事實問題トシテ特惠ニ關シ日印間ニハ目下何等問題ヲ生シ居ラサル次第ニ鑑ミ速ニ本問題ヲ撤回スル様重ネテ先方ニ申入レタリ

(三) 然ルニ印度側首席代表ハ英國トノ關係モアリ全然無條件ニ特惠條項ノ削除ニ同意スルコト能ハサル旨ヲ述ヘ局面打開ノ爲私案トシ

テ(イ)「別國」ノ意義ニ關シ祕密文書ノ交換ヲナシ之ヲ公表スルコトナク相互ニ記錄文書中ニ保存スルカ又ハ(ロ)協定文ニ假署名ノ際印度側カ「別國」ノ意義ニ關スル宣言ヲナシ日本側之ヲテ「ク、ノ」トシ其次第ヲ議事録ニ留ムルコトトシテハ如何ト提議セリ澤田代表ハ右兩案共受諾困難ナル旨ヲ述ヘ「別國」ニ關スル印度側ノ見解ヲ一方的ニ議事録ニ宣明セラレテハ如何ト應酬シタルカ先方ハ一方的宣言ニテハ閣議及英國側ノ承諾ヲ得ルコト困難ナル旨ヲ主張シタリ

(四) 我方ノ指摘セル英國通商條約ノ實例ニ關シテハ印度側ハ英國ト獨逸及亞爾然丁トノ條約ニハ最惠國待遇ノ規定無キニ付本條項ノ挿入ハ其ノ必要ナク又丁抹トノ條約ニ付テハ調印後公文ノ交換ニ依リ本條項ヲ追加セル旨ヲ回答シ更ニ特惠條項ハ最近蘇聯邦ト締結セル協定中ニモ挿入セラレタル事實ヲ指摘シ斯ル實情並過去ニ於テ最惠國待遇ノ解釋ニ付日印間ニ意見ノ相違アリタル事實ニ鑑ミ

印度側ノ提議ニ係ル條約草案中ニ記載シタルカ如キ形式ニ依ルカ
又ハ最惠國條款中ノ「別國」ノ意味ヲ條約中ニ規定スルカ孰レカ
ニ依ルコトヲ主張セサルヲ得サル旨申越セリ

(五) 依テ我方ニ於テハ本件會商急速妥結ノ見地ヨリ英蘇通商協定ニ於
テソ聯邦カ英特惠ヲ認メタルニ對シ英國カ蘇側ノ隣接國ニ與フル
殊遇ヲ認メタル例ニ鑑ミ先方特惠條項ノ設定ヲ認ムル代リニ日本
カ其ノ緊密ナル經濟的關係ヲ有スル接壤國ニ與フルコトアルヘキ
關稅ニ關スル殊遇ヲ本條約ノ例外トスルコトシ左記提案ヲナセ
リ

Nothing in the preceding paragraph shall

(a) entitle Japan to claim the benefit of any preference or privilege
which India may accord in the matter of customs duties, to articles
produced or manufactured in the territories under the sovereignty,
suzerainty, protection or mandate of His Majesty the King;

(b) entitled India to claim (i) the benefit of any preference or privilege
which Japan may accord, in the matter of customs duties, to articles
produced or manufactured in any contiguous country, or (ii) any advantage
which may be accorded by Japan to any country in virtue of a Custom Union.

(六) 右我方提案ニ對シゾア代表ハ之ヲ以テ印度ニ取り極メテ重大ナル關係ヲ有スルモノトナシ右ハ英國カ蘇聯邦ニ認メタルト形式上ハ成程同一ナルカ如キモ（其範圍及實質ニ於テ大ナル相違アリ且日本ノ接壤國ニ對スル關係ト英帝國內諸領間ノ關係トハ性質ヲ異ニシ居ルノミナラス英蘇協定ノ例ヲ直ニ印度ニ當嵌ムルコトヲ得ス例ヘハ滿洲ニ生産スル銑鐵ニ對スル日本ノ特惠ノ如キハ印度銑鐵ニ重大ナル影響アリ印度側ニテハ到底日本側提案ヲ其儘受諾シ能ハサル旨ヲ述ヘ曩ニ貴代表カ私見トシテササストセラレタル英特惠ニ關スル印度側ノ一方的宣言案ニテハ如何ト質シタルヲ以テ澤田代表ハ右ハ自分一箇ノ私見トシテ話シタル次第ナルモ當時ニ於テハ日本政府モ之ニ同意スヘキ見込アリタルカ該案ハ其ノ當時印度政府ノ認ムル所トナラサリシヲ以テ日本政府ニ於テモ其後詮議シ直シタル次第アルニ付今日ニ於テハ日本政府ノ同意ヲ得ルコト困難ナル旨ヲ應答シ若シ印度側ニ於テ一方的宣言案ヲ主張セラル

ルニ於テハ日本側モ隣接國及關稅同盟國ニ對スル特惠ニ關シ一方的宣言ヲ爲スコトトシ本件ノ妥結ヲ計リタシト述ヘタリ
右ニ對シ印度側ハ日印双方ニ於テ上記日本側申出ノ如キ一方的宣言ヲナスコトトセハ印度側ニ於テ結局日本側ノ案ヲ其儘承認スルト實質上大異ナキニ付斯ル考案ニハ應シ難キ旨ヲ述ヘ更ニ妥協案トシテ

(イ) 日本提案ノ形式ハ之ヲ採ルコトトシ

(ロ) 日本提案中ノ隣接國ヲ滿洲國ノミニ限ルコトトシ且今後條約ノ有効期間タル三年ノ間滿洲國カ日本ニ對シ與フルコトアルヘキ特惠ノ中銑鐵ニ關シテハ印度ヲ均霑セシムルコトトスル試案ヲ提示シ之カ受諾方ヲ求メ兎ニ角前述ノ印度側ニ依ル一方的宣言カ又ハ右ノ妥協案カ何レカニ我方ニ於テ同意アリ度キ旨要望セリ

(七) 其後我方ニテハ右先方案ニ付種々考慮ノ結果澤田代表ヨリ左記趣

旨ノ修正案ヲ提示セリ

(イ) 接壤國ヲ滿洲國、沿海州及北樺太ノ特定地域ニ局限スルコト

(ロ) 印度銑鐵ニ關シテハ印度政府力貿易調節條項ノ趣旨ヲ遵守スル
限リ我方ニ於テモ同條項ノ精神ニ依リ充分考慮スヘシ

(ハ) 印度側ニ於テハ一般關稅ト特惠關稅トノ開キヲ大ニシ本邦品ノ
輸入ヲ防遏スルノ結果ヲ招來スルカ如キ措置ヲトラサルコト

ボア代表ハ右新提案ヲ以テ全体ノ問題ヲ反ツテ擴大セルモノナリ
トナシ到底受諾シ得サル旨ヲ述ヘ日本側ニ何等カ他ニ妥協案ナキ
カラ質問セルヲ以テ澤田代表ハ本件問題ヲ印度側力全然ドロツプ
スレハ本會商ハ速ニ結了シ得ヘキ旨應答セリボアハ之ニ對シ私見
トシテハアツサリ本件ヲドロツプスル方然ルヘキヤノ口吻ヲ洩セ
リ

(ハ) 更ニ澤田代表ハ四月十七日ボアヲ往訪シ會商終了ヲ一日モ速ナラ
シメントノ趣旨ヲ以テ貴方ノ意嚮ヲモ篤ト參酌シ茲ニ最後の妥協

案トシテ沿海州及北樺太ニ付テハ特惠品目ヲ水產物及石油ニ限定
スルコトト致度旨ヲ述ヘ印度側ノ考慮ヲ求メントシタルカボアハ
印度側トシテハ最早此種提案ヲ考慮スルノ餘地ナク此際大局的見
地ヨリ本問題ヲ全然ドロツプスルコトニ決定セル旨ヲ述ヘタリ
元來我方ニ於テハ特惠規定ノ削除方ヲ主張セルモ先方ニ於テ飽迄
之カ挿入ヲ固執セルヲ以テ種々ノ對策ヲ提議セル次第ナルカ本件
ヲ先方カ全然ドロツプセハ我方最初ヨリノ主張ニ合致スルモノナ
ルヲ以テ茲ニ我方從來ノ對策ヲ撤回シ先方ノ申出ヲ承認セリ
本件交渉ハ前述ノ如ク本年四月ニ入りテモ果シテ何時ニ至リテ終
結スルヤ逆睹シ得サル狀態ナリシカ澤田代表ハ當時著シク健康ヲ
害シ醫師ハ速ニ同代表ノ離印センコトヲ勸奨シ居レルヲ以テ終ニ
四月初メ澤田代表ハボアニ對シ會商ノ全般的妥結ヲ見スシテ離印
スルハ甚タ遺憾ナルモ健康上已ムヲ得ス四月二十日頃デリ―發歸
國ノ途ニ上リ度キ考ナルカ若シ夫レ迄ニ全般的妥結ニ到達シ條約

ノ假調印ヲ見ル様取計ヒ度キモ萬一不幸ニシテ其ノ運ニ至ラサル
トキハ當時唯一ノ問題トシテ殘サル居レル特惠條項ニ關シテハ三
宅代表交渉ノ任ニ當ルヘキ旨ヲ傳ヘタル處總督ヲ始メ印度代表部
ハ痛ク澤田代表ノ離印ヲ惜ミ且印度國內輿論ニ對スル關係ヲモ顧
慮シ何トカシテ同代表滯印中ニ於テ全般的妥結ニ到達センコトヲ
切望シ俄ニ懸案解決ニ焦慮シ問題ノ速決ヲ計レルモノノ如シ故ニ
澤田代表離印ノ決意ハ印度側カ三箇月有餘ニ亘リ執拗ニ固持シ來
レル特惠條項ヲ急ニ撤回スルニ至レル一ノ重大動機ヲナシタルモ
ノト觀測セラル

第八節 日印間使節交換問題其他

一 日印間使節交換問題

印度總督ウヰリンドン卿ハ十月二十七日澤田代表ヲ晚餐ニ招待シ
日印關係ノ重要性ヲ述ヘ日印間ニ高級ノ使節ヲ交換常駐セシムル
制度ヲ設クルハ兩國ノ親善關係増進上裨益少カラサルヘキ旨ヲ述
ヘタリ然ルニ右ハ印度總督限リノ意嚮ニシテ果シテ印度政府當局
ハ如何ナル見解ヲ有スルヤ不明ナリシヲ以テ澤田代表ハ帝國政府
ノ訓令ニ基キ一月十六日ボア代表トノ會談ニ於テ本件ニ關スル印
度當局ノ所見ヲ訊ネタルカボアハ自分トシテハ非常ニ望マシキ制
度ト思考スルモ何分憲法上及財政上ノ關係モアルニ付閣議ニ於テ
慎重考慮ノ上回答スヘキ旨述ヘタリ其後澤田代表ヨリ印度總督及
ボアニ對シ屢々本件審議振ヲ尋ネタルモ同代表出發迄ニハ印度政
府ノ確答ヲ得ルニ至ラスボアハ何レ熟議ヲ遂ケタル上英國政府又
ハ在京英國大使館ヲ通シテ印度政府ノ確定案ヲ日本政府ニ通知ス

ヘキ旨語り居レリ尙總督モ澤田代表歸朝ニ際シ自分ハ來ル五月一時英本國ニ歸國ニル機會ヲ利用シテ本國政府ト話合ヲ遂ケ本件制度ノ實現ニ努力スヘキ旨ヲ述ヘ居レリ

ニ日本ノ雜貨輸出統制問題

客年十二月ノ印度雜貨從量稅實施以前ニ於テボア代表ハ澤田代表ニ對シ印度ハ今次交渉ノ次第ニ基キ産業保護法ノ適用ハ之ヲ禁止メ其代リニ從量稅ヲ設ケテ國內産業保護ノ目的ヲ達セント企テ居ルモ從量稅ニ依リテ充分其目的ヲ達シ得ス再ヒ日本品ニ依リテ國內産業力脅威ヲ受クルカ如キ事態ヲ生スレハ又々條約廢棄等ノ問題ヲ惹起スヘキニ付之ヲ避クル爲日本政府ニ於テハ今後輸出統制ノ範圍ヲ擴大シ有效ニ之ヲ實行スル樣條約又ハ公文交換ノ如キ形式ニ依リ保障ヲ得度旨述ヘタルカ澤田代表ハ日本ニ於テハ自發的ニ出來得ル限り統制ヲ行フ方針ヲ以テ進ミ居ルヲ以テ斯ル約束ノ必要ヲ認メサルノミナラス今更スル新規ノ提案ヲナササルニ於テ

ハ會商ヲ益々紛糾セシムル惧アル次第ヲ應答シ右申出ノ撤回ヲ求メタリ其後印度側ハ右申出ヲ固執セサリシヲ以テ本問題ハ自然立消エノ態トナレリ

蘭貢米ノ逆輸出問題

シムラニ於テ交渉進行中一日本商社力過去ニ於テ日本へ輸入セラレタル蘭貢米ヲ極メテ低廉ナル價格ヲ以テ再ヒ印度ニ輸出スル契約ヲ爲シタルコト印度議會ノ問題トナリタルヲ以テ印度代表部ハ之カ差止方ヲ我方ニ求メ來レリ我方トシテハ契約ノ履行ヲ差止ムルコト困難ナル旨ヲ以テ其ノ要求ヲ却ケタルカ印度側ヨリハ重ネテ我方ノ好意的斡旋ヲ希望シ來レルヲ以テ此種派生的事件ノ爲當時商議中ノ重要問題ノ解決ヲ不利ニ導ク不得策ナルヲ認メ帝國政府ハ關係商社ニ右契約米賣渡差控方申聞ケタリ依テ契約當事者間ニ解約交渉行ハレタルカ日本商社側ハ違約金支拂ノ問題ニ關シ我政府ノ斡旋ヲ求メ來レルヲ以テ我代表部ハ印度側ト該問題ニ付交渉シタルモ話合繼ラス印度側モ已ムヲ得ス既約品ノ賣渡ノミハ之ヲ默認スルコトトシ今後斯ル事件ノ再發セサル様有效ナル措置ヲ講センコトヲ日本側ニ求メ來レルヲ以テ我方之ヲ諒承セリ

其後關係日本商社ハ政府側ノ意向ヲ尊重シ蘭貢米ノ對印輸出ヲ差控ヘ居タルモ最近ニ至リ又々同様ノ問題ヲ惹起シ印度政府ヨリ在印帝國總領事ニ之カ差止方ヲ要求シ來レル趣ナリ

輸出税ニ關スル最惠國條款ト印棉ニ對スル輸出税問題

本年一月二十五日印度代表部ヨリ我代表部ニ送付越セル第二次印度側條約案中ニハ輸入關稅ノミナラス輸出關稅ニ付テモ相互ニ最惠國待遇ヲ許與スヘキ旨ノ規定挿入セラレ居リタルカ我方ハ世界經濟ノ現狀ニ鑑ミ斯ル規定ノ不必要ナルヘキ旨ヲ主張シ印度側之ヲ承認セリ乍然綿布割當量及直接關係アル印棉ノ輸出ニ對シ印度政府ニ於テ關稅ヲ課スルカ如キコトアリテハ日本ノ利益ヲ害スル處大ナルヘキニ付前記輸出税最惠國條款カ問題トナレル機會ニ於テ澤田代表ハ印度政府ニ於テ將來棉花ニ輸出税ヲ課スル意向ヲ有スルヤ否ヤヲ質問セル處先方代表ハ其意企ヲ有セサル旨應答セルカ右ハ同代表ノ私見ニシテ充分ノ保障トナラザルヲ以テ我方ハ更ニ文書ニ依ル印度政府

ノ保障ヲ求メタリ

右ニ對シ三月十日附書翰ヲ以テ印度側ヨリ回答越シタル要旨左ノ如シ

目下印度政府ハ印棉ニ對スル輸出税ヲ賦課セントスル何等ノ意向ヲ有セス又今後三箇年以内ニ斯ル税ヲ課スルカ如キコトハ全然起リ得ヘカラサルコトト認ム但現ニ印度政府ハ棉花栽培業助長ノ資ニ供スル爲棉花各一俵ニ對シ二安ノ Cotton cess ヲ徴シ居ル處該 cess ノ額ハ今後變更セラルコトアルヘキモ其額ハ現在ニ於ケルト同様少額ノモノナルヘキコトヲ保障シ得ヘシ

英仲裁條項

本年一月二十五日印度側ヨリ送付越セル先方作成ノ條約案中ニハ左記ノ如ク條約ノ適用及解釋ニ關スル司法的解決條項挿入セラレタリ

The High Contracting Parties agree that any dispute which may arise between them as to the proper interpretation or application of any of the provisions of the present Convention shall be submitted for the decision of the Permanent Court of International Justice at the Hague.

Nevertheless, any disputes which may arise as to the application of the provisions relating to tariff questions, and which require immediate settlement, shall be submitted, at the request of either of the High Contracting Parties, to arbitration by a tribunal established for each dispute and composed of three persons, of whom each of the High Contracting Parties will nominate one, and the third shall be appointed by agreement between the two High Contracting Parties, or, failing agreement between them, by the President of the Permanent Court of International Justice.

The decisions of this tribunal will be final and possess binding force 我方ニ於テハ斯ル規定ハ政治條約ニハ兎モ角今次ノ如キ有効期間三箇年位ノ通商條約ニ關スル問題ヲ態々長期間ヲ要スル司法的解決ニ附スルカ如キコトハ實際上有リ得ヘカラサルニ付全ク不必要ノ規定

ナルノミナラス聯盟ヲ脫退セル日本トシテハ國際司法裁判所ニ此種
 問題ヲ附託スルコトヲ好マス又日本ノ締結シ居ル通商條約ニハ此種
 條項ナキヲ以テ帝國政府ヲシテ新ニ斯ル條項挿入ヲ承諾セシムルハ
 容易ナラサル旨首席代表間ノ會談及委員會ノ席上ニ於テ説明シ本條
 項ノ撤回ヲ要求セルカ印度側ハ最近英國ノ締結セル通商條約ハ殆ン
 ト何レモ本條項ヲ含ミ居リ英本國ニ於テ是非何等カノ形式ニ於テ條
 約ノ解釋及適用問題ニ關スル紛議ノ解決方法ヲ規定シ置ルノミナラ
 ス今次協定スヘキ緋布ニ關スル議定書中ニハ複雑ナル條項多キニ付
 印度トシテモ此種規定ヲ設ケ置クコトヲ欲スル次第ナリト説明シ若
 シ日本側ニ於テ印度側原案ニ不贊成ナラハ何等カ適當ナル代案ヲ提
 出セラレタク印度側ハ其代案ニ充分ノ考慮ヲ加フヘシトノ意向ヲ表
 明セリ

當時日印間ニハ特惠條項ニ關シ意見ノ相違アリタル爲帝國政府トシ
 テハ已ムヲ得サル場合ニ於テハ特惠條項ヲ撤回セシムル代償トシテ

「外交交渉ニテ解決シ得サル條約ノ解釋及適用ニ關スル糾議ハ兩締
 約國ノ合意ニ依リ組織セラルヘキ仲裁裁判ニ附スヘシ」トノ趣旨ノ
 簡單ナル規定ヲ存スルコトニ同意シ差支ナキ意向ヲ有シ居レルモ我
 代表部ニ於テハ依然特惠及仲裁條項ノ削除方ヲ主張シ居レル處印度
 側ハ三月十日附書翰ヲ以テ

日本カ特惠ニ關スル印度案ヲ受諾スルコトヲ條件トシテ仲裁條項
 ヲ撤回スヘシ

トノ趣旨ヲ通知越セリ其後我方ノ強硬ナル主張ニ依リ特惠ニ關スル
 印度案モ全然撤回セラレタルカ印度側ハ仲裁條項挿入問題ヲ再ヒ蒸
 シ返スコトヲ爲ササリキ

六 綿布協定運用ニ關スル印度側ノ苦情

ノ船腹割當問題 本年一月八日大日本紡績聯合會ハ印棉不買決議ヲ撤回セルカ之ヨリ先印度人ノ棉花取引商中ニハ不買撤回ヲ見越シテ豫メ多量ノ棉花ヲ買付置キ右決議撤回後機先ヲ制シテ日本ヘノ積出ヲオサントシ在孟買大日本紡績聯合會出張員ニ船腹ノ割當ヲ要求セルカ該出張員ハ統制的ニ船腹割當ヲ行ヒタルヲ以テ右印度人商等ハ充分ノ割當ヲ得ル能ハサリキ依テ彼等ハ右措置ヲ以テ印度人ニ差別待遇ヲ與フルモノナリトシ印度政府ニ陳情スル處アリタルヲ以テ印度代表部ヨリ本問題ニ付我方ノ注意ヲ喚起シ來レリ我方ハ右印度人側ノ苦情ハ誤解ニ基クモノナル次第ヲ簡單ニ説明シテ印度側ノ諒解ヲ求メタルモ印度側ハ更ニ詳細ノ事情ヲ知リ度キ旨重ネテ申越セルヲ以テ我代表部ニ於テハ在孟買領事ヨリノ報告等ニ基キ本年四月要旨左ノ如キ回答ヲオシ置ケリ其後本問題ハ左記(一)ノ通り自然解消セリ

(一) 大日本紡績聯合會ハ日本ノ印棉買付開始以來永年ニ亘リ船會社トノ契約ニ基キ孟買ニ代表者ヲ置キ船會社ト荷主間ニ立チ船腹調節ヲ行ヒ居ル次第ニシテ今次ノ措置トテモ別ニ從來ノ方針ヨリ逸脱セルモノニ非ス單ニ印棉不買ナル異常事態ノ善後措置トシテ船腹調節ノ必要上過去三ヶ年間ノ積出量ヲ基準トシテ各關係商社ニ船腹割當ヲ行ヒタルニ過キス勿論例年ヨリモ多量ニ積出サントシタル一部荷主ハ之ニ對シ不滿ヲ抱キタランモ印度人ニ對シ特ニ差別待遇ヲオシタル事實ナシ

(二) 尤モ前記割當方針ハ既ニ二月末以來著シク緩和セラレ三月四月ノ如キハ船腹ノ餘裕生シ居ルヲ以テ印度側荷主ニ於テモ何等ノ不服ナカルヘク萬一更ニ船腹不足ノ場合ハ臨時配船ヲ行フ趣ナリ

2. 在本邦印度商ニ對スル綿布割當問題

四月十六日ボア代表ハ書翰ヲ以テ最近ノ情報ニ依レハ三月二日

以來在日本印度商ニハ綿布輸出許可ヲ與ヘラレサル爲彼等ハ多量ノストツクヲ有スルニ不拘印度向契約品ノ積出ヲ爲シ得サル趣ナルニ付日本政府ニ於テ印度人輸出商力不當ノ待遇ヲ受ケサル様適當措置アラシコトヲ希望スル旨申越シタリ依テ右趣ヲ本省ニ電報シタル本省ヨリハ事情取調ノ結果ヨリ回電越シタルモ右回電ハ澤田代表ヱリ―出發後接到セルヲ以テ松島書記官ヨリ四月二十六日先方事務總長スヂユワ―トニ對シ口頭ヲ以テ左記趣旨ヲ説明シ置ケリ

(一)對印輸出綿織物割當ニ關シテハ日本人ト印度人トノ間ニ何等差別ヲナシ居ラス

(二)晒加工綿布ノ如キハ九月末迄ノ割當量ノ半以上ヨリ既ニ輸出シタルヲ以テ三月以後輸出許可制限ヲ行ヒタルカ右ハ日本人タルト外人タルヲ問ハス一般ニ適用セラレ居ル次第ナリ

(三)今後モ輸出統制ニ關シテハ特ニ印度人ニ優先的便宜ヲ供與スル

3. カツチヨリ英領印度ヘノ密輸出問題

コトハ困難ナルモ差別的待遇ヲナスカ如キコトナカルヘシ若シ不公平ナル取扱ヲナシタル具體的實例アラハ申越サレタシカツチハ孟買ノ北ニ在ル半島ニ占據スル人口約五十萬ノ印度土侯國ナルカ右土侯國ハ英領印度ト獨立ノ關稅制度ヲ有シ印度政府ハ之カ關稅ニ干涉シ得サル關係ニ在リ從テ今次ノ協定ハ同國ニハ適用ナク其結果同國ヘノ日本綿布輸入ハ何等ノ制限ヲ受ケサル次第ナリ

然ルニ本年一月八日ヨリ英領印度及カツチ以外ノ印度土侯國ヘノ日本綿布ノ輸入ハ制限ヲ受クルコトナリタルヲ以テ最近此制限ナキカツチヘ日本綿布ヲ輸入シ之ヲ英領印度ヘ密輸出スル向少カラサル處カツチト英領印度トノ國境線長キ爲印度政府トシテハ充分之力防遏ヲナシ得サル趣ニテボア代表ハ會商妥結間際ニ至リ右趣ヲ澤田代表ニ説明シ日本政府ニ於テ之カ取締ニ協

力センコトヲ希望シ日本側ヨリ何等カ言質ヲ得度旨申述ヘタル
カ澤田代表ハ輕ク之ニ應酬シ兎ニ角日本政府ノ考慮ヲ求ムヘキ
旨回答シ其儘トナシ置ケリ

其後倫敦ニ於テ英國外務省ト在帝國大使館トノ間ニ日印條約調
印交渉行ハルルニ及ヒ英國外務省ハ印度政府ノ希望ニ依ル趣ヲ
以テカツヂヲ條約適用範圍ニ加フヘシトノ祕密公文ノ交換ヲナ
サンコトヲ提議セルカ我方ハ會商終了後斯ル實質的新提案ヲナ
スコトハ日印交渉ニ關スル日英間ノ基礎的諒解ニ反スル旨ヲ力
説シ現ニ該提案撤回方交渉中ナリ尤モ帝國政府ハ新條約ヲ圓滿
ニ實施スル爲印度政府ノ執ラントスル本件措置ニ對シ適當且可
能ナル援助ヲナスヘク目下其方法ヲ考慮シ居ル趣ナリ

第九節協定ノ形式及其有效期間

一 協定ノ形式

(一) 本年一月五日重要問題ニ關シ兩代表部間ノ合意成立シタル後我
方起草委員ハ最惠國待遇、適用區域等ノ如キ永續的規定ヲ基本
條約中ニ挿入シ基本條約中ノ原則ニ對シ例外ヲナスヘキ異常時
ニ對スル規定タル爲替條項及貿易調節條項ノ如キモノヲ附屬議
定書ニ收メ更ニ綿布ニ關スル協定ヲ別箇ノ議定書中ニ規定セン
コトヲ提議シ之等議定書ハ半永久的ナルヘキ基本條約ト獨立ニ
廢棄シ得ル様爲シ置クコトヲ希望セルカ印度側ハ爲替及貿易調
節ニ關スル規定モ最惠國條款ト同様永久的性質ヲ有スルモノニ
シテ之等ヲ一括シテ初メテ日印間ノ通商關係ヲ公平ニ律シ得ル
次第ナレハ綿布協定ヲ附屬議定書ノ形式ニ依ル以外他ノ主要規
定ハ全部基本條約中ニ收メンコトヲ主張セルヲ以テ實質的ニハ
大ナル差異ナキ問題ニテモアリ我方ハ先方ノ主張ヲ承認セリ

(二) 綿布ノ輸入制限ニ關スル細目的事項ノ協定ハ適宜變更スルノ必要生スルコトアルヘク又法律的ニ考フルモ右ハ綿布協定實施ノ便宜上日印關係官廳ノ執ルヘキ行政的措置ニ付兩代表部間話合ノ結果ヲ取纏メタル諒解ニ過キス斯ル諒解ハ條約又ハ議定書中ニ挿入セラルヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ之等ハ双方首席代表間ニ書翰ヲ交換シテ各自國政府ノ執ルヘキ措置ヲ通報スル形式ニ依ルコトトセリ尙日本側ヨリノ往翰中ニハ議定書中ニ使用セラレタル「綿布」「棉花ノ俵」「再輸出」ノ諸語ノ解釋ヲ規定セリ（本件往復文書ハ當分發表セサルコトニ打合濟）

(三) 又兩代表部間ニ豫メ話合ノ結果一方の意思表示トシテ双方各首席代表カ本會議ノ席上行ヒタル重要聲明ニシテ日印通商條約實施上參考トナルヘキモノハ本年一月五日及四月十九日ノ會議事錄中ニ採録セラレタリ尙兩代表部間ノ往復文書中ニモ參考トナルヘキ重要ナル意思表示ヲ記錄セルモノアリ例ヘハ印棉ニ輪

出稅ヲ課セサルノ保障 ニ條約及議定書ノ有効期間

印度側ハ最初ヨリ今次協定ノ有効期間ヲ三箇年乃至五箇年トナシ度意嚮ヲ洩ラシ居レルカ我方モ今後如何ナル經濟變動ヲ生スルヤ豫知シ難キ情勢ノ下ニ於テ締結セラルヘキ協定ハ有効期間ヲ比較的短ク定メ置クヲ適當ト認メ大体三箇年位トナシ度意嚮ヲ以テ先方ト交渉セリ

其後條約案起草ノ際ニ當リ先方ハ基本條約及議定書ヲ何レモ有効期間三箇年トシ豫告期間ヲ前者ハ六箇月後者ハ九箇月トスル廢棄條項ノ挿入方ヲ提議セルモ我方ハ基本條約ニハ豫告期間ヲ六箇月トスル廢棄條項ヲ附シ差支ナキモ議定書ニハ廢棄條項ヲ設ケス三箇年後當然失效スル仕組トスルコトヲ適當トスル旨主張シ先方モ我方ノ主張ヲ容認セリ尤モ右有効期間ハ大体三箇年ノ見當ニテキツカリ綿布年度ノ終ニ一致スヘキ一九三七年三月廿一日迄トセリ

The documents we have just initialled are the fruits of our loyal and hearty co-operation during the last seven months, and I am confident that they will constitute the solid foundation upon which the new edifice of the Indo-Japanese relations is to be based. I am sure that they will afford an adequate guarantee for the promotion of the Indo-Japanese trade relation for the future and will usher in a new era of mutual happiness and prosperity of the two peoples. I sincerely hope that these documents will duly come into force at the earliest possible opportunity.

In conclusion I wish to express to you our gratitude for the courtesy and hospitality

which

which the Government and people of India have generously extended to us ever since we landed at Calcutta in September last. Particularly I must tell you how highly we have appreciated the kind consideration and attention which you and your colleagues have been good enough to show us during our long sojourn in this country. Above all, we count it our good fortune to have formed warm ties of friendship with you all, and I wish to assure you that each and every one of us will carry away with us the most pleasant memory of our visit to your country. We came as friends, we are leaving as better friends than ever."

9. The meeting terminated at 6.45 p.m.

Sd. T.A. Stewart, 19.4.34

Sd. S. Matsushima, 19.4.34

every possible avenue for arriving at agreement on outstanding questions one after another and it has always been my good fortune to find in you and your colleagues the keen sense of appreciating our position and the sincere desire to adjust our mutual requirements.

As regards the Japanese Delegation, I wish to assure you, if assurance is needed at all, that we have been inspired by genuine desire to reach an agreement which is best calculated to contribute to the promotion of the cordial relations between Japan and India, and we have done our utmost in order to ensure the success of our negotiations. You will agree with me when I say that the entire course of our negotiations

tions has been characterised by the spirit of mutual confidence and friendliness. From the moment I met you for the first time in Simla last year, I have ever been conscious of the presence of this spirit in our midst. Because of this conviction, I have never entertained the slightest doubt as to the final success of our labour.

At this moment, however, I must confess that we have travelled over the hazardous road and that our task has by no means been an easy one, but thanks to the titanic efforts made on both sides, with the singleness of purpose, to ensure the success of our negotiations, we have been enabled to bridge over difficulties which came to stand in our way one after another and our labour has to-day come to a happy and successful conclusion.

The

as representative of all that is best in the national culture and character of Japan. We trust that the friendships made during these past few months will long endure. We regret Your Excellency's temporary indisposition and trust it will disappear as soon as you have reached a more congenial climate. Nevertheless, we venture to hope that Your Excellency will not carry away unpleasant memories of our country and that you will never cease to do all in your power to further the cause of friendship between Japan and India."

8. His Excellency replied to the following effect:-

"It was with genuine pleasure that I have
listened

listened to the remarks you have just made in regard to the successful termination of our negotiations. You were good enough at the same time to refer in flattering terms to the part our Delegation have played in the conduct of the negotiations and also to myself. The warm sentiment thus shown us is highly appreciated by us all. On my part, I must express on this happy occasion, our profound appreciation of the spirit of co-operation and accommodation in which you, Sir Joseph, and your highly esteemed colleagues have worked with us for the realisation of our common purpose. Throughout the long negotiations that have lasted more than half a year, you have always been ready to co-operate with us in exploring
every

follows:-

"Your Excellency,

Now that our labours extending over a period of seven months have been brought to a successful conclusion, may I, on behalf of the Indian Delegation, express our deep appreciation of the spirit in which Your Excellency and Your Excellency's Colleagues approached the difficult problems we have had to face? I venture to think that the successful issue of our conversations has in large measure been due to your readiness to appreciate our difficulties and your determination to overcome every surmountable obstacle in the way of a settlement. We on our part have endeavoured to reciprocate to the full the spirit shown by the Japanese Delegation. We believe we have secured a settlement fair to both sides, and we believe

that

that it will be the endeavour of both sides to work it fairly and honourably in the letter and in the spirit. Today marks for us a historic event. We value particularly the opportunity we have had of meeting face to face the representatives of the great Empire of Japan, of removing any misunderstandings there may have been in the past, and of establishing friendly relations between the two countries we hope on a firm and lasting basis. We trust, Sir, that the visit of the Japanese Mission to India will be productive of enduring benefits to both countries. To my Colleagues and myself it has been a great privilege, if Your Excellency will forgive a personal touch, that we have been brought into such close and friendly contact with one whom we have come to regard

as

- 4 -

that in the event of the separation of Burma from India, the references in the Protocol to India shall be deemed to be references to India and Burma as constituted after separation taken together and the references in Article 2 to the Government of India shall in respect of Burma be deemed to be references to the Government of Burma."

On behalf of the Indian Delegation, the Hon'ble Sir Joseph Bhore said that they had taken note of the declaration by the Japanese Delegation.

5. The Draft Convention and Protocol were then initialled and the Notes incorporating the working arrangements for the regulation of exports of cotton piece-goods from Japan were exchanged.

6. In handing over the Indian note, the Hon'ble Sir Joseph Bhore made the following statement relative to the understanding of the Indian Delegation in respect of uncertified arrivals prior to the enforcing of the prohibition against such

goods:-

- 5 -

goods:-

"The Indian Delegation further desire to place on record their understanding that, notwithstanding the terms of the notes setting forth the working arrangements for the regulation of exports of cotton piece-goods from Japan to India exchanged this day, the Japanese Government will agree to the inclusion in the permissible allotment of cotton piece-goods for the period from 8th January to 30th September of Japanese piece-goods which arrived prior to 11th April and were not covered by the prescribed certificate after verification of the fact that they have been consigned from Japan after the 8th of January 1934 and are of the categories which should properly be included in the allotment."

7. The Hon'ble Sir Joseph Bhore then spoke as follows:-

- 8. Mr. G.S. Hardy
- 9. Dr. D.B. Meek
- 10. Mr. N.R. Pillai.

2. The record of the proceedings of the meeting held on the 5th January 1934 was approved.

3. The Hon'ble Sir Joseph Bore then proposed that the Delegates proceed to initial the draft Convention and Protocol. In proceeding to initial, the Hon'ble Sir Joseph Bore made a reservation in the following terms on behalf of the Indian Delegation in respect of the alternative forms of the Convention and Protocol:-

"The Indian Delegates desire to place on the record of the proceedings of this meeting that in initialling the alternative forms of the Convention and Protocol put forward by the Japanese Delegation, they acknowledge their correctness in substance, but they

reserve

reserve for the consideration of His Majesty's Government the question of their correctness in form."

4. In proceeding to initial, His Excellency Mr. Sawada made the following statement as regards the understanding of the Japanese Delegation in respect of Burma in the event of separation from India: -

"The Japanese Delegation understand that if Burma is separated from India while the proposed Protocol still remains in force, all obligations arising out of the stipulations of the Protocol which are binding on Burma as a Province of British India shall continue to be binding on the Government of Burma after separation for the remaining period of the validity of the Protocol, and in particular they understand

that

Government of India who have endeavoured, by means of these duties, merely to afford adequate protection to home industries and have not been influenced by any hostility towards Japanese trade. If, however, the Japanese Government desire to make any representation in regard to these specific duties with the object of showing that the measures taken by the Government of India have been unnecessary or based on misunderstanding, the Government of India will be ready to give due consideration to any such representations.

RECORD OF PROCEEDINGS OF THE FINAL
MEETING ON THE 19th APRIL, 1934.

A meeting of the Japanese and India Delegations was held at 6 p.m. on Thursday the 19th April 1934, in the Hon'ble Sir Frank Noyce's room in the Council House. There were present -

For Japan

1. His Excellency Mr. Setsuzo Sawada
2. Mr. T. Miyake
3. Mr. S. Matsushima
4. Mr. K. Yoshida
5. Mr. A. Kodaki.

For India

1. The Hon'ble Sir Joseph Bhole
2. The Hon'ble Sir Fazl-i-Husain
3. The Hon'ble Sir Frank Noyce
4. The Hon'ble Mr. T. A. Stewart
5. Dewan Bahadur Sir T. Vijayaraghavacharya.
6. Mr. D. G. Mitchell
7. Mr. A. G. Clow

view of the importance which the Japanese Government have always attached to the export of miscellaneous goods from Japan to India, they may make representation to the Government of India on the basis of the examination now being made concerning the effect of these specific duties on the Japanese goods. The Japanese Delegation trust that the Government of India are ready to give an assurance to the effect that they will give a most careful and close consideration to any official representation on the subject with a view to the present situation being ameliorated.

The Government of India have no intention of prohibiting the importation of any Japanese goods. In the interests of the consumer, they do not wish to place any unnecessary obstacles in the way of imports which do not compete directly or indirectly with the products of the country. They are fully aware that prohibitive duties will eventually result in the decline of the customs revenue, and that the total elimination of foreign competition is not always conducive to the efficient development of home industries. In imposing the new specific duties upon miscellaneous goods, the Government of India desired to restore fair competitive conditions and have limited the duties to such rates as are deemed necessary for the protection of Indian industries. These rates have been fixed after exhaustive examination and mature deliberation on the part of the Government

Specific duties newly imposed by the Government of India become affective on the 23rd Decembär last. In view of the fact that these duties have become applicable to large part of Japanese miscellaneous goods exported to India, the Departments concerned of the Japanese Government have been examining the effects which the imposition of such duties may have on the Indo-Japanese trade relations.

The results of their examination so far obtained have revealed that the increase in duties has been so heavy in general as to deal a serious blow to the export of miscellaneous goods from Japan to India, and it is deemed inevitable that Japan's export trade to India will signally decline in the future. In respect of certain goods, notably cotton hosiery, earthenwares and potteries, enamelled iron-ware and pencils, the new duties are regarded as being prohibitive. Japanese manufacturers and exporters are seriously concerned as to the effect of these

duties

duties upon their respective trade with India, and they have appealed to the Japanese Government as well as the Japanese Delegation here to take steps with the Government of India with a view to mitigating such effects. We have been informed that in a large number of cases, importers in India have been compelled to cancel the contracts for the purchase of Japanese goods made previous to the imposition of these duties. In cotton hosiery alone, the quantity thus cancelled is estimated to have amounted to 1.5 million dozens.

It is feared that these unfortunate circumstances will seriously dislocate the trade relations between Japan and India. It is particularly regrettable that such apprehension should have been caused to arise at the moment when agreement of views has been reached between the two Delegations on all outstanding problems relative to Indo-Japanese trade. In

view

His Excellency Mr. Sawada stated as follows: -

"According to information just received from my Government, the Cotton Spinners' Association of Japan, at the Committee meeting held at Osaka on the 4th January decided to withdraw on the 8th January, 1934 the resolution concerning the suspension of the purchase of Indian raw cotton."

The Honourable Sir Joseph Bhore replied as follows: -

"In view of the withdrawal of the resolution referred to by Your Excellency and in view of the agreement of views between the two Delegations referred to above, the Government of India will reduce the customs duties on Japanese cotton piece goods imported into India to the rates which have been agreed upon between the two delegations from the 8th of January, the date from which the resolution of the Cotton Spinners' Association of Japan concerning the suspension of the purchase of Indian raw cotton is withdrawn,

and

and will accord the most-favoured-nation treatment in respect of customs duties on Japanese cotton piece goods imported into India. From the same date imports of Japanese cotton piece goods into India will be regulated in accordance with the conditions mentioned above."

the Indian Delegates find themselves in full agreement with the substance of the statement which has just been made by Your Excellency. I would, however, offer the following remark not by way of modification of anything which Your Excellency has said, but in order to secure the elucidation of a point which might otherwise be ambiguous and in order to remove an apparent inconsistency. I refer to the provision that the allotment for the first part of Cotton Piece Goods Year shall be 200 million yards. In the event of the purchase of raw cotton by Japan being less than the quantity which would justify a total yearly quota of this amount, I assume that Your Excellency agrees that the necessary adjustment should be made from the next year's quota."

His Excellency Mr. Sawada then stated as follows:

"I am happy that my statement has been concurred in by the Honourable Sir Joseph Bhore. I wish therefore to propose that the two Delegations proceed immediately to the actual drafting of the new agreement to be formulated upon the basis of agreement of views that has been reached. I trust that the Indian Delegation are ready to accede to the proposition."

The Honourable Sir Joseph Bhore replied as follows:

"The Indian delegation agree to the suggestion put forward by Your Excellency. The Agreement to be drafted will of course further include conclusions on minor subsidiary details which still remain to be filled in."

the 1st April on which the 1st Piece Goods Year begins to run shall be the proportionate fraction of the quantity that would have been allotted to the whole Piece Goods Year from the 1st April, 1933 to the 31st March, 1934, on the basis of the quantity of Indian raw cotton imported into Japan in the Cotton Year of 1933 (from the 1st January to the 31st December).

(ii) The quota for this period and the first half-yearly instalment of the 1st Piece Goods Year quota shall be consolidated into one for the period of approximately 9 months ending at the end of September, 1934.

(6) ENFORCEMENT OF THE NEW AGREEMENTS.

(a) Separation of Burma.

It has been agreed upon that the terms of the new Treaty shall remain in force throughout its full term whether or not Burma is separated.

(b)

(b) Duration of the new treaty.

It has been understood that the new Treaty shall be signed as soon as possible at London by the respective representatives of the Japanese Government and the British Government. The Treaty shall come into effect immediately after the exchange of ratifications and shall remain in force until the 31st March 1937.

I have above stated the substance of the agreement of views that have been arrived at between the two Delegations in the course of the negotiations since September last, and I trust that the Indian Delegation are ready to concur that these agreements have been reached."

The Hon'ble Sir Joseph Bhore replied as follows: -

"I have great pleasure in informing Your Excellency and Your Excellency's colleagues that

the

half-yearly period of the succeeding Piece Goods Year and vice versa, a transfer up to a maximum of twenty million (20,000,000) yards shall be permitted.

(d) Classification of the Quota into Categories.

The quota of cotton piece goods shall be classified into the following categories in conformity with the following percentages:

Plain greys forty-five per cent. (45%)
 Bordered greys thirteen per cent. (13%)
 Bleached eight per cent. (8%)
 Coloured and others .. thirty-four per cent. (34%)

The percentage allotted to each of the above categories may be modified subject to the following conditions:

(i) The increase in the category either of bordered greys or bleached shall not exceed twenty per cent (20%) of the quantity allotted to that category, and the increase in any other category shall not exceed ten per cent (10%) of the quantity allotted to that category:

category:

(ii) The quantity transferable from the category either of bordered greys or bleached shall not exceed twenty per cent (20%) of the quantity allotted to that category, and the quantity transferable from any other category shall not exceed ten per cent (10%) of the quantity allotted to that category; and

(iii) The total quota of cotton piece goods for any Piece Goods Year shall not be increased by the above modification of the quantity allotted to each category.

(e) The quota for the period intervening between the date on which the Indian Customs duty on cotton piece goods will be reduced to 50% and the commencement of the first Piece Goods Year.

(i) The quota of cotton piece goods for the period between the date on which the present Indian customs duty on cotton piece goods will be reduced to 50% and the

hundred million (400,000,000) yards.

(iv) In case the export of Indian raw cotton to Japan in any Cotton Year should exceed one million and five hundred thousand (1,500,000) bales, the quantity thus exported in excess of one million and five hundred thousand (1,500,000) bales shall be, for the purpose of determining the relevant quota of Japanese cotton piece goods, added to the quantity of raw cotton exported to Japan in the following Cotton Year.

(v) In respect of both cotton piece goods and raw cotton, re-exported quantity shall be deducted from the imported quantity.

(c) Two Half-Yearly Instalments of the Quota.

(i) A Piece Goods Year shall be divided into two half yearly periods, the first half-yearly period running from the 1st April to the 30th September and the second half-yearly period from the 1st October to the 31st March of the following year.

(ii) The quota for the first half-yearly period
shall

shall be two hundred million (200,000,000) yards.

(iii) The quota for the second half-yearly period shall be provisionally fixed at the quantity which will be derived by deducting two hundred million (200,000,000) yards from the yearly quota calculated on the basis of the estimated export of Indian raw cotton to Japan in the corresponding Cotton Year. The adjustment of the export of Japanese cotton piece goods to India shall be made by the end of the said period on the basis of the exact quantity of Indian raw cotton exported to Japan in the corresponding Cotton Year, subject to the rules of the allowances between periods.

(iv) A transfer from the quota of the first half-yearly period to the quota of the second half-yearly period shall be permitted up to a maximum of twenty million (20,000,000) yards.

From the second half-yearly period to the first
half-yearly

Piece Goods.

The quantity of Japanese cotton piece goods to be exported to India in the period of one year beginning the 1st April shall be limited within a quota which shall be fixed in accordance with the quantity of Indian raw cotton exported to Japan in the period of one year beginning the 1st January of the same year.

It is to be noted that the period of one year for the purpose of fixing the quota of Japanese cotton piece goods (or Piece Goods Year) shall be from the 1st April to the 31st March of the following year, while the period of one year for the purpose of calculating the quantity of Indian raw cotton exported to Japan (or Cotton Year) shall be from the 1st January to the 31st December.

(b) The Basic Quota and the Modification of the Basic Quota.

(i) The basic quota of Japanese cotton piece goods to be exported to India in a Piece Goods Year shall

be

be three hundred and twenty-five million (325,000,000) yards and it shall be linked with one million (1,000,000) bales of Indian raw cotton exported to Japan in the corresponding Cotton Year.

(ii) In case the export of Indian raw cotton to Japan in any Cotton Year should fall below one million (1,000,000) bales, the quota of Japanese cotton piece goods for the corresponding Piece Goods Year shall be determined by reducing the above basic quota at the rate of two million (2,000,000) yards for every ten thousand (10,000) bales of deficit.

(iii) In case, however, such export in any Cotton Year should exceed one million (1,000,000) bales, the quota of Japanese cotton piece goods for the corresponding Piece Goods Year shall be determined by increasing the above basic quota at the rate of one million and five hundred thousand (1,500,000) yards for every additional ten thousand (10,000) bales, provided that the quota should in no case exceed four

hundred

Japan and the adjustment of internal Japanese prices, and to limit such rates to what is necessary to correct the effects of the depreciation of the exchange value of the yen relative to the rupee on the duty-paid value of Japanese goods imported into India. The Government of India further undertake that no change in any such rate shall be made until it has been in force for at least five weeks.

Reciprocally, the Government of Japan shall have the right of imposing or varying special rates of customs duties similar to those to which reference has just been made, on articles, the produce or manufacture of India, under similar circumstances and subject to similar conditions, provided that such right should not accrue to the Government of Japan unless the exchange value of the rupee relative to the yen shall be depreciated below the value of .732 yen.

(4)

(4) CUSTOMS DUTIES ON JAPANESE COTTON PIECE GOODS IMPORTED INTO INDIA.

Without prejudice to the agreements concerning the most favoured nation treatment and the measures to correct the effects of exchange fluctuation, customs duties to be imposed by the Government of India on Japanese cotton piece goods should not exceed the following rates.

Duty on plain greys 50 per cent. ad valorem
or 5 1/4 annas per
pound.

Duty on others 50 per cent. ad valorem.

It is understood that the Government of India shall not impose on Japanese cotton piece goods other than plain greys a specific duty exceeding 5 1/4 annas per pound, subject to the agreement concerning the most favoured nation treatment

(5) IMPORTATION OF JAPANESE COTTON PIECE GOODS INTO INDIA.

(a) Calculation of the Quota of Japanese Cotton

Piece

in by the Indian Delegation.

(1) MOST FAVOURED NATION TREATMENT.

In respect of customs duties, Japan and India shall reciprocally accord the most favoured nation treatment to any article, the produce or manufacture of the other country.

(2) NEGOTIATIONS TO BE HELD CONCERNING THE MODIFICATION OF CUSTOMS TARIFF.

Subject to the reservation by both countries of the right to make such changes in their customs tariffs as may be necessary for the protection of their own interests, Japan and India agree that, should any modification of the customs tariff by either country result in the trade interests of the other being adversely affected in any appreciable measure, they shall, upon the request of the country so affected, enter into negotiations with the object of reconciling, as far as possible, the trade interests of the two countries.

(3)

(3) MEASURES TO CORRECT THE EFFECTS OF EXCHANGE FLUCTUATION.

Notwithstanding all other agreements that have been entered into, the Government of India shall have the right of imposing or varying from time to time special rates of customs duty on articles, the produce or manufacture of Japan, other or higher than those levied on similar articles, the produce or manufacture of any other country, at such rates as the Government of India may consider to be necessary to correct the effects of any variation of the exchange value of the yen relative to the rupee subsequent to the 31st December 1933.

In imposing or varying, or on being requested by the Government of Japan to vary, such special rates of customs duty, the Government of India undertake to give full consideration to relevant factors which tend to raise export prices of Japanese goods, such as the purchase by Japan of raw materials in markets outside

Japan

RECORD OF PROCEEDINGS OF A MEETING BETWEEN THE JAPANESE AND INDIAN REPRESENTATIVES ON THE 5TH JANUARY, 1934, AT THE GOVERNMENT OF INDIA SECRETARIAT, NEW DELHI, INDIA.

For Japan

His Excellency

Mr. Setzuzo Sawada,

His Imperial Majesty's Envoy
Extraordinary and Minister
Plenipotentiary.

Mr. Susumu Terao,

Director of the Bureau of
Foreign Trade, Department
of Commerce and Industry.

For India

The Hon'ble

Sir Joseph Bhore,

Member of the Executive Council,
Railways and
Commerce.

The Hon'ble

Sir Frank Noyce,

Member of the Executive Council,
Industries and
Labour.

Mr. Tetsuichiro Miyake,

- 2 -

Mr. Tetsuichiro Miyake,

Consul General.

His Excellency Mr. Sawada spoke as follows: -

"I am happy to state that agreement of views has been reached between the Japanese and Indian Delegations on all important problems relative to the Commercial relations between Japan and India, including: (1) the most favoured nation treatment to be accorded reciprocally to the goods of the two countries; (2) negotiations to be held concerning the modification of customs duties that may adversely affect the trade interests of the two countries; (3) the measures to be taken to correct the effects of the exchange fluctuation; (4) the duties applicable to Japanese cotton piece goods imported into India; (5) the quota to be applicable to such Japanese goods; and (6) the enforcement of the new agreement.

I take liberty to state my understanding of the agreement of views arrived at between the two Delegations on these problems, which I trust will be concurred

in

Embassy at Tokio, that the consignment be admitted pending the production of the relevant certificate.

- (5) The Government of India will communicate to the Japanese Consul General in India at intervals not exceeding one month the following details in respect of re-exports from India:-

- (a) the number of the certificate, if any, covering the goods re-exported; and
- (b) in respect of each such certificate, the linear yardage of each category re-exported.

2. Should any modification of the foregoing provisions become necessary, intimation thereof will duly be sent to the Government of Japan.

3. In agreeing to co-operate with the Japanese Government in their scheme for the regulation of exports of cotton piece-goods to India, the Government

of

of India wish to express the hope that the scheme will not, to any undue extent, disturb the normal distribution of exports from Japan to India.

I have the honour to be,

Sir,

Your obedient servant,

Joseph Bhore.

To

His Excellency Setsuzo Sawada,

Leader of the Japanese Delegation,

Maiden's Hotel, Delhi.

of raw cotton will be considered as the date of exportation of the cotton from India for the purpose of determining the cotton year to which such consignment belongs.

- (2) The Government of India will communicate to the Japanese Consul General in India within two weeks after the departure from its last port of call in India of a vessel carrying cotton to Japan the following particulars -
- (a) the name of the vessel;
 - (b) the date of export; and
 - (c) the number of bales of raw cotton exported to Japan.
- (3) Each consignment of Japanese cotton piece-goods imported into India should be accompanied by a certificate issued by the competent Japanese authority. Upon the importation into India of cotton piece-goods the Customs Officers in India will record, in respect of each separate consignment

consignment, the linear yardage of each category and the number of the certificate.

The certificate will be endorsed by the Customs Officers with the quantities of cotton piece-goods passed for clearance and will be sent to the appropriate Japanese Consul in India.

- (4) Japanese cotton piece-goods arriving at an Indian port without a covering certificate will be regarded as unauthorized exports and will not be admitted or included in the annual allotment, provided that, if by inadvertence the necessary certificate is not available on the arrival of a consignment at an Indian port, the Japanese Consular officials or other agents duly authorised in this behalf may issue a certificate or, alternatively, the Japanese Government may request, through the British Embassy

Your obedient servant,

S. Sawada

The Hon'ble Sir Joseph Bhore, K.C.S.I., K.C.I.E.,

C.B.E., I.C.S.,

Member, Commerce Department,

Government of India,

New Delhi.

Government of India.

Department of Commerce.

New Delhi, the 19th April 1934.

Sir,

I have the honour to acknowledge the receipt of your note, dated the 19th April 1934, in which you set forth the measures to be adopted by the Japanese Government for the regulation of the exports of cotton piece-goods from Japan to India. In this connection, I wish to inform you that the Government of India, while reserving the right to prohibit the importation into India of cotton piece-goods manufactured in Japan if such importation would be otherwise than in accordance with the provisions of the Articles of the Protocol referred to in your note, will put into force the following arrangements:-

- (1) The date of clearance from its last port of call of a vessel carrying a consignment of

2. For the purposes of these regulations the terms "cotton piece-goods", "bale of cotton" and "re-exports" will be interpreted in the following manner:-

- (a) The term "cotton piece-goods" means woven cotton fabrics which contain more than 90 per cent. of cotton and which are recognised as cotton piece-goods in usual trade practice. It is understood that any such fabric will not be assessable at any rate of duty higher than those chargeable on cotton piece-goods. Cotton fents, that is, bona fide remnants not exceeding 4 yards in length, will not be regarded as cotton piece-goods and will not be covered by certificates or included in the allotment.
- (b) The term "bale of cotton" will mean 392 lbs. net of raw cotton.
- (c) The re-exports of cotton piece-goods from India for any cotton year will be taken as

the

the figure of re-exports for the corresponding cotton piece-goods year, provided that for the period 8th January to 31st March 1934, the actual re-exports during that period will be taken for the purpose of deduction from the relevant allotment.

3. The Japanese Government do not consider that any evasion of the spirit of the Cotton Piece-goods Agreement is possible by the exportation of cotton piece-goods in widths greater than in accordance with the usual trade practice for the purpose of splitting after importation into India. If any such case is brought to their notice, they will take steps to prevent such evasions in future.

4. Should any modification be necessary in the regulations outlined above, due notice thereof will be given to the Government of India.

I have the honour to be,

Sir,

Your

should not be admitted or included in the annual allotment, provided that, if by inadvertence the necessary certificate is not available on the arrival of a consignment at an Indian port, the Japanese Consular officials or other agents duly authorised in this behalf may issue a certificate or, alternatively, the Japanese Government may request, through the British Embassy at Tokio, that the consignment be admitted pending the production of the relevant certificate.

- (6) Japanese cotton piece-goods manifested for transshipment at an Indian port to a foreign port will not be included in the allotment and no covering certificate will be issued in respect of such goods. In case such goods are not transshipped, they should only be admitted and included in the allotment on production of a proper certificate.

(7)

- (7) The Department of Commerce and Industry will communicate to the British Embassy at Tokio, for communication to the Government of India, within two weeks of the departure of any vessel carrying piece-goods to India -
- (a) the name of the vessel;
 - (b) the number of the certificate covering each consignment carried therein;
 - (c) the date of the bill of lading of each consignment; and
 - (d) the linear yardage of each category contained in each consignment.
- (8) The Japanese Government will similarly communicate to the British Embassy at Tokio, at the intervals not exceeding one month, the quantity of Indian raw cotton which has been re-exported from Japan on and after 1st January 1934.

2.

NOTES EXCHANGED BETWEEN THE CHIEF
DELEGATES.

Maiden's Hotel,
Delhi, 19th April, 1934.

Sir,

I have the honour to inform you that, as from the date on which the Protocol under negotiation will come into force, the Japanese Government will take such steps as may be requisite to regulate the exports of cotton piece-goods from Japan to India in accordance with the provisions of Articles 3 to 7 inclusive of the said Protocol regarding the importation of Japanese cotton piece-goods into India to be signed at London, and that the following provisions will be made operative for that purpose:-

- (1) Each consignment of cotton piece-goods will be covered by a certificate issued by the Department of Commerce and Industry or other organisation duly authorised in that behalf in accordance with the Departmental Regulations framed for that purpose. The certificate

will

- 2 -

will show -

- (a) the name and address of the exporter;
- (b) the linear yardage of each category; and
- (c) the month in which it is to be exported.
- (2) Each consignment must be exported in the month specified on the relevant certificate.
- (3) The date of the bill of lading covering a consignment will be regarded as the date of exportation from Japan for the purpose of determining the cotton piece-goods year in which a consignment has been exported.
- (4) As far as possible the certificate covering a consignment will be forwarded by the ship carrying such consignment for presentation to the Indian Customs authorities at the time of customs entry.
- (5) Japanese cotton piece-goods arriving at an Indian port without a covering certificate should be regarded as unauthorised exports and should

than 20 per cent. of the amount of such sub-allotment, and any other sub-allotment shall not be increased by more than 10 per cent. of the amount of such sub-allotment.

(3) The principles of the present Article shall apply also to quantities of cotton piece-goods exported from Japan to India under Article 5 in excess of the yearly allotments, as if such quantities were yearly allotments.

Article 8.

Nothing contained in the present Protocol shall be deemed to affect the rights of either High Contracting Party under Article 2 or Article 3 of the Convention regarding the Commercial Relations between Japan and India signed this day.

Article 9.

The present Protocol shall come into force simultaneously with the Convention regarding the
Commercial

Commercial Relations between Japan and India signed this day and shall remain in force until the thirty-first day of March, 1937.

Done at London, in duplicate, this
day of the month of
the ninth year of Showa, corresponding to the
day of , nineteen hundred and
thirty-four.

For Japan:

For India:

on the first day of January, 1934, and the first cotton piece-goods year on the first day of April, 1934.

Article 7.

(1) For the purposes of the present Protocol cotton piece-goods shall be divided into the four categories of -

- (1) plain greys,
- (2) bordered greys,
- (3) bleached (white) goods, and
- (4) coloured (printed, dyed or woven) goods;

and the allotment for any cotton piece-goods year shall be divided into sub-allotments among these four categories, consisting of portions of the allotment as follows:-

plain greys 45 per cent.,
bordered greys 13 per cent.,
bleached (white) goods . . . 8 per cent.,
coloured (printed, dyed or
woven) goods 34 per cent.;

and,

and, save as provided in paragraph (2), the export of cotton piece-goods in each category in any cotton piece-goods year shall be restricted to the said portions.

(2) Transfers may be made from one sub-allotment to another, subject to the following conditions:-

- (a) the allotment for any cotton piece-goods year shall not thereby be increased;
- (b) the amount transferred from a sub-allotment for bordered greys or from a sub-allotment for bleached (white) goods shall not exceed 20 per cent. of the amount of such sub-allotment, and the amount transferred from any other sub-allotment shall not exceed 10 per cent. of the amount of such sub-allotment; and
- (c) a sub-allotment for bordered greys or a sub-allotment for bleached (white) goods shall not be increased by more

than

for the first half of the following cotton piece-goods year shall be 200 million yards less such excess.

(2) The allotment of cotton piece-goods which may be exported from Japan to India during the second half of any cotton piece-goods year shall be the annual allotment for that year less 200 million yards;

Provided that, if the quantity exported from Japan to India in the first half of any cotton piece-goods year is less than 200 million yards as increased or diminished under Article 5, the allotment for the second half of that cotton piece-goods year shall include the quantity of the deficit up to a quantity not exceeding 20 million yards.

Article 5.

Notwithstanding anything hereinbefore contained -

- (a) if less than the allotment for any cotton piece-goods year is exported from Japan to India in that year; the quantity of the deficit up to a quantity not exceeding 20 million yards may be exported
- in

in the first half of the following cotton piece-goods year in addition to the allotment for that half year; and

- (b) a quantity not exceeding 20 million yards of cotton piece-goods may be exported from Japan to India in any cotton piece-goods year, other than the cotton piece-goods year in which the present Protocol terminates, in addition to the allotment for that year; but such excess shall be deducted from the allotment for the first half of the following cotton piece-goods year.

Article 6.

If the present Protocol should come into effect at any time other than the beginning of a cotton piece-goods year, the first cotton year shall, for the purposes of the Protocol, be deemed to begin

on

million yards.

(2) If the exports of raw cotton from India to Japan in any cotton year are less than 1 million bales, the allotment of cotton piece-goods for the corresponding cotton piece-goods year shall be the basic allotment diminished by 2 million yards for every 10,000 bales of the deficit or for any residual quantity thereof exceeding 5,000 bales.

(3) If the exports of raw cotton from India to Japan in any cotton year exceed 1 million bales, the allotment of cotton piece-goods for the corresponding cotton piece-goods year shall be the basic allotment increased by $1\frac{1}{2}$ million yards for every 10,000 bales of the excess or for any residual quantity thereof exceeding 5,000 bales;

Provided that the allotment of cotton piece-goods shall not in any case exceed 400 million yards for any cotton piece-goods year.

(4) If the exports of raw cotton from India to

Japan

Japan in any cotton year exceed $1\frac{1}{2}$ million bales, the excess shall be added to the quantity of raw cotton exported from India to Japan in the following cotton year for the purpose of determining the allotment of cotton piece-goods for the cotton piece-goods year corresponding to such following cotton year.

(5) For the purposes of the calculations under the present Article and under Articles 4, 5, 6 and 7, any raw cotton or cotton piece-goods which have been imported and then re-exported shall be excluded.

Article 4.

(1) The allotment of cotton piece-goods which may be exported from Japan to India during the first half of any cotton piece-goods year shall be 200 million yards;

Provided that if in the first half of any cotton piece-goods year the exports of cotton piece-goods from Japan to India exceed the allotment for the whole of that cotton piece-goods year, the allotment

for

DRAFT PROTOCOL.

At the moment of proceeding this day to the signature of the Convention regarding the Commercial Relations between Japan and India the undersigned Plenipotentiaries, being duly authorized to that effect, have agreed as follows regarding the importation of Japanese cotton piece-goods into India:-

Article 1.

For the purposes of the present Protocol,

the expression "cotton year" means a year

beginning on the first day of January;

the expression "cotton piece-goods year"

means a year beginning on the first

day of April;

a cotton piece-goods year and the cotton year

in which that cotton piece-goods year

begins are referred to as "corresponding";

and

the expression "yard" means a linear yard.

Article 2.

Article 2.

The customs duties to be imposed on importation into India of cotton piece-goods manufactured in Japan shall not exceed the following rates:-

(a) plain greys-50 per cent. ad valorem

or 5 1/4 annas per pound, whichever is higher;

(b) others-50 per cent. ad valorem.

If hereafter the Government of India should decide to impose a specific duty on cotton piece-goods other than plain greys, it will not impose on such piece-goods, being the manufacture of Japan, a specific duty exceeding 5 1/4 annas per pound.

Article 3.

(1) If in any cotton year 1 million bales of raw cotton are exported from India to Japan, the quantity of cotton piece-goods which may be exported from Japan to India in the corresponding cotton piece-goods year shall be a basic allotment of 325

million

Article 5.

The present Convention shall be ratified. The Instruments of Ratification shall be exchanged in London as soon as possible. The date on which an Instrument of Ratification has been completed will be communicated to the other High Contracting Party through diplomatic channels, and the present Convention shall enter into force, in advance of the exchange of the Instruments of Ratification, as from the date on which the later of the two communications required under the present Article shall have been made.

Article 6.

The present Convention shall remain in force until the thirty-first day of March, 1937.

In case neither of the High Contracting Parties shall have given notice to the other six months before the said date of his intention to terminate the Convention, it shall continue operative until

the

the expiration of six months from the date on which either of the High Contracting Parties shall have given notice of termination to the other.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed the present Convention and have affixed thereto their seals.

Done at London, in duplicate, this
day of the month of the ninth year of
Showa, corresponding to the day
of , nineteen hundred and thirty-four.

For Japan:

For India:

manufactured in Japan and imported into India.

Reciprocally, the Government of Japan shall have the right of imposing or modifying from time to time special customs duties on the importation into Japan of articles produced or manufactured in India, other or higher than those levied on like articles produced or manufactured in any other foreign country, at such rates as the Government of Japan may consider to be necessary to correct the effects of any variation of the exchange value of the rupee relative to the yen; provided that such right shall not accrue to the Government of Japan so long as the exchange value of the rupee relative to the yen is not below the value of 0.732 yen, and that no modification of any such rate shall be made until it has been in force for at least five weeks.

In imposing or modifying or on being requested by the Government of India to modify such special customs duties, the Government of Japan shall give full consideration to all relevant factors which
tend

tend to raise the export prices of articles produced or manufactured in India, and shall limit the rates of such duties to what is necessary to correct the effects of any variation of the exchange value of the rupee below 0.732 yen on the duty-paid value of articles produced or manufactured in India and imported into Japan.

Article 4.

While reserving to the Government of Japan and to the Government of India the right to make such changes in their customs tariffs as may be necessary for the protection of their own interests, the High Contracting Parties agree that when any modification of its customs tariff by either country results in the trade interests of the other being adversely affected in any appreciable measure, the Governments of the two countries shall, upon the request of the Government of the country adversely affected, forthwith enter into negotiations with the object of reconciling as far as possible the interests of the two countries.

Article 5.

His Majesty the King of Great Britain, Ireland and British Dominions beyond the Seas, Emperor of India, British India together with States in India which by treaty with His Majesty the King or otherwise may be entitled to be placed with regard to the stipulations of the present Convention on the same footing as British India (such territories being hereinafter referred to as India).

Article 2.

Articles produced or manufactured in the territories of one of the High Contracting Parties, imported into the territories of the other, from whatever place arriving, shall not be subjected to duties or charges other or higher than those paid on like articles produced or manufactured in any other foreign country.

Article 3.

Notwithstanding anything contained in the present Convention, the Government of India shall have the right of imposing or modifying from time to time
special

special customs duties on the importation into India of articles produced or manufactured in Japan, other or higher than those levied on like articles produced or manufactured in any other foreign country, at such rates as the Government of India may consider to be necessary to correct the effects of any variation of the exchange value of the yen relative to the rupee subsequent to the thirty-first day of December, 1933; provided that no modification in any such rate shall be made until it has been in force for at least five weeks.

In imposing or modifying or on being requested by the Government of Japan to modify such special customs duties, the Government of India shall give full consideration to all relevant factors which tend to raise the export prices of articles produced or manufactured in Japan, and shall limit the rates of such duties to what is necessary to correct the effects of any variation of the exchange value of the yen relative to the rupee on the duty-paid value of articles produced or
manufactured

DRAFT CONVENTION REGARDING THE COMMERCIAL
RELATIONS BETWEEN JAPAN AND INDIA.

His Majesty the Emperor of Japan and His Majesty the King of Great Britain, Ireland and British Dominions beyond the Seas, Emperor of India, desiring to facilitate trade and commerce between Japan and India, have decided to conclude a Convention and for this purpose have accordingly appointed as their Plenipotentiaries: His Majesty the Emperor of Japan, AB: His Majesty the King of Great Britain, Ireland and British Dominions beyond the Seas, Emperor of India, for India, CD: who having communicated their full powers found in good and due form have agreed as follows:-

Article 1.

The territories to which the present Convention applies are, on the part of His Majesty the Emperor of Japan, all the territories and possessions belonging to or administered by Japan (such territories being hereinafter referred to as Japan); and on the part of

His